

# 第2次 総社市 総合計画

## そうじゃ 総合戦略

### 岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～

総社市流施策で福祉文化を全国トップレベルにし、  
岡山・倉敷を“質”で超える  
新しい総社を創造する



総社市

## ■ 総社市章



「そ」の字を模様化したもので、上部は、総社宮の千木とカツオ（鯉）木を象徴し、下部は市民の和と団結、円満な市政と堅実な発展を希うものである。

平成 17 年 3 月 22 日制定

## ■ 総社市民憲章

わたくしたちは、美しい自然と豊かな吉備文化にはぐくまれている総社市民です。このことに誇りと責任をもち明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

- 1 郷土を大切に  
美しい環境を まもりましょう。
- 1 生涯学び  
明るい家庭を きずきましょう。
- 1 たがいに助け合い  
あたたかいまちを つくりましょう。

平成 18 年 3 月 22 日制定



総社市民憲章のシンボルマーク

## ■ 市の花・木・鳥



市の花／れんげ



市の木／もみじ



市の鳥／タンチョウ

平成 18 年 3 月 22 日制定



## 第2次総社市総合計画あいさつ

現在、日本全国において、人口減少、少子・高齢化社会が進む中、それぞれの自治体が生き残りをかけ、大変厳しい戦いを繰り広げています。

平成27年国勢調査の速報値によりますと、岡山県全体の人口が約23,000人も減少する中で、総社市は平成22年に比べ687人の人口増加となりました。増加率で言えば岡山市に次いで2番目ということで、岡山県下27市町村中、4市町のみ人口増というなかで、総社市は人口が伸びるというステージに躍り出ました。

私は、これまで「市民が考え市民が実行するまち」として、自立する総社市の実現に向け取り組んでまいりました。そして、「子育て王国そうじゃ」の推進による次世代への支援、雪舟くんの運行、障がい者千人雇用など、支援を必要とする方々への施策、企業誘致の促進による雇用の創出をはじめとした総社市流の各種政策により、雇用が増え、人口の流入が進み、総社市は自立できるまちとして成長してまいりました。

今後も、人口増加による発展を続け、市民が望ましい姿として重視している「福祉を重視したまち」を目指すためには、医療体制の充実や子どもから高齢者までが安心して暮らせるまちづくりとともに、福祉文化を全国トップレベルにし、“生活の質”の高さにおいて、岡山市・倉敷市と並び、超えていけるよう先駆的に取り組んでいくことが大切です。

総社市の様々な良さと優しさを基本として、これまで積み上げてきたまちづくりのうえに、市街地への都市機能の集約と再活性化を行い、さらには地域拠点整備や地域拠点間のネットワークづくりによる新たなランドデザインを描き、目指す都市像「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現に向けて、市民が一丸となり、みんなで取り組んでいきましょう。

多くの市民の皆様の声の結晶である第2次総社市総合計画（総社市総合戦略）にちりばめたメニューをスピード感をもって実行し、これまでの総社市流政策による人口増の流れを止めることなく、さらに力強いものとし、これからも挑戦を続けてまいります。

本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提案をいただきました市民の皆様、熱心にご審議いただきました総合計画審議会委員各位、また、格段のご指導、ご助言をいただきました市議会議員各位に、深く感謝申し上げます。

この計画の実現に向け、今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、ごあいさついたします。

平成28年3月

総社市長  
民岡聡一

## 第2次総社市総合計画 目次

### 計画策定にあたって

- 1 計画の趣旨..... 2
- 2 計画の構成と期間..... 3

### 基本構想 ..... 4

- 1 目指す都市像..... 6
- 2 3つの基本理念..... 7
- 3 5つの基本目標..... 8
- 4 人口ビジョン..... 9
- 5 土地利用方針..... 39
- 6 評価・検証..... 43

### 基本計画 ..... 44

- 1 だれもが住みたくなる総社..... 46
  - 1) 子育て
  - 2) 社会保障（高齢者・障がい者など）
  - 3) 住宅・生活基盤
  - 4) 移住・定住促進
  - 5) 防災・消防
- 2 だれもが働きたくなる総社..... 53
  - 1) 雇用
  - 2) 農林業
  - 3) 商工業・物流
- 3 だれもが学びたくなる総社..... 57
  - 1) 学校・幼児教育
  - 2) 家庭教育
  - 3) スポーツ・文化・生涯学習
- 4 だれもが訪れたくなる総社..... 61
  - 1) 観光
  - 2) 都市・社会基盤
  - 3) 自然・環境
- 5 だれもが集いたくなる総社..... 65
  - 1) 市民参加
  - 2) 広域連携
  - 3) 市役所

### 資料編 ..... 69





# 1 計画の趣旨

総社市は、平成17年3月22日、総社市、山手村、清音村の1市2村による新設合併により誕生しました。本市では、合併にあたり策定された「新市まちづくり計画」による取組を実施し、速やかな3市村の一体化の促進と地域の均衡ある発展を図るとともに、福祉政策をはじめとした独自性のあるまちづくりを進めてきました。そして、新市誕生からの10年の間、行政主導ではなく、市民が考え、市民が行動する総社市流のまちづくりにより、人口が増えるまちへ転換してきました。

今後も、人口減少・少子高齢社会の到来などの課題を克服し、さらに発展を目指し、10年後の本市が、総社市民みんなの誇れるまちとなるよう取り組んでいく必要があります。

これからの新たなまちづくりに向け、困っている仲間を支えることができる優しいまち、子どもたちが豊かに育ち、笑顔があふれ、安心して暮らすことができるまち、そして、都市機能が充実し、人が訪れ、住み、集いたくなるまちとなるよう、総社市がもつ自然や歴史・文化、地勢などの特徴を活かし、さらなる市勢の発展を図るため「第2次総社市総合計画」を策定しました。

計画策定にあたっては、第1次総社市総合計画の達成状況を検証するとともに、できるだけ市民みんなで作り上げるため、2,000人を対象とした市民アンケートに加え、中学生や高校生にもアンケートを実施。また、幅広く意見交換を行うため、市内全域の7会場において「ガラス張り公開市長室」を開催しました。

また、将来の総社市を担う若者の意見を聞くため、岡山県立大学の学生との懇談会を行うとともに、子育て世代の女性や障がい者や障がい児の親の会、障がい者を支える関係者、市民団体や企業、労働者、自由枠交付金地域づくり協議会、学校園長、外国人住民など数多くの意見交換会を実施しました。さらに総社市の良さを客観的な立場でご意見をいただくため、総社市の出身や総社市にゆかりがあり、関東地域で活躍されている方などで組織する在京「総社の会」の皆様からもアドバイスをいただくなど、約1,400人の幅広い年齢層の皆様や各種団体から数多くの意見をいただけてきました。

そうして集まった提案や意見などをもとに、市民の関係団体や有識者など産学官からなる従来の「総合計画審議会」に、金融機関や労働関係団体、報道関係者から参画していただき、より様々な知見、観点から審議を進めてきました。そして、策定に係る業務は、業者への委託ではなく、総社市においてすべて手作りで実施することとし、総社市民による総社市民のための計画として策定作業を行うこととしました。

第2次総社市総合計画は、これらの多くの市民の生の声を反映させた計画とし、計画の基本理念や基本計画などは、子どもから大人まですべての市民が同じ目標や課題を共有できるよう、できるだけ親しみやすい言葉で構成しています。





## 2 計画の構成と期間

「第2次総社市総合計画」は、次の「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成されています。

### ○基本構想

平成37年度を目標年次として、目指す都市像を定め、実現するための基本的な考え方と基本施策の方向（施策の体系）を示すものです。

また、今後の人口減少・少子高齢社会に対応し、人口減少を克服するとともに増加や維持を図るべく実効性のある対策を講じるため、人口ビジョンによる分析を行います。

さらに、今後の社会経済情勢の変化に対応するため、効率的で均衡のとれた土地利用を図り、自然と市民生活、産業活動が融合できるまちづくりを行います。

### ○基本計画

平成28年度から平成32年度までの5年間の前期基本計画期間とし、基本構想に定めた都市像を実現していくための重点施策等を示すものです。

また、重点施策については、国において平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、国が長期的ビジョンとして定める「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、本市が人口減少問題に対応し、持続的な発展を続けるための「総合戦略」として位置づけます。

### ○実施計画

基本計画に定めた「重点施策」等を実行する施策・事業について、今後の具体的な実施内容を示すものです。計画期間は3年間とし、社会経済情勢の変化に対応できるよう、1年ごとに見直しを行います。

基本構想の将来都市像を実現するために基本目標を反映させた具体的な事業計画であり、事業スケジュールや今後の見通しを立てるとともに、中長期的な財政計画を踏まえた将来を見越した財政運営とも連動し、予算を優先的に配分するなど、予算編成の基礎となるものです。



## 総合計画ってなに？

総合計画は、今後10年間の総社市をどのように創っていくのか、その方向性を描いたまちづくりの指針となるものです。この計画は、どのようなまちを目指すかを示した基本構想（まちの将来イメージ）と、実現するために、何に取り組んでいくかを表した基本計画（具体的な計画）で組み立てられています。

## 第2次総社市総合計画



基

本

構

想





# はじめに

総社市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の県下の2大都市に隣接、西部は井原市及び矢掛町に、北部は高梁市及び吉備中央町に接しています。

総面積は211.9km<sup>2</sup>で、市内中心部を北から南に、岡山県の三大河川のひとつである高梁川が貫流しています。年平均気温は16.5℃前後、雨量は年間1,000mm前後で、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候です。

かつて、古代吉備の国の中心として栄えた地域であり、縄文時代以前から人々が生活していた形跡が見られます。古墳時代には吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる作山古墳や一丁ぐろ古墳群など数多くの古墳が残されています。

飛鳥・奈良時代には、備中の国府が置かれ、国分寺、国分尼寺も配置され、備中の国の政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代には、備中国内の神々を合祀した総社宮が建てられました。総社市の名称はこれに由来しています。

鎌倉時代以降は、地方政治の町から山陽道や高梁川の水運を生かした、門前町、宿場町的性格に様変わりするとともに、豊かな農村地域としても発展しました。江戸時代には、岡山藩や足守藩など複数の藩領や幕府領など複雑な統治形態となっていました。

高度成長期の昭和40年代頃からは、県南工業地帯の発展に伴い、宅地開発が進むとともに、自動車産業を中心とした内陸工業も発展しています。

これまで、歴史に培われた吉備文化と、高梁川の恵みをはじめとする豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市としての発展をみせています。さらに岡山空港や高速道路、市内に7つの駅がある鉄道などの広域交通網の充実や、岡山市、倉敷市に隣接している地理的条件に優れていることから、物流や製造業による企業進出が相継ぎ、経済的発展とあわせて人口が増加しています。

本市は、これらの文化・歴史的背景と地勢、交通条件、豊かな観光資源、自然環境、温暖な気候に恵まれるとともに、地震、台風などの自然災害が少なく、他市にはない多くの魅力と大きな強みがあるまちです。





# 1 目指す都市像

## 岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～

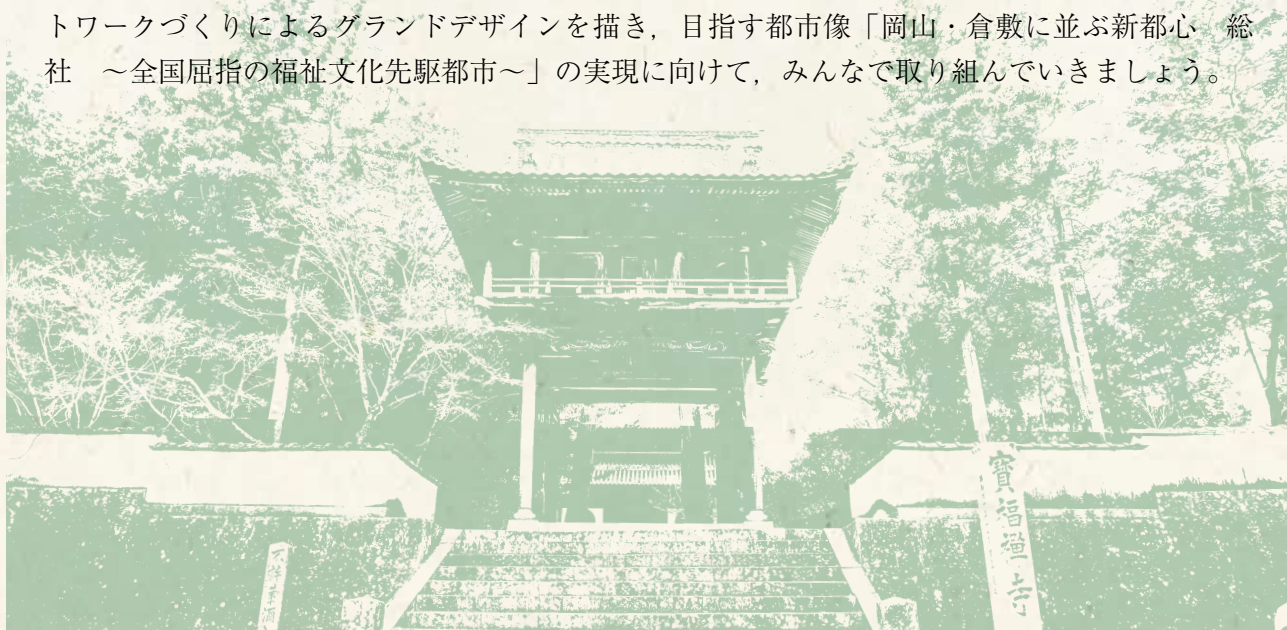
総社市は、本市ならではの強みを生かすとともに、これまで支援を必要としている市民や地域に配慮した総社市流の独自政策を実施してきました。

「子育て王国そうじゃ」を掲げた子育て施策の推進、予約型乗合タクシー「雪舟くん」の運行、「障がい者千人雇用」や、「地食べ」による小規模農家の活性化、少子高齢化が急速化している昭和地区の「英語特区」と定住助成制度の実施による地域再生など、総社市流の政策は市民に限りなく優しく、福祉と連結した事業を進めてきました。

これらの「福祉を重視」した政策に、岡山県南の好立地を生かし、続々と企業の誘致を成功させたことにより、人口が増え、出生数も増加する市として、岡山県下有数の発展を続けています。

岡山県下 15 市では、岡山市、倉敷市、総社市のみが人口が増加しており、隣接している 3 市で岡山県の人口の約 65% を占める状況となっていることから、今後も人口が集中することが見込まれています。総社市は、今後も市の発展のために両市との連携や協働を図ることが必要不可欠となっています。両市に人口規模では敵いませんが、人口増加による発展を続け、市民が望ましい姿として重視している「福祉を重視したまち」を目指すためには、医療体制の充実や子どもから高齢者までが安心して暮らせるとともに、福祉文化を全国トップレベルにし、“生活の質”の高さにおいて、岡山市・倉敷市と並び、超えていけるよう先駆的に取り組んでいくことが大切です。

総社市の様々な良さと優しさを基本として、これまで積み上げてきたまちづくりのうえに、市街地への都市機能の集約と再活性化を行い、さらには新たな地域拠点整備や地域拠点間のネットワークづくりによるグランドデザインを描き、目指す都市像「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現に向けて、みんなで取り組んでいきましょう。





## 2 3つの基本理念

目指す都市像である「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現のためには、支援を必要とするすべての市民（仲間）を優しく支えることが最も重要です。

そうした優しさをもって、子どもや新しく仲間を増やしていく。そして、市民はもとより、岡山市、倉敷市など周辺の仲間と力を合わせていくことが大切です。

このため、市民が最も重視する、支援を必要とするすべての人に優しい福祉のまちづくりを基本に、定住や子育てなどの人口増加や市民みんなで協働して地域を作り上げていくため、「困っている仲間を支えよう!」「子どもと仲間を増やそう!」「仲間と力を合わせよう!」の3つの基本理念を掲げます。

### ○困っている仲間を支えよう!

総社市では、子どもから高齢者に至るまで、交通弱者をはじめとした支援が必要な人が、地域の中で、安心して自分らしく暮らせるよう、福祉を重視したまちづくりを引き続き行っています。

これまでに取り組んできた支援策を検証し、改善を重ね、よりよいものへと発展させるとともに、さらに高齢者が安心して暮らせる施策や医療体制の充実を進めていきます。

みんなでどんなときにも人にやさしく、支援が必要な人を支え合うまちづくりに取り組んでいきましょう。

### ○子どもと仲間を増やそう!

現在、岡山県南の好立地を生かした企業誘致による雇用の確保や都市基盤整備により、人口が増え、出生数も増加する市として、岡山県下有数の発展を続けています。

今後、さらなる雇用創出を行うとともに、若者の就職・定着や働く希望をもつ女性の夢をかなえるなど、雇用と労働力の安定した好循環をつくり出し、人口増に向けた新しい人の流れをつくっていきましょう。

また、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるためには、安心して出産・子育てができるようサポートしていくことが必要です。サポートを通じて若者が地域に根付き、子どもが増え、仲間が増え、活気あふれるまちづくりの好循環を生み出すため、一致団結して推進していきましょう。

### ○仲間と力を合わせよう!

これまでも、市内の小中学校区等の地域づくり協議会による自由枠交付金制度の実施など、総社市流の政策により、市民が自ら考え行動する地域づくりが行われてきました。今後も、市民みんなが自ら考え、一体となり地域課題を克服し、時代にあった自由度の高いまちづくりができるよう力を合わせていきましょう。

また、地域づくりや防災など住民同士が協働し、オール総社で安心な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携、さらには近隣自治体との連携を図り、つながる力による課題解決や圏域の飛躍、郷土に誇りをもつことができるまちづくりを推進していきましょう。

# 3 5つの基本目標



目指す都市像の実現のため、3つの基本理念を基に子育て世帯や若者、高齢者や障がい者などすべての市民が、自ら考え、思い、実行していくことが大切です。もっとがんばりたいと思ったことや、悩んだり、困ったりしていることを、みんなで共有し、解決策を一生懸命考え、みんなで支え合えるような誰にもやさしいまち「総社」を目指します。

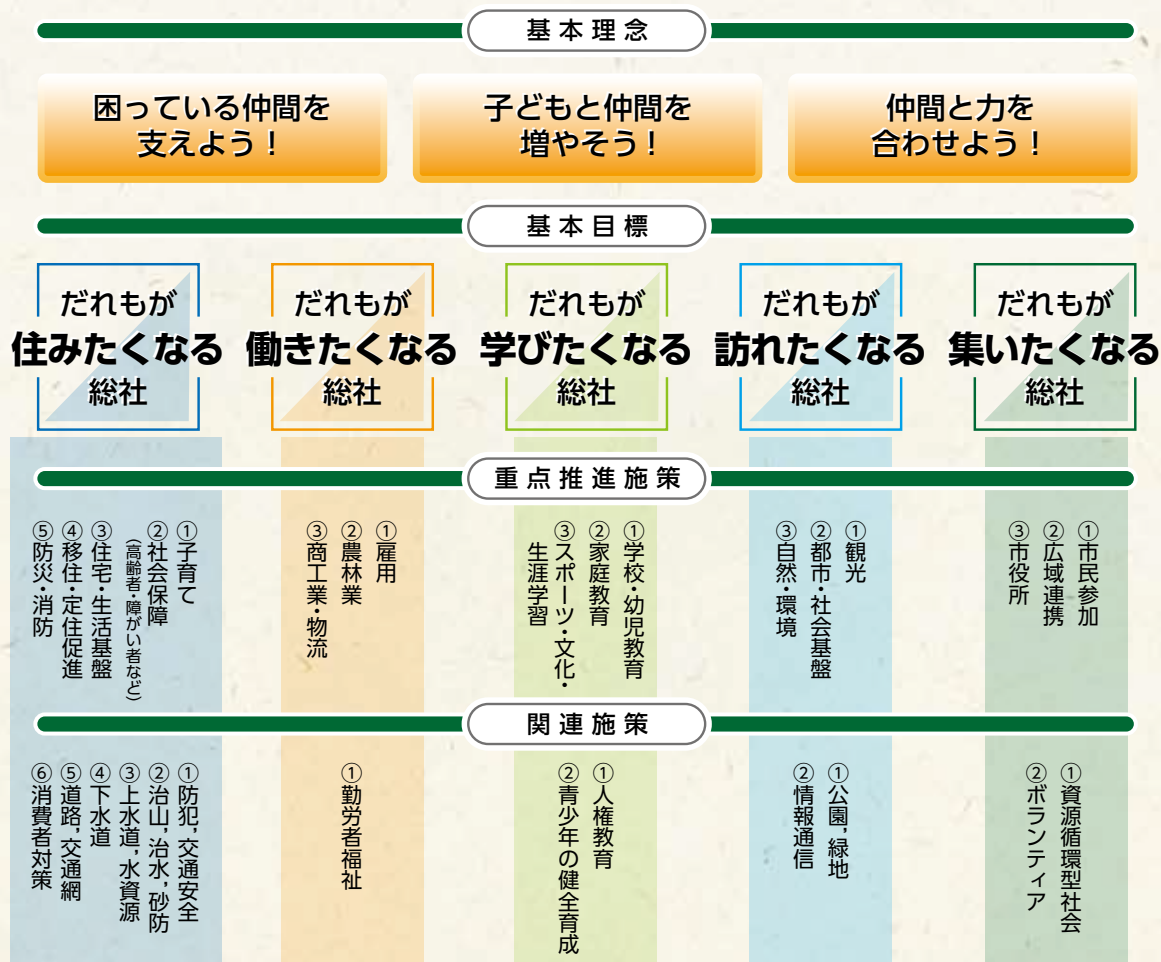
市民ひとりひとりが、受身ではなく、自発的に何かをしていくまちづくりを目指すため、「だれもが住みたくなる総社」「だれもが働きたくなる総社」「だれもが学びたくなる総社」「だれもが訪れたくなる総社」「だれもが集いたくなる総社」の5つの基本目標を定め、市民憲章のとおり、総社市民として誇りと責任をもち、明るく豊かなまちをつくれるよう、みんなで実行していきましょう。

## 施策の体系

目指す都市像

## 岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社

～全国屈指の福祉文化先駆都市～





## 4 人口ビジョン

我が国では、平成 26（2014）年 12 月に策定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」により、平成 20 年（2008）年からの人口減少が加速度的に地方から進み、都心部へと広がりを見せ、深刻化していく全国的な経済社会への影響と、この問題に対する今後の取り組むべき将来の方向が提示されました。

岡山県においては平成 17（2005）年の約 196 万人をピークに人口が減少していますが、総社市では出生者数が死亡者数を下回る「自然動態の減少」より、市内への転入者が市外への転出者を超える「社会動態の増加」が上回り、人口微増の傾向にあります。しかしながら、このまま手をこまねいたままでは生産年齢人口の減少、合計特殊出生率の低下など、将来的には人口減少に転じ、市民の生活にとって重大な影響を与えます。

この人口ビジョンは、総社市における人口の現状を分析し、新たな総合計画とともに目指すべき全国屈指の福祉文化先駆都市に向かって、市民みんなが現状を理解し、人口減少問題の克服や企業誘致による雇用拡大、土地利用の方向性など、目標に向かって自ら考え実行できるまちづくりを目的としています。

### I 総社市の人口の現状と分析

#### 1. 人口動向分析

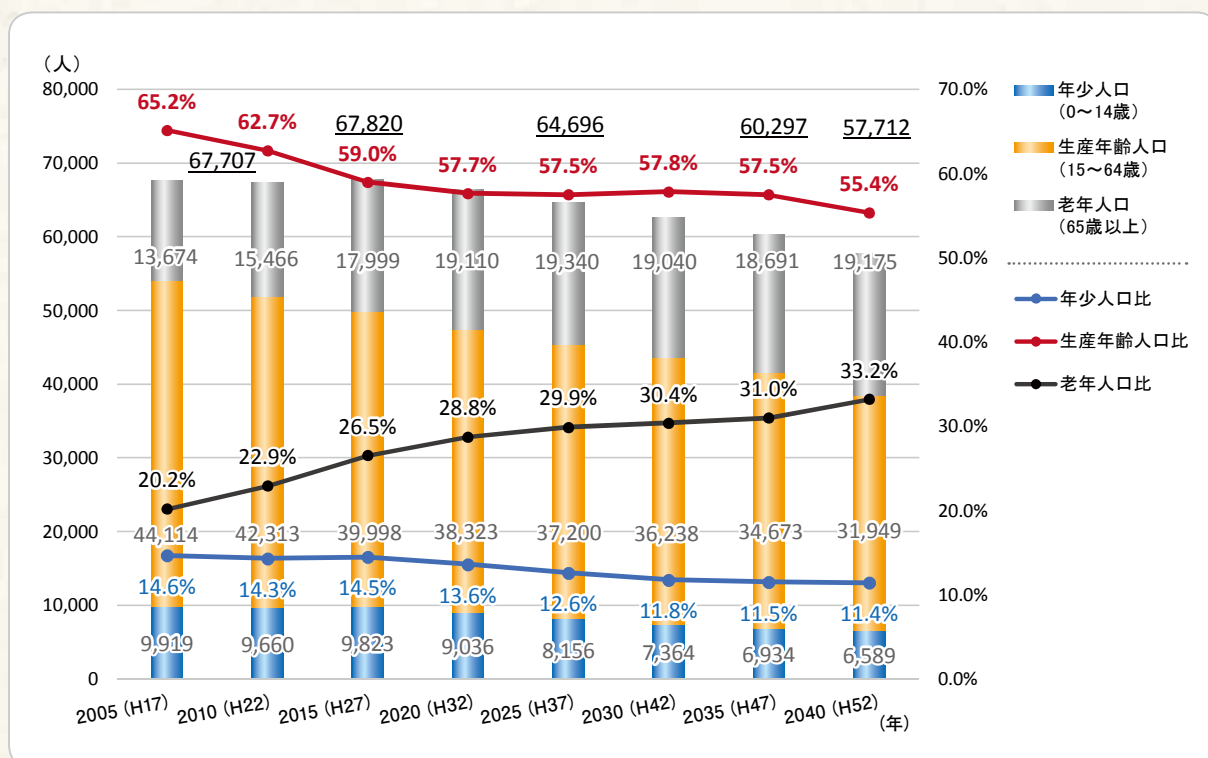
##### （1）人口の推移と将来の見通し

岡山県全体では平成 17（2005）年をピークに減少しています。総社市の住民基本台帳における人口は、平成 20（2008）年の 68,065 人をピークに一時減少しましたが、平成 23（2011）年の 67,306 人から平成 27（2015）年には 67,820 人と増加しています。

県内で人口が増加している市は、ここ数年では、岡山市と倉敷市、総社市の 3 市のみです。

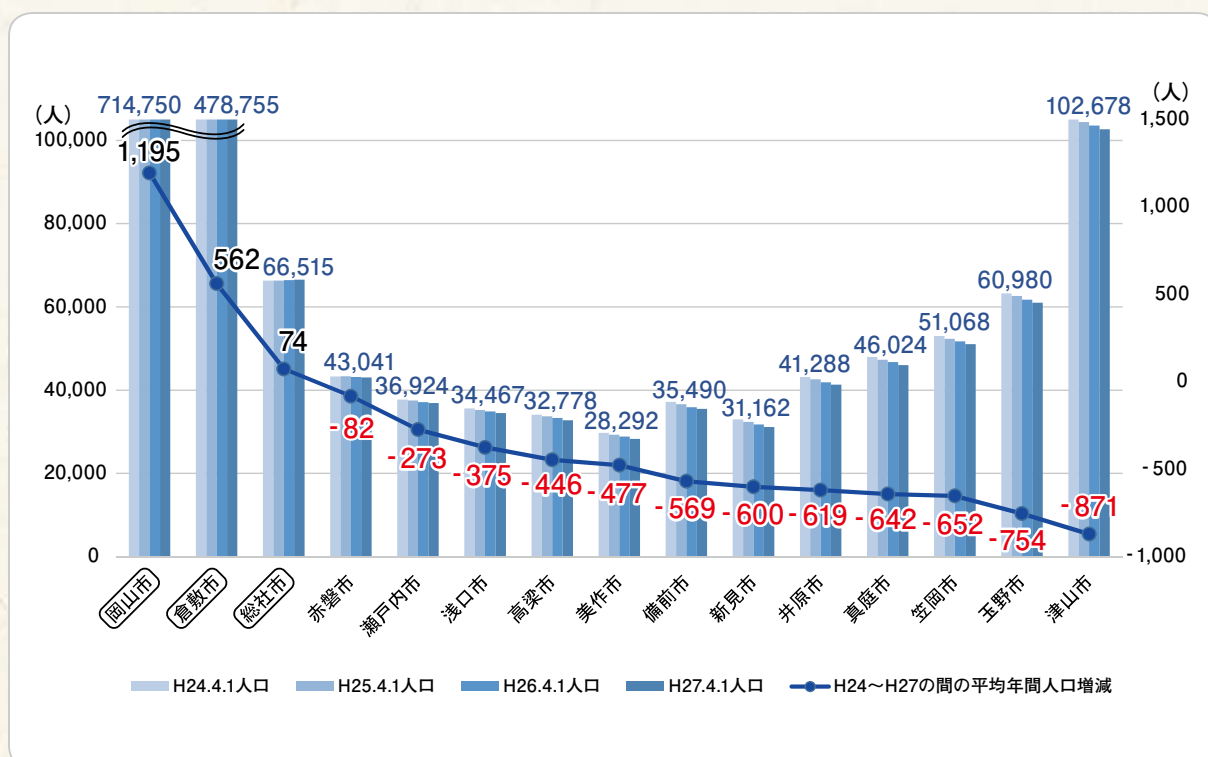
国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）によると、国勢調査の人口では平成 52（2040）年には 57,712 人になると推計され、年齢構成を比較すると、年少人口（14 歳以下）の割合が少なく、生産年齢人口（15 歳～64 歳）と老年人口（65 歳以上）の割合が等しくなるように近づいています。

## 社人研による総社市の人口推移予測（2005～2040年）



資料：住民基本台帳の実績と社人研仮定値により算出した人口推移

## 県内各市の人口増減状況



資料：岡山県毎月流動人口調査



## 基本構想

各小学校区別で見ていくと、都市計画区域である中心部と岡山市、倉敷市に隣接した東部地域は人口が増加しています。その反面、高梁川以西の地域や昭和地区、池田地区といった北部地域、東部地域の阿曾地区については、少子高齢化が進み、地域の担い手不足や1学年10人未満の小学校が出現してきています。この市内における地域間の人口格差は、今後さらに深刻化していくため、地域の特色を生かした施策を講じていかなければなりません。

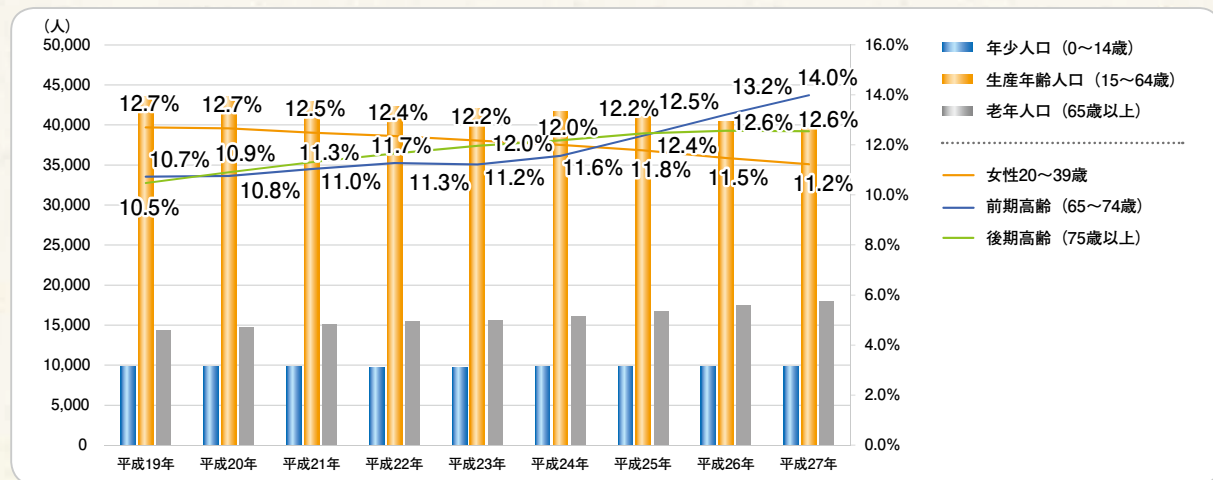
## 小学校区別の人口動態推移

資料：政策調整課

### 全 地 区

高齢化率 26.5%

|                | 平成19年  | 平成20年  | 平成21年  | 平成22年  | 平成23年  | 平成24年  | 平成25年  | 平成26年  | 平成27年  |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年少人口（0～14歳）    | 9,842  | 9,787  | 9,780  | 9,660  | 9,663  | 9,797  | 9,805  | 9,797  | 9,823  |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 43,587 | 43,526 | 42,891 | 42,312 | 42,045 | 41,737 | 40,992 | 40,474 | 39,998 |
| 老年人口（65歳以上）    | 14,380 | 14,752 | 15,163 | 15,466 | 15,598 | 16,046 | 16,780 | 17,460 | 17,999 |
| 合計             | 67,809 | 68,065 | 67,834 | 67,438 | 67,306 | 67,580 | 67,577 | 67,731 | 67,820 |
| 前年増減           |        | 256    | -231   | -396   | -132   | 274    | -3     | 154    | 89     |
| 出生数            | -      | 570    | 572    | 584    | 547    | 590    | 560    | 563    | 564    |
| 小学校生徒数         | 3,962  | 3,995  | 4,005  | 4,013  | 3,965  | 3,989  | 3,954  | 3,968  | 3,933  |
| 女性20～39歳       | 12.7%  | 12.7%  | 12.5%  | 12.4%  | 12.2%  | 12.0%  | 11.8%  | 11.5%  | 11.2%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 10.7%  | 10.8%  | 11.0%  | 11.3%  | 11.2%  | 11.6%  | 12.4%  | 13.2%  | 14.0%  |
| 後期高齢（75歳以上）    | 10.5%  | 10.9%  | 11.3%  | 11.7%  | 12.0%  | 12.2%  | 12.5%  | 12.6%  | 12.6%  |



※各年3月31日現在で、学区が大字で分かれている地区は平成27年3月31日の人口比で按分したもの

※割合(%)表記は、端数処理により、各種計画と比較して若干の誤差が生じています。

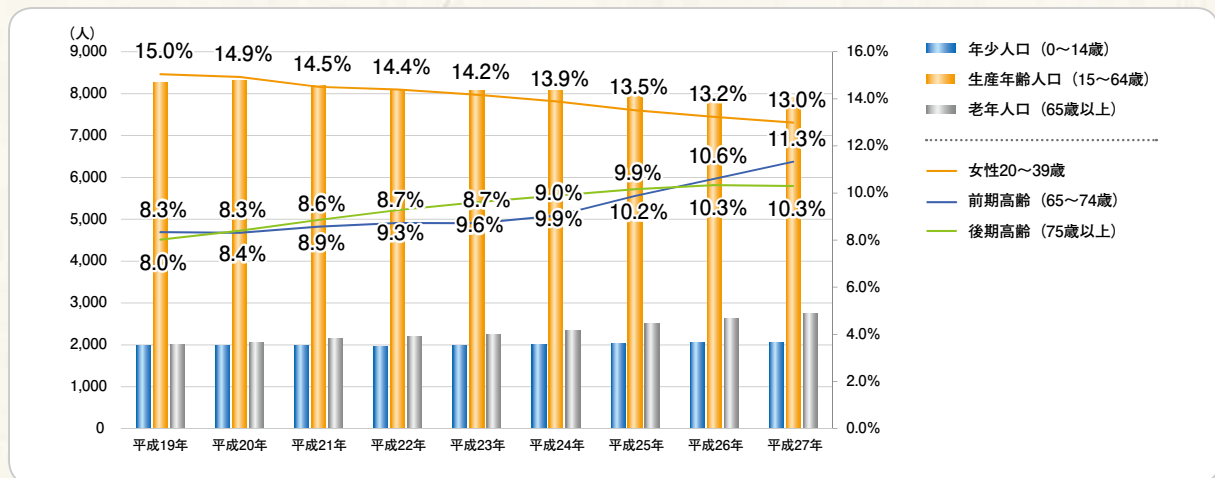
※人口は当年3月31日、小学校生徒数は5月1日時点。出生数は当年3月31日を年度末として各年度の累計を計上。



## 総社小学校区

高齢化率 21.6%

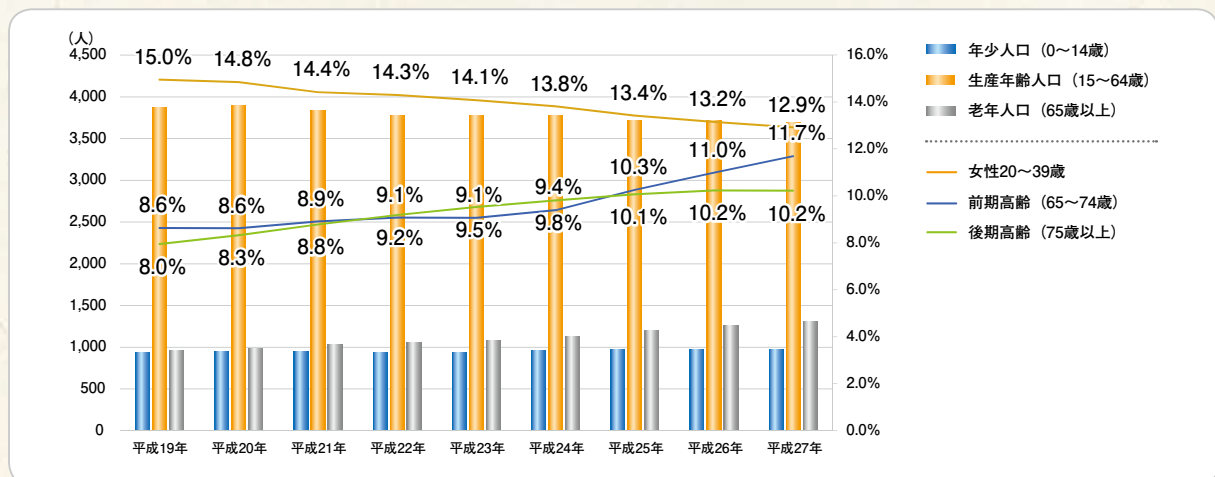
|                | 平成19年  | 平成20年  | 平成21年  | 平成22年  | 平成23年  | 平成24年  | 平成25年  | 平成26年  | 平成27年  |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年少人口（0～14歳）    | 1,979  | 1,981  | 1,988  | 1,971  | 1,976  | 2,014  | 2,030  | 2,045  | 2,049  |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 8,266  | 8,320  | 8,190  | 8,080  | 8,079  | 8,071  | 7,955  | 7,937  | 7,899  |
| 老年人口（65歳以上）    | 2,003  | 2,065  | 2,149  | 2,207  | 2,256  | 2,355  | 2,503  | 2,644  | 2,745  |
| 合計             | 12,248 | 12,366 | 12,327 | 12,257 | 12,311 | 12,440 | 12,488 | 12,626 | 12,693 |
| 前年増減           |        | 118    | -39    | -70    | 54     | 129    | 48     | 138    | 67     |
| 出生数            | -      | 149    | 138    | 144    | 132    | 130    | 141    | 125    | 143    |
| 小学校生徒数         | 814    | 804    | 820    | 789    | 767    | 777    | 761    | 775    | 751    |
| 女性20～39歳       | 15.0%  | 14.9%  | 14.5%  | 14.4%  | 14.2%  | 13.9%  | 13.5%  | 13.2%  | 13.0%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 8.3%   | 8.3%   | 8.6%   | 8.7%   | 8.7%   | 9.0%   | 9.9%   | 10.6%  | 11.3%  |
| 後期高齢（75歳以上）    | 8.0%   | 8.4%   | 8.9%   | 9.3%   | 9.6%   | 9.9%   | 10.2%  | 10.3%  | 10.3%  |



## 総社中央小学校区

高齢化率 21.9%

|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 943   | 944   | 948   | 939   | 942   | 960   | 968   | 975   | 977   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 3,870 | 3,894 | 3,833 | 3,782 | 3,782 | 3,778 | 3,723 | 3,715 | 3,687 |
| 老年人口（65歳以上）    | 957   | 987   | 1,028 | 1,055 | 1,079 | 1,126 | 1,197 | 1,264 | 1,309 |
| 合計             | 5,770 | 5,825 | 5,809 | 5,776 | 5,803 | 5,864 | 5,888 | 5,954 | 5,973 |
| 前年増減           |       | 55    | -16   | -33   | 27    | 61    | 24    | 66    | 19    |
| 出生数            | -     | 59    | 67    | 67    | 61    | 85    | 59    | 72    | 58    |
| 小学校生徒数         | 367   | 378   | 394   | 414   | 409   | 423   | 413   | 421   | 409   |
| 女性20～39歳       | 15.0% | 14.8% | 14.4% | 14.3% | 14.1% | 13.8% | 13.4% | 13.2% | 12.9% |
| 前期高齢（65～74歳）   | 8.6%  | 8.6%  | 8.9%  | 9.1%  | 9.1%  | 9.4%  | 10.3% | 11.0% | 11.7% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 8.0%  | 8.3%  | 8.8%  | 9.2%  | 9.5%  | 9.8%  | 10.1% | 10.2% | 10.2% |

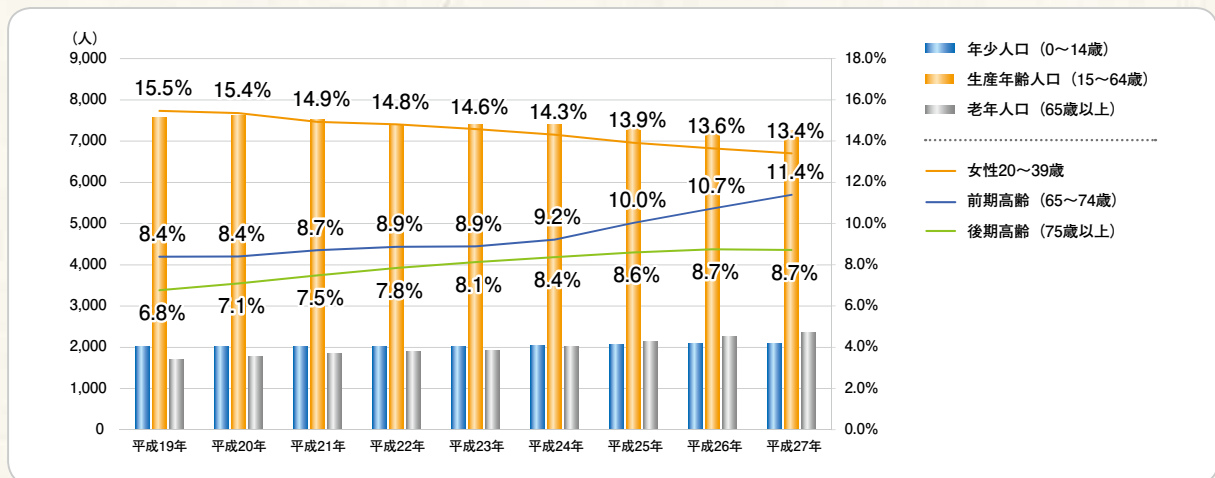


## 基本構想

### 常盤小学校区

高齢化率 20.1%

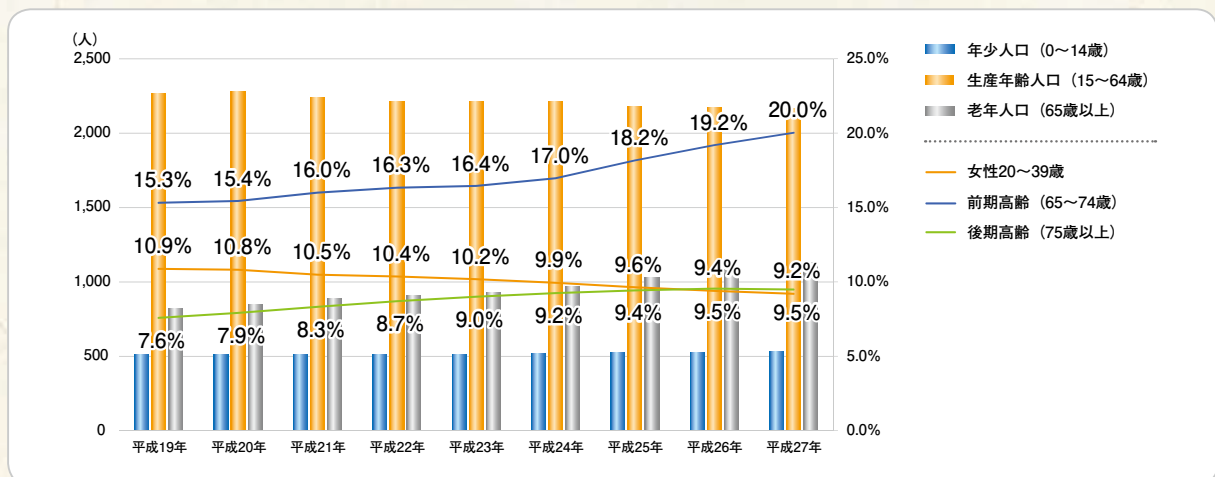
|                | 平成19年  | 平成20年  | 平成21年  | 平成22年  | 平成23年  | 平成24年  | 平成25年  | 平成26年  | 平成27年  |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年少人口（0～14歳）    | 2,017  | 2,019  | 2,026  | 2,009  | 2,014  | 2,053  | 2,069  | 2,085  | 2,094  |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 7,586  | 7,634  | 7,514  | 7,413  | 7,413  | 7,405  | 7,299  | 7,282  | 7,247  |
| 老年人口（65歳以上）    | 1,716  | 1,770  | 1,843  | 1,891  | 1,934  | 2,018  | 2,146  | 2,267  | 2,352  |
| 合計             | 11,319 | 11,423 | 11,383 | 11,313 | 11,361 | 11,476 | 11,514 | 11,634 | 11,693 |
| 前年増減           |        | 104    | -40    | -70    | 48     | 115    | 38     | 120    | 59     |
| 出生数            | -      | 135    | 131    | 148    | 138    | 135    | 159    | 146    | 148    |
| 小学校生徒数         | 640    | 674    | 701    | 740    | 747    | 781    | 802    | 806    | 786    |
| 女性20～39歳       | 15.5%  | 15.4%  | 14.9%  | 14.8%  | 14.6%  | 14.3%  | 13.9%  | 13.6%  | 13.4%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 8.4%   | 8.4%   | 8.7%   | 8.9%   | 8.9%   | 9.2%   | 10.0%  | 10.7%  | 11.4%  |
| 後期高齢（75歳以上）    | 6.8%   | 7.1%   | 7.5%   | 7.8%   | 8.1%   | 8.4%   | 8.6%   | 8.7%   | 8.7%   |



### 総社北小学校区

高齢化率 29.5%

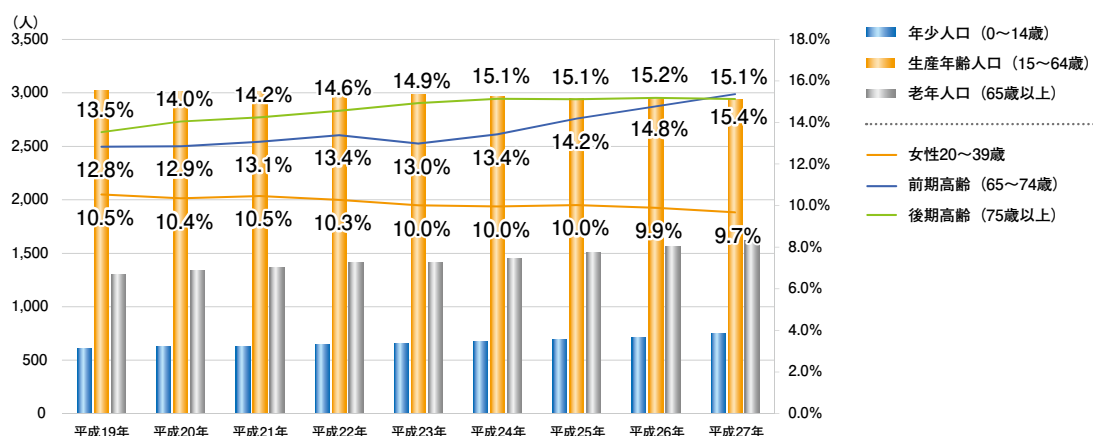
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 513   | 513   | 515   | 510   | 512   | 522   | 526   | 529   | 532   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 2,265 | 2,279 | 2,243 | 2,213 | 2,213 | 2,211 | 2,179 | 2,174 | 2,164 |
| 老年人口（65歳以上）    | 825   | 850   | 886   | 909   | 930   | 970   | 1,031 | 1,090 | 1,129 |
| 合計             | 3,603 | 3,642 | 3,644 | 3,632 | 3,655 | 3,703 | 3,736 | 3,793 | 3,825 |
| 前年増減           |       | 39    | 2     | -12   | 23    | 48    | 33    | 57    | 32    |
| 出生数            | -     | 28    | 35    | 15    | 25    | 20    | 23    | 21    | 16    |
| 小学校生徒数         | 257   | 268   | 271   | 281   | 275   | 270   | 259   | 242   | 228   |
| 女性20～39歳       | 10.9% | 10.8% | 10.5% | 10.4% | 10.2% | 9.9%  | 9.6%  | 9.4%  | 9.2%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 15.3% | 15.4% | 16.0% | 16.3% | 16.4% | 17.0% | 18.2% | 19.2% | 20.0% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 7.6%  | 7.9%  | 8.3%  | 8.7%  | 9.0%  | 9.2%  | 9.4%  | 9.5%  | 9.5%  |



## 総社東小学校区

高齢化率 30.5%

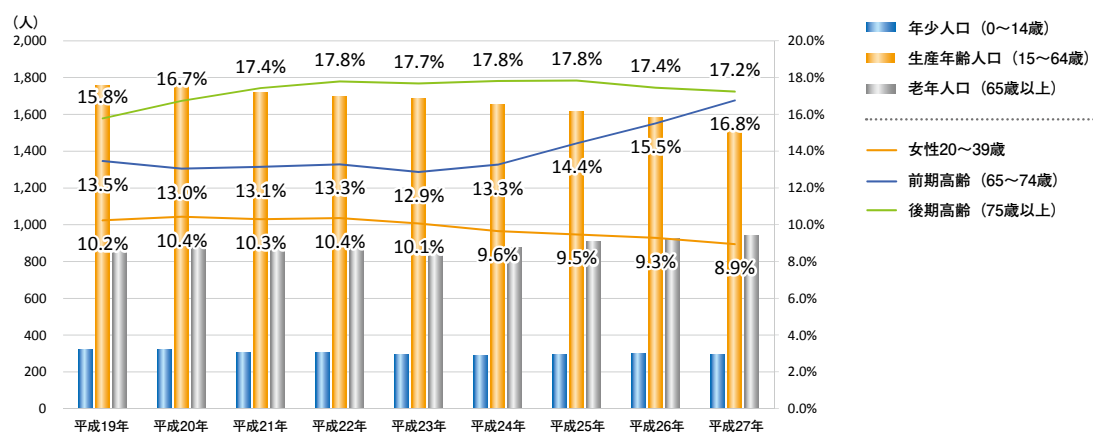
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 607   | 628   | 633   | 643   | 660   | 677   | 697   | 710   | 747   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 3,021 | 3,014 | 3,012 | 2,993 | 2,981 | 2,963 | 2,944 | 2,940 | 2,939 |
| 老年人口（65歳以上）    | 1,299 | 1,340 | 1,370 | 1,410 | 1,410 | 1,455 | 1,510 | 1,561 | 1,617 |
| 合計             | 4,927 | 4,982 | 5,015 | 5,046 | 5,051 | 5,095 | 5,151 | 5,211 | 5,303 |
| 前年増減           |       | 55    | 33    | 31    | 5     | 44    | 56    | 60    | 92    |
| 出生数            | -     | 31    | 31    | 34    | 26    | 25    | 34    | 33    | 42    |
| 小学校生徒数         | 252   | 259   | 242   | 268   | 262   | 283   | 277   | 278   | 288   |
| 女性20～39歳       | 10.5% | 10.4% | 10.5% | 10.3% | 10.0% | 10.0% | 10.0% | 9.9%  | 9.7%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 12.8% | 12.9% | 13.1% | 13.4% | 13.0% | 13.4% | 14.2% | 14.8% | 15.4% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 13.5% | 14.0% | 14.2% | 14.6% | 14.9% | 15.1% | 15.1% | 15.2% | 15.1% |



## 阿曽小学校区

高齢化率 34.0%

|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 323   | 323   | 306   | 307   | 295   | 291   | 295   | 299   | 295   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 1,758 | 1,770 | 1,717 | 1,697 | 1,686 | 1,652 | 1,616 | 1,585 | 1,536 |
| 老年人口（65歳以上）    | 860   | 888   | 891   | 903   | 871   | 876   | 910   | 926   | 943   |
| 合計             | 2,941 | 2,981 | 2,914 | 2,907 | 2,852 | 2,819 | 2,821 | 2,810 | 2,774 |
| 前年増減           |       | 40    | -67   | -7    | -55   | -33   | 2     | -11   | -36   |
| 出生数            | -     | 14    | 13    | 14    | 14    | 16    | 9     | 15    | 13    |
| 小学校生徒数         | 142   | 134   | 135   | 133   | 133   | 128   | 126   | 130   | 125   |
| 女性20～39歳       | 10.2% | 10.4% | 10.3% | 10.4% | 10.1% | 9.6%  | 9.5%  | 9.3%  | 8.9%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 13.5% | 13.0% | 13.1% | 13.3% | 12.9% | 13.3% | 14.4% | 15.5% | 16.8% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 15.8% | 16.7% | 17.4% | 17.8% | 17.7% | 17.8% | 17.8% | 17.4% | 17.2% |

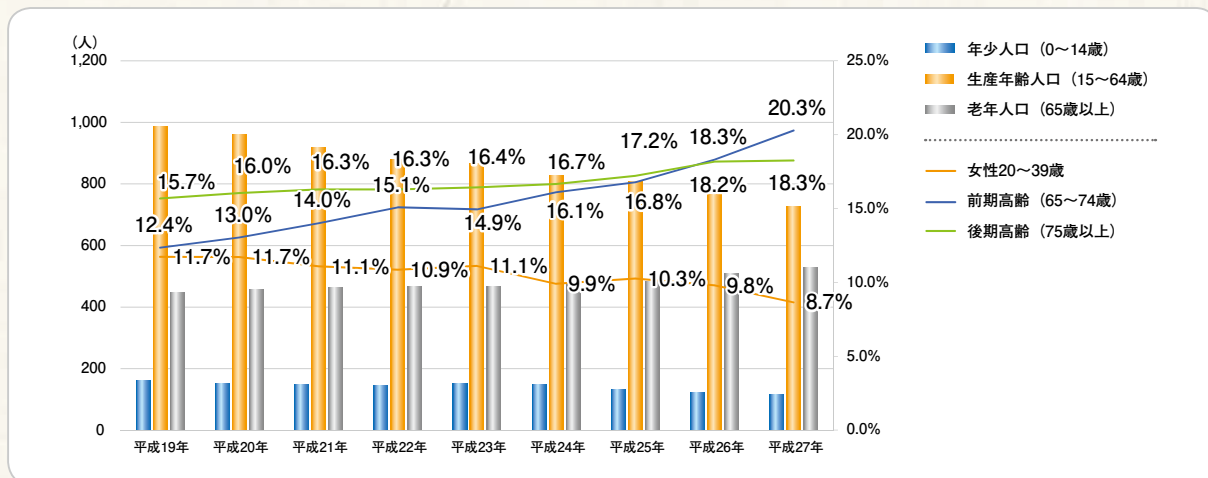


## 基本構想

### 池田小学校区

高齢化率 38.5%

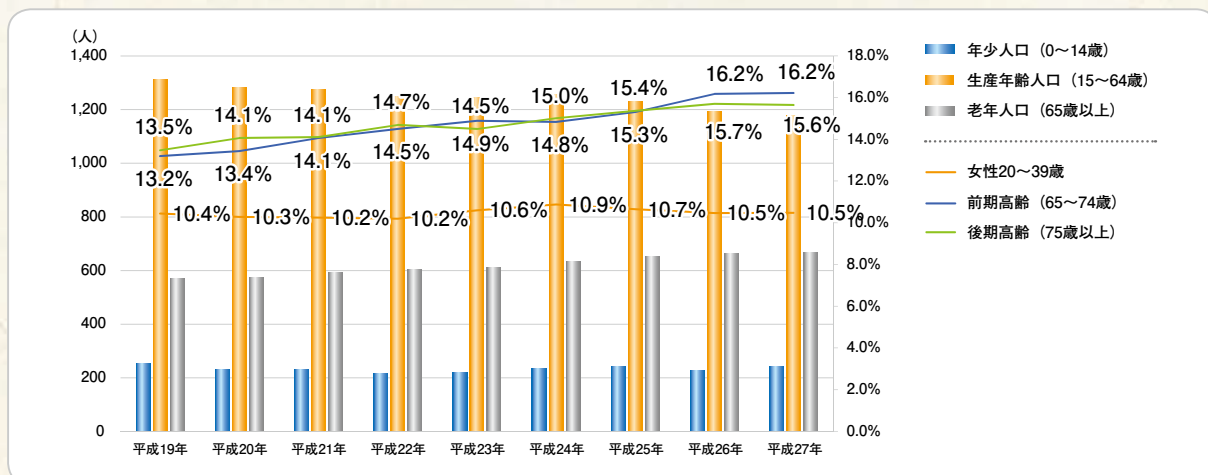
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 160   | 152   | 150   | 144   | 152   | 148   | 132   | 123   | 117   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 988   | 962   | 919   | 880   | 867   | 829   | 808   | 765   | 728   |
| 老年人口（65歳以上）    | 447   | 457   | 465   | 468   | 466   | 476   | 484   | 510   | 530   |
| 合計             | 1,595 | 1,571 | 1,534 | 1,492 | 1,485 | 1,453 | 1,424 | 1,398 | 1,375 |
| 前年増減           |       | -24   | -37   | -42   | -7    | -32   | -29   | -26   | -23   |
| 出生数            | -     | 7     | 8     | 5     | 7     | 2     | 9     | 2     | 5     |
| 小学校生徒数         | 67    | 69    | 71    | 65    | 65    | 61    | 54    | 55    | 51    |
| 女性20～39歳       | 11.7% | 11.7% | 11.1% | 10.9% | 11.1% | 9.9%  | 10.3% | 9.8%  | 8.7%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 12.4% | 13.0% | 14.0% | 15.1% | 14.9% | 16.1% | 16.8% | 18.3% | 20.3% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 15.7% | 16.0% | 16.3% | 16.3% | 16.4% | 16.7% | 17.2% | 18.2% | 18.3% |



### 秦小学校区

高齢化率 31.9%

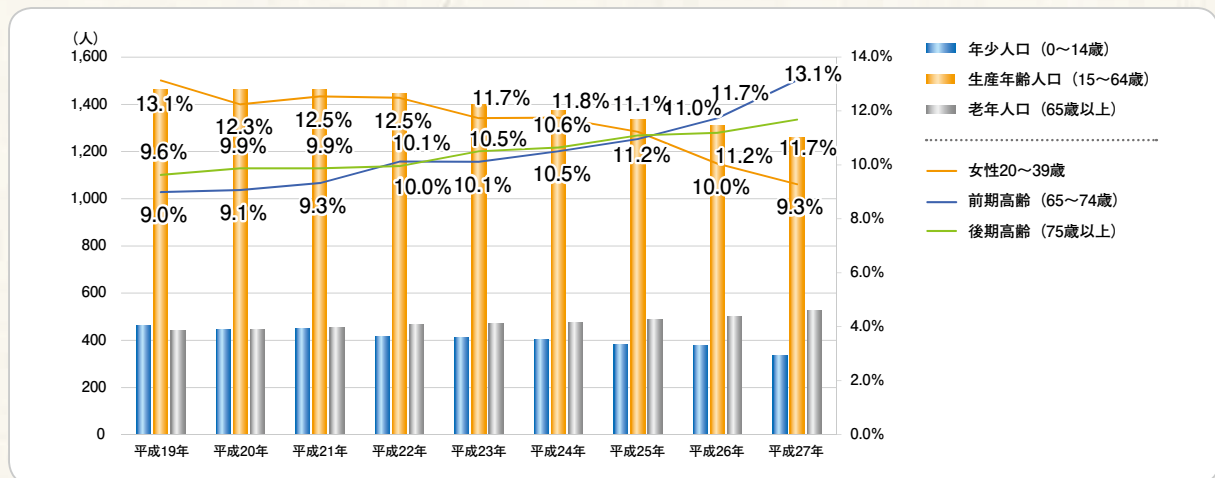
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 254   | 232   | 230   | 217   | 220   | 235   | 241   | 227   | 244   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 1,312 | 1,284 | 1,277 | 1,248 | 1,246 | 1,255 | 1,230 | 1,192 | 1,180 |
| 老年人口（65歳以上）    | 570   | 575   | 591   | 604   | 610   | 634   | 651   | 664   | 666   |
| 合計             | 2,136 | 2,091 | 2,098 | 2,069 | 2,076 | 2,124 | 2,122 | 2,083 | 2,090 |
| 前年増減           |       | -45   | 7     | -29   | 7     | 48    | -2    | -39   | 7     |
| 出生数            | -     | 7     | 8     | 9     | 13    | 17    | 8     | 18    | 9     |
| 小学校生徒数         | 105   | 97    | 90    | 91    | 90    | 96    | 103   | 102   | 101   |
| 女性20～39歳       | 10.4% | 10.3% | 10.2% | 10.2% | 10.6% | 10.9% | 10.7% | 10.5% | 10.5% |
| 前期高齢（65～74歳）   | 13.2% | 13.4% | 14.1% | 14.5% | 14.9% | 14.8% | 15.3% | 16.2% | 16.2% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 13.5% | 14.1% | 14.1% | 14.5% | 14.9% | 15.3% | 15.7% | 15.6% | 15.6% |



## 神在小学校区

高齢化率 24.8%

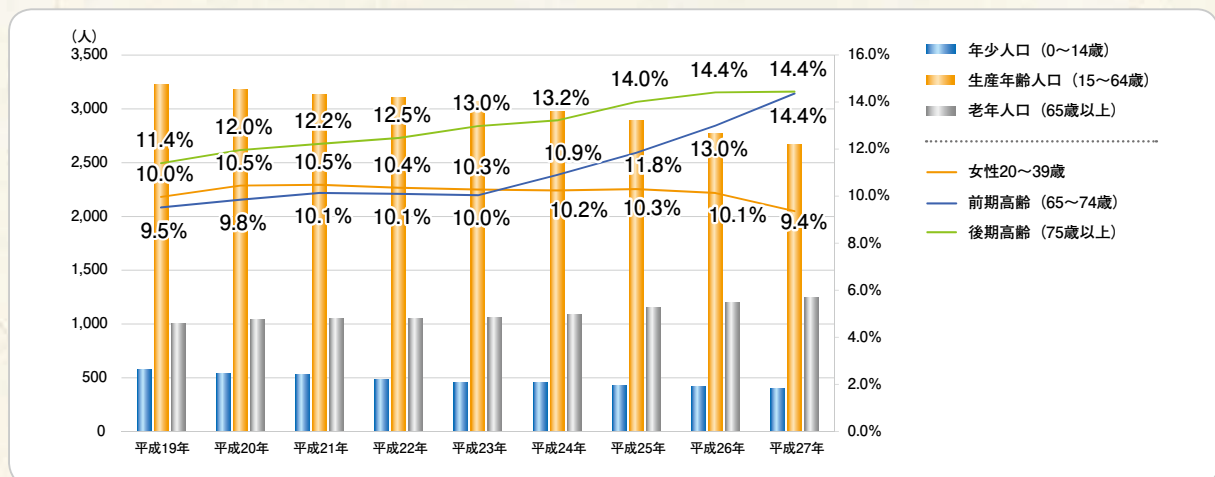
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 462   | 448   | 449   | 417   | 411   | 405   | 384   | 376   | 337   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 1,465 | 1,464 | 1,465 | 1,445 | 1,401 | 1,373 | 1,337 | 1,312 | 1,258 |
| 老年人口（65歳以上）    | 441   | 447   | 455   | 468   | 471   | 477   | 487   | 502   | 527   |
| 合計             | 2,368 | 2,359 | 2,369 | 2,330 | 2,283 | 2,255 | 2,208 | 2,190 | 2,122 |
| 前年増減           |       | -9    | 10    | -39   | -47   | -28   | -47   | -18   | -68   |
| 出生数            | -     | 24    | 21    | 19    | 19    | 24    | 14    | 15    | 9     |
| 小学校生徒数         | 178   | 182   | 174   | 171   | 163   | 158   | 160   | 153   | 155   |
| 女性20～39歳       | 13.1% | 12.3% | 12.5% | 12.5% | 11.7% | 11.8% | 11.2% | 10.0% | 9.3%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 9.0%  | 9.1%  | 9.3%  | 10.1% | 10.1% | 10.5% | 11.0% | 11.7% | 13.1% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 9.6%  | 9.9%  | 9.9%  | 10.0% | 10.5% | 10.6% | 11.1% | 11.2% | 11.7% |



## 総社西小学校区

高齢化率 28.8%

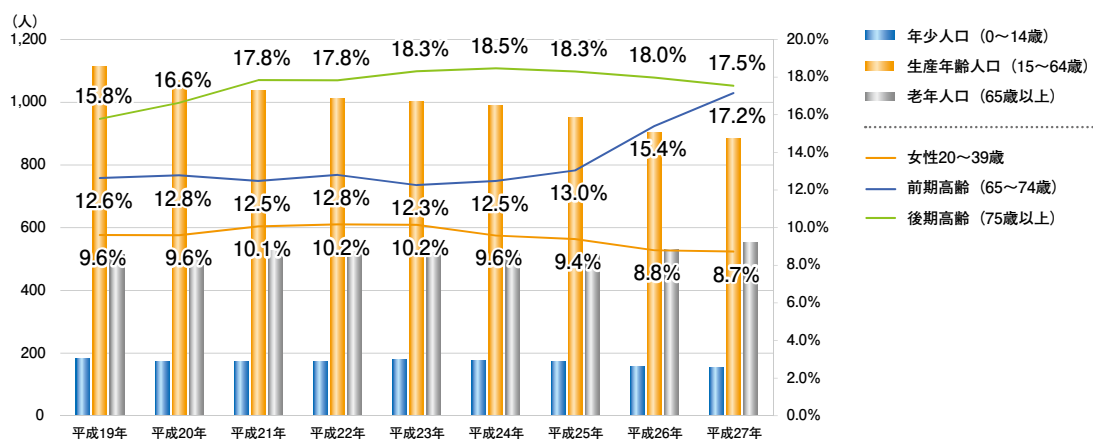
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 575   | 541   | 526   | 486   | 460   | 457   | 429   | 418   | 403   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 3,229 | 3,183 | 3,133 | 3,108 | 3,073 | 2,978 | 2,888 | 2,768 | 2,668 |
| 老年人口（65歳以上）    | 1,007 | 1,039 | 1,054 | 1,048 | 1,057 | 1,093 | 1,157 | 1,204 | 1,243 |
| 合計             | 4,811 | 4,763 | 4,713 | 4,642 | 4,590 | 4,528 | 4,474 | 4,390 | 4,314 |
| 前年増減           |       | -48   | -50   | -71   | -52   | -62   | -54   | -84   | -76   |
| 出生数            | -     | 22    | 27    | 16    | 9     | 22    | 18    | 20    | 13    |
| 小学校生徒数         | 245   | 232   | 225   | 191   | 190   | 178   | 176   | 181   | 176   |
| 女性20～39歳       | 10.0% | 10.5% | 10.5% | 10.4% | 10.3% | 10.2% | 10.3% | 10.1% | 9.4%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 9.5%  | 9.8%  | 10.1% | 10.1% | 10.0% | 10.9% | 11.8% | 13.0% | 14.4% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 11.4% | 12.0% | 12.2% | 12.5% | 13.0% | 14.0% | 14.4% | 14.4% | 14.4% |



## 新本小学校区

高齢化率 34.7%

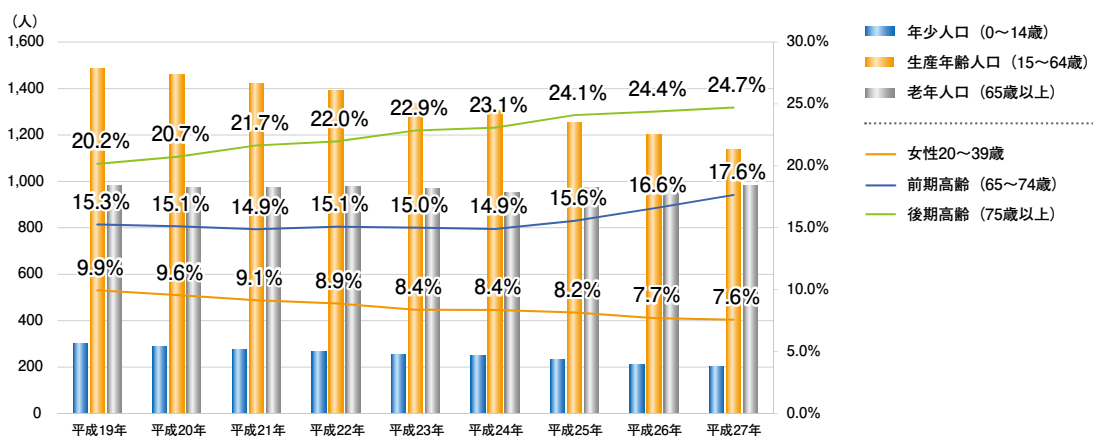
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 184   | 175   | 173   | 174   | 180   | 178   | 175   | 157   | 155   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 1,113 | 1,068 | 1,038 | 1,013 | 1,003 | 989   | 951   | 903   | 884   |
| 老年人口（65歳以上）    | 515   | 518   | 527   | 524   | 521   | 523   | 514   | 531   | 552   |
| 合計             | 1,812 | 1,761 | 1,738 | 1,711 | 1,704 | 1,690 | 1,640 | 1,591 | 1,591 |
| 前年増減           |       | -51   | -23   | -27   | -7    | -14   | -50   | -49   | 0     |
| 出生数            | -     | 5     | 7     | 9     | 9     | 10    | 6     | 12    | 6     |
| 小学校生徒数         | 94    | 85    | 83    | 81    | 77    | 75    | 67    | 61    | 57    |
| 女性20～39歳       | 9.6%  | 9.6%  | 10.1% | 10.2% | 10.2% | 9.6%  | 9.4%  | 8.8%  | 8.7%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 12.6% | 12.8% | 12.5% | 12.8% | 12.3% | 12.5% | 13.0% | 15.4% | 17.2% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 15.8% | 16.6% | 17.8% | 17.8% | 18.3% | 18.5% | 18.3% | 18.0% | 17.5% |



## 昭和小小学校区

高齢化率 42.4%

|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 302   | 287   | 275   | 267   | 254   | 251   | 232   | 212   | 202   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 1,487 | 1,460 | 1,421 | 1,394 | 1,336 | 1,305 | 1,253 | 1,201 | 1,137 |
| 老年人口（65歳以上）    | 981   | 976   | 976   | 978   | 969   | 953   | 976   | 980   | 984   |
| 合計             | 2,770 | 2,723 | 2,672 | 2,639 | 2,559 | 2,509 | 2,461 | 2,393 | 2,323 |
| 前年増減           |       | -47   | -51   | -33   | -80   | -50   | -48   | -68   | -70   |
| 出生数            | -     | 9     | 6     | 11    | 8     | 11    | 7     | 1     | 9     |
| 小学校生徒数         | 127   | 118   | 103   | 100   | 97    | 103   | 103   | 102   | 116   |
| 女性20～39歳       | 9.9%  | 9.6%  | 9.1%  | 8.9%  | 8.4%  | 8.4%  | 8.2%  | 7.7%  | 7.6%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 15.3% | 15.1% | 14.9% | 15.1% | 15.0% | 14.9% | 15.6% | 16.6% | 17.6% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 20.2% | 20.7% | 21.7% | 22.0% | 22.9% | 23.1% | 24.1% | 24.4% | 24.7% |

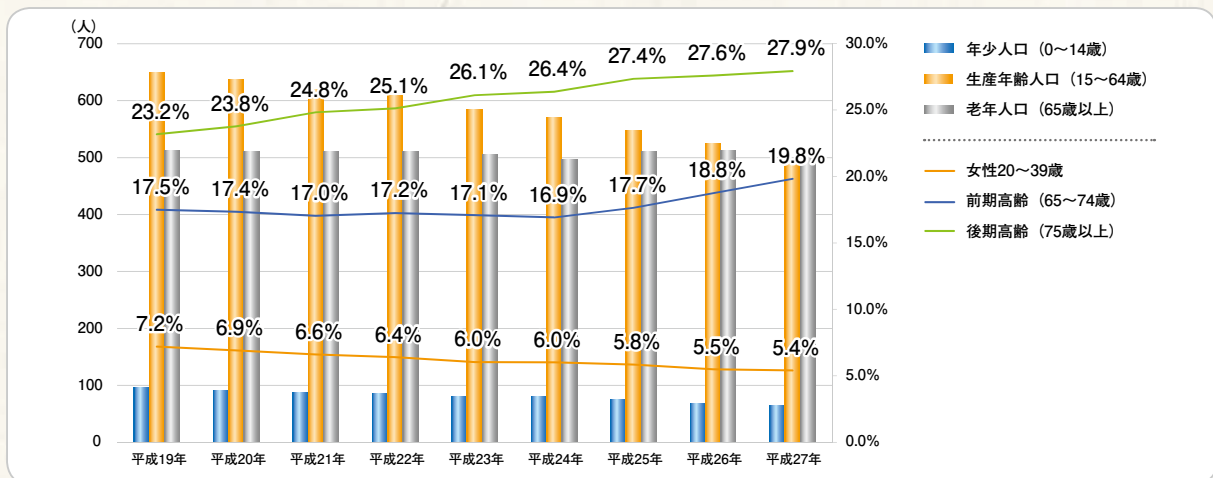


## 基本構想

### 維新小学校区

高齢化率 47.8%

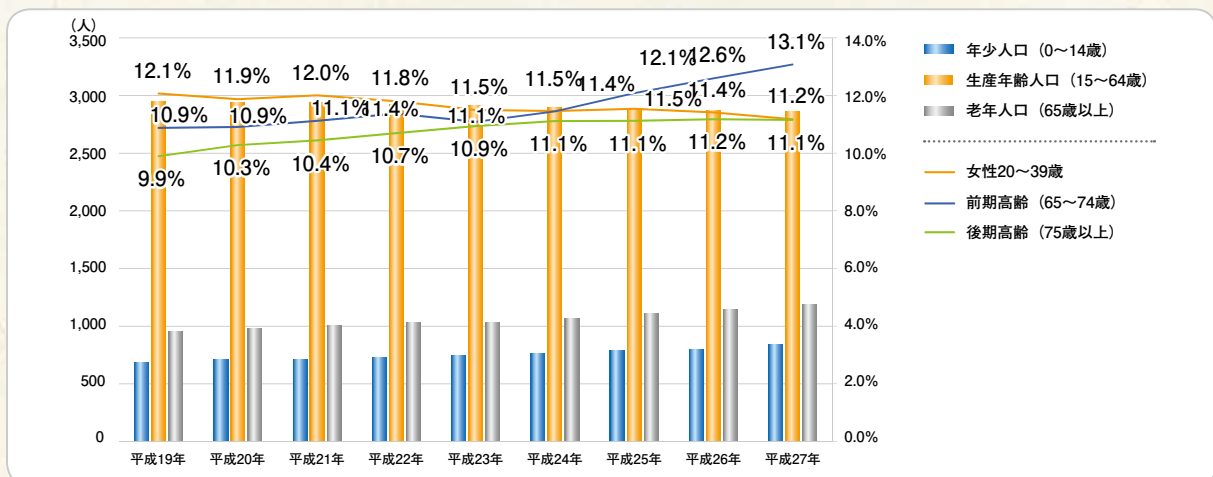
|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 97    | 92    | 88    | 86    | 81    | 81    | 75    | 68    | 65    |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 650   | 638   | 620   | 609   | 584   | 570   | 548   | 525   | 496   |
| 老年人口（65歳以上）    | 512   | 510   | 510   | 511   | 506   | 497   | 510   | 512   | 513   |
| 合計             | 1,259 | 1,240 | 1,218 | 1,206 | 1,171 | 1,148 | 1,133 | 1,105 | 1,074 |
| 前年増減           |       | -19   | -22   | -12   | -35   | -23   | -15   | -28   | -31   |
| 出生数            | -     | 4     | 1     | 3     | 3     | 6     | 2     | 3     | 3     |
| 小学校生徒数         | 52    | 55    | 55    | 53    | 43    | 39    | 28    | 23    | 19    |
| 女性20～39歳       | 7.2%  | 6.9%  | 6.6%  | 6.4%  | 6.0%  | 6.0%  | 5.8%  | 5.5%  | 5.4%  |
| 前期高齢（65～74歳）   | 17.5% | 17.4% | 17.0% | 17.2% | 17.1% | 16.9% | 17.7% | 18.8% | 19.8% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 23.2% | 23.8% | 24.8% | 25.1% | 26.1% | 26.4% | 27.4% | 27.6% | 27.9% |



### 山手小学校区

高齢化率 24.2%

|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 687   | 712   | 716   | 729   | 747   | 767   | 790   | 803   | 846   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 2,950 | 2,942 | 2,941 | 2,922 | 2,911 | 2,893 | 2,875 | 2,870 | 2,865 |
| 老年人口（65歳以上）    | 953   | 982   | 1,005 | 1,033 | 1,033 | 1,066 | 1,107 | 1,145 | 1,186 |
| 合計             | 4,590 | 4,636 | 4,662 | 4,684 | 4,691 | 4,726 | 4,772 | 4,818 | 4,897 |
| 前年増減           |       | 46    | 26    | 22    | 7     | 35    | 46    | 46    | 79    |
| 出生数            | -     | 31    | 45    | 50    | 39    | 46    | 37    | 41    | 55    |
| 小学校生徒数         | 298   | 319   | 312   | 305   | 312   | 308   | 324   | 326   | 358   |
| 女性20～39歳       | 12.1% | 11.9% | 12.0% | 11.8% | 11.5% | 11.5% | 11.5% | 11.4% | 11.2% |
| 前期高齢（65～74歳）   | 10.9% | 10.9% | 11.1% | 11.4% | 11.1% | 11.4% | 12.1% | 12.6% | 13.1% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 9.9%  | 10.3% | 10.4% | 10.7% | 10.9% | 11.1% | 11.1% | 11.2% | 11.1% |

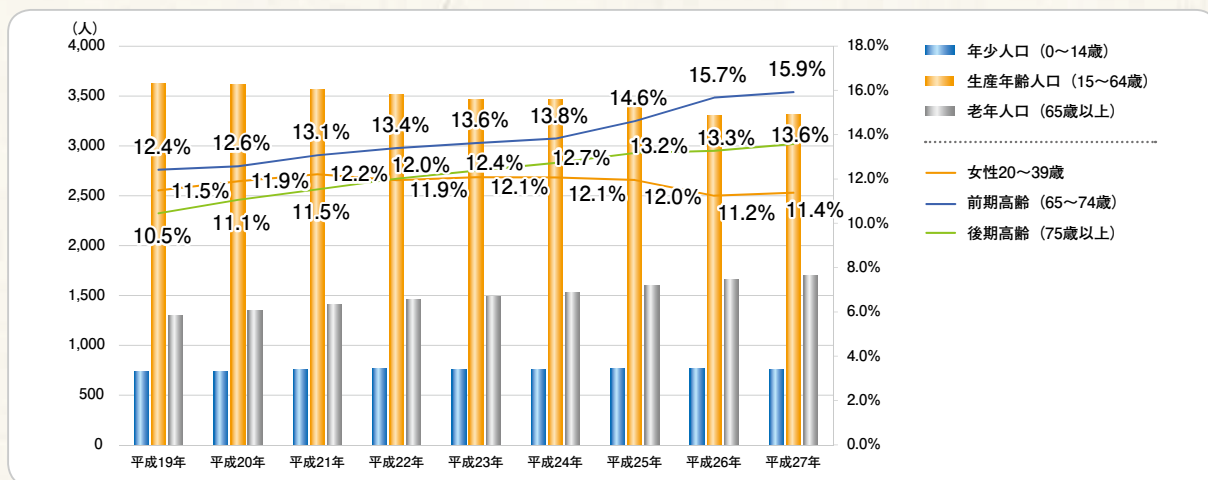


清音小学校区（黒田地区を含む）

高齢化率

29.5%

|                | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年少人口（0～14歳）    | 739   | 740   | 757   | 761   | 759   | 758   | 762   | 770   | 760   |
| 生産年齢人口（15～64歳） | 3,626 | 3,614 | 3,569 | 3,516 | 3,470 | 3,465 | 3,386 | 3,305 | 3,310 |
| 老年人口（65歳以上）    | 1,295 | 1,348 | 1,412 | 1,457 | 1,485 | 1,527 | 1,597 | 1,660 | 1,703 |
| 合計             | 5,660 | 5,702 | 5,738 | 5,734 | 5,714 | 5,750 | 5,745 | 5,735 | 5,773 |
| 前年増減           |       | 42    | 36    | -4    | -20   | 36    | -5    | -10   | 38    |
| 出生数            | -     | 45    | 34    | 40    | 44    | 41    | 34    | 39    | 35    |
| 小学校生徒数         | 324   | 321   | 329   | 331   | 335   | 309   | 301   | 313   | 313   |
| 女性20～39歳       | 11.5% | 11.9% | 12.2% | 11.9% | 12.1% | 12.1% | 12.0% | 11.2% | 11.4% |
| 前期高齢（65～74歳）   | 12.4% | 12.6% | 13.1% | 13.4% | 13.6% | 13.8% | 14.6% | 15.7% | 15.9% |
| 後期高齢（75歳以上）    | 10.5% | 11.1% | 11.5% | 12.0% | 12.4% | 12.7% | 13.2% | 13.3% | 13.6% |

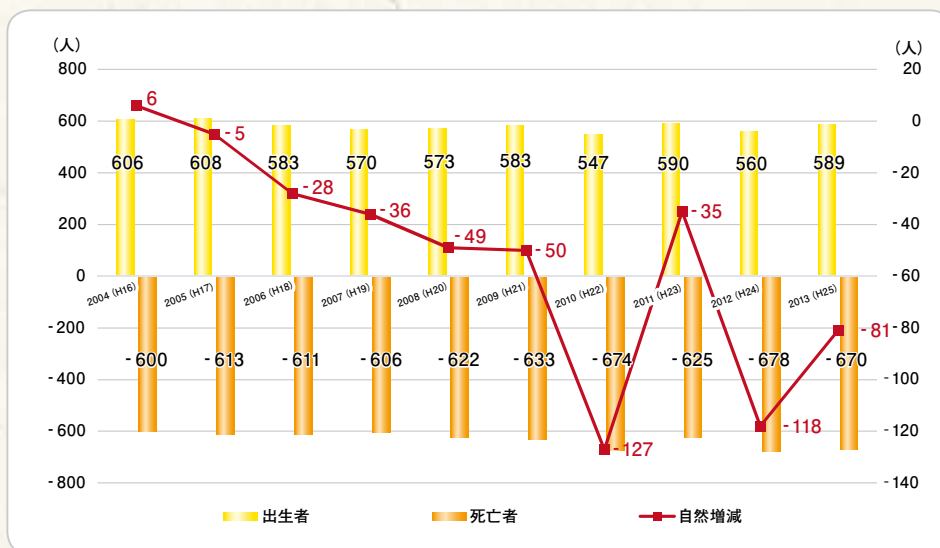


## (2) 出生・死亡（自然増減）と転入・転出（社会増減）

総社市の出生・死亡者数は、平成 18 (2006) 年以降は死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の時代に入り、その差は年々拡大しています。

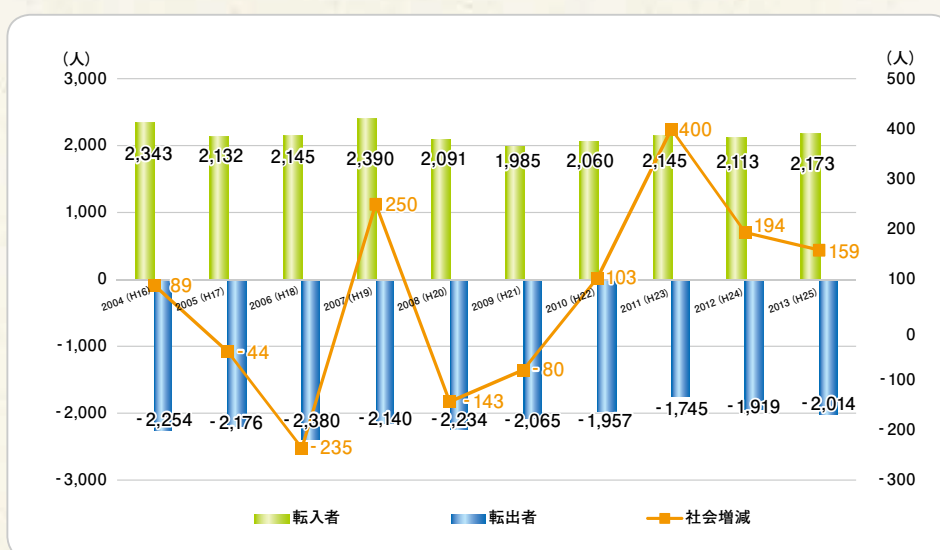
転入・転出者数は、合併以降、多くの県内市町村と同様に転出超過（社会減）に推移しましたが、平成 20 (2008) 年に転入超過へ転換して以降、ここ数年では転入超過（社会増）に推移しています。総人口の推移に対する自然動態と社会動態の影響をみると、少子高齢化による自然減が大きくなっていますが、その減少幅を超える社会増により近年は、人口微増の傾向が進んでいます。

### 総社市の自然動態推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口動態及び世帯数」

### 総社市の社会動態推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口動態及び世帯数」



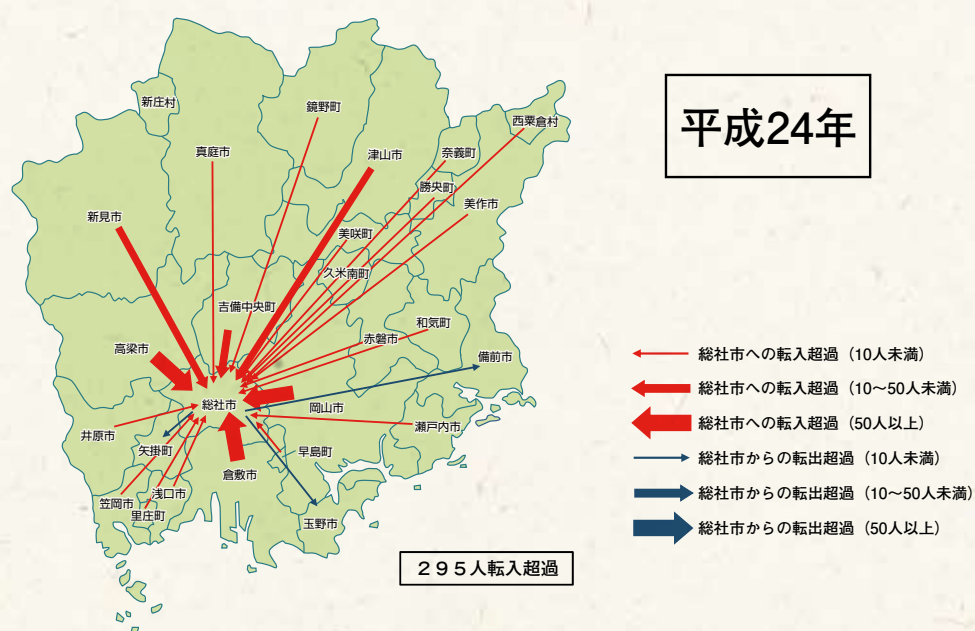
## 基本構想

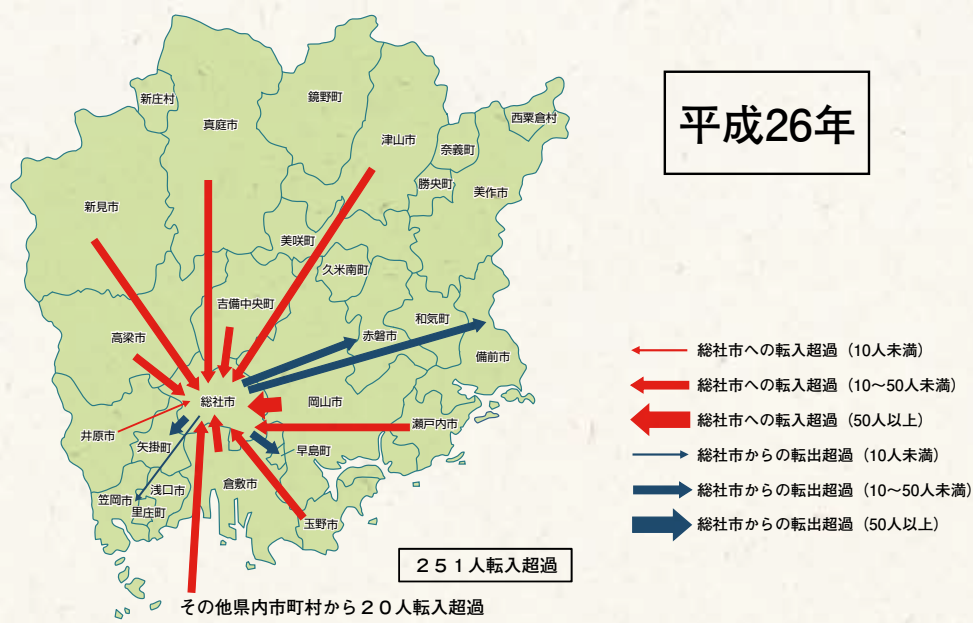
県内転入出状況を過去3年でみると、県北からだけでなく、岡山市や倉敷市からも50人以上の転入超過になる年があります。

また、首都圏・関西圏への転入出状況をみると、全体の転入・転出者数の1割前後ですが、毎年、転出者数が上回る転出超過となっています。

## 県内の転入出超過状況

資料：まち・ひと・しごと創生本部提供資料





## 首都圏・関西圏や中国地方への転入出超過状況

(人)

| 年     | 圏 域                     | 転入  | 転出  | 転出超過 |
|-------|-------------------------|-----|-----|------|
| 平成24年 | 首都圏（埼玉・東京・千葉・神奈川）       | 137 | 142 | 5    |
|       | 関西圏（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山） | 163 | 191 | 28   |
|       | 中国地方（鳥取・島根・広島・山口）       | 134 | 116 | △ 18 |
| 平成25年 | 首都圏（埼玉・東京・千葉・神奈川）       | 113 | 164 | 51   |
|       | 関西圏（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山） | 191 | 206 | 15   |
|       | 中国地方（鳥取・島根・広島・山口）       | 143 | 137 | △ 6  |
| 平成26年 | 首都圏（埼玉・東京・千葉・神奈川）       | 125 | 149 | 24   |
|       | 関西圏（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山） | 137 | 179 | 42   |
|       | 中国地方（鳥取・島根・広島・山口）       | 144 | 101 | △ 43 |

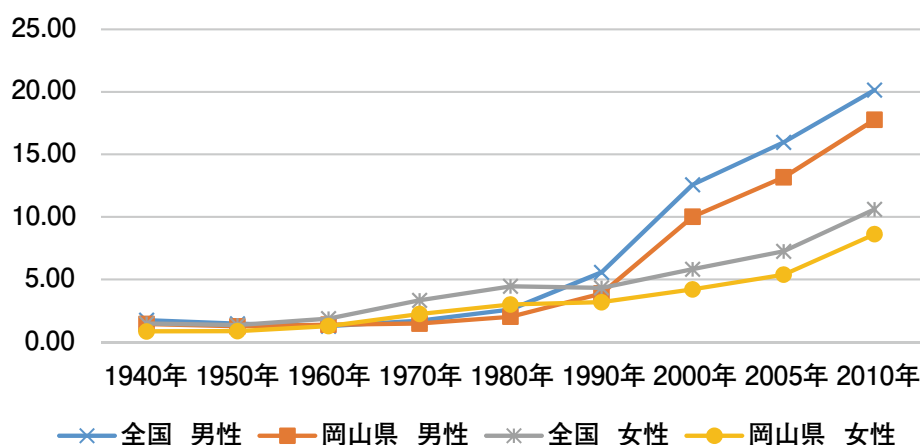


## 2. 自然減（出生者数低下）の要因

### （1）非婚化・晩産化の進行

生涯未婚率は、岡山県全体としては男女とも全国平均より低いですが、近年急激に上昇している傾向は同様です。男性は昭和 55（1980）年の 2.0% から平成 22（2010）年には 17.8%，女性は、3.0% から 8.6% へ上昇しており、その傾向は男性において著しい状況にあります。

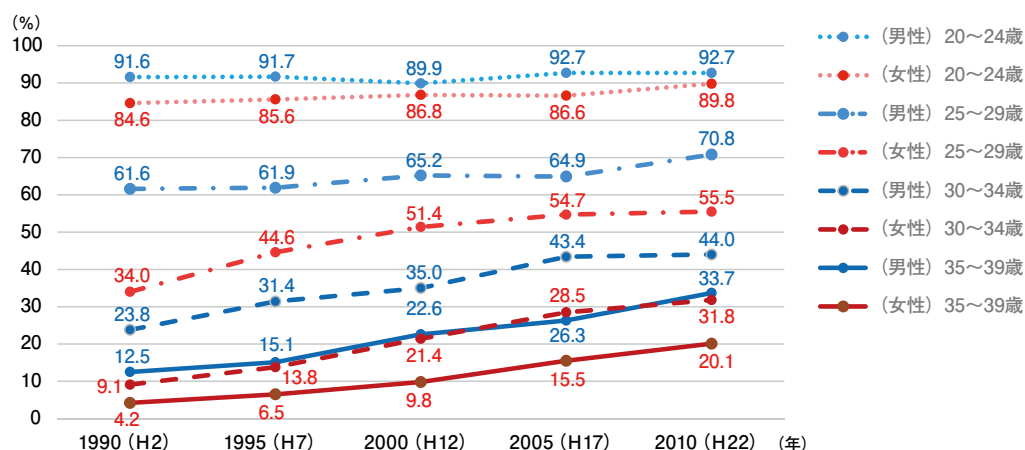
生涯未婚率の推移（岡山県及び全国）



資料：総務省統計局 国勢調査

また、総社市における未婚率の推移を年代、性別で見えていくと、男女とも、年々上昇傾向にあり晩婚化が進行しています。35～39歳の男性は3割、女性は2割以上が未婚という結果が出ています。

未婚率の推移

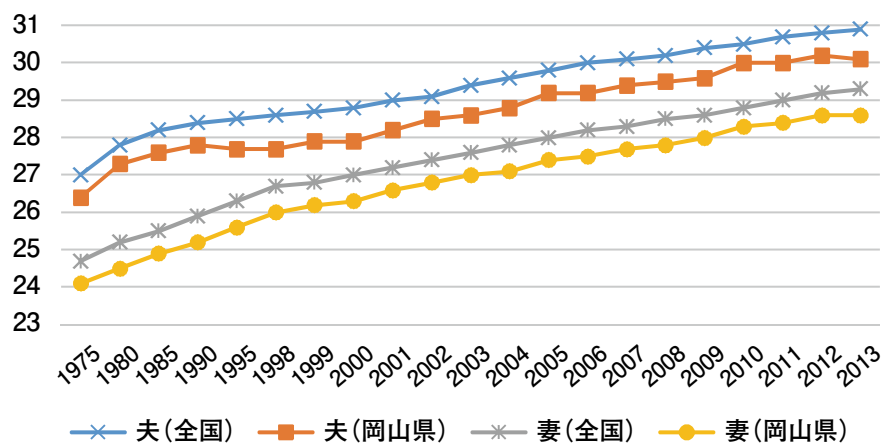


資料：総務省統計局 国勢調査



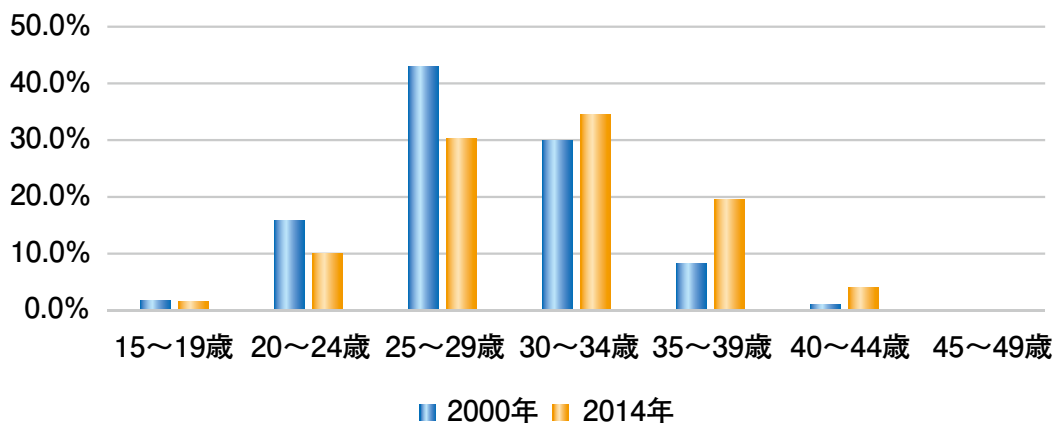
さらに、平均初婚年齢の推移から全国平均と岡山県を比較してみても晩婚化が進むとともに、母親の出産年齢が高くなっていることから、晩産化が進んでいると考えられます。

### 平均初婚年齢の推移（岡山県及び全国）



資料：総務省統計局 国勢調査

### 岡山県における出生の母年齢5歳階級別の割合



資料：厚生労働省 人口動態調査

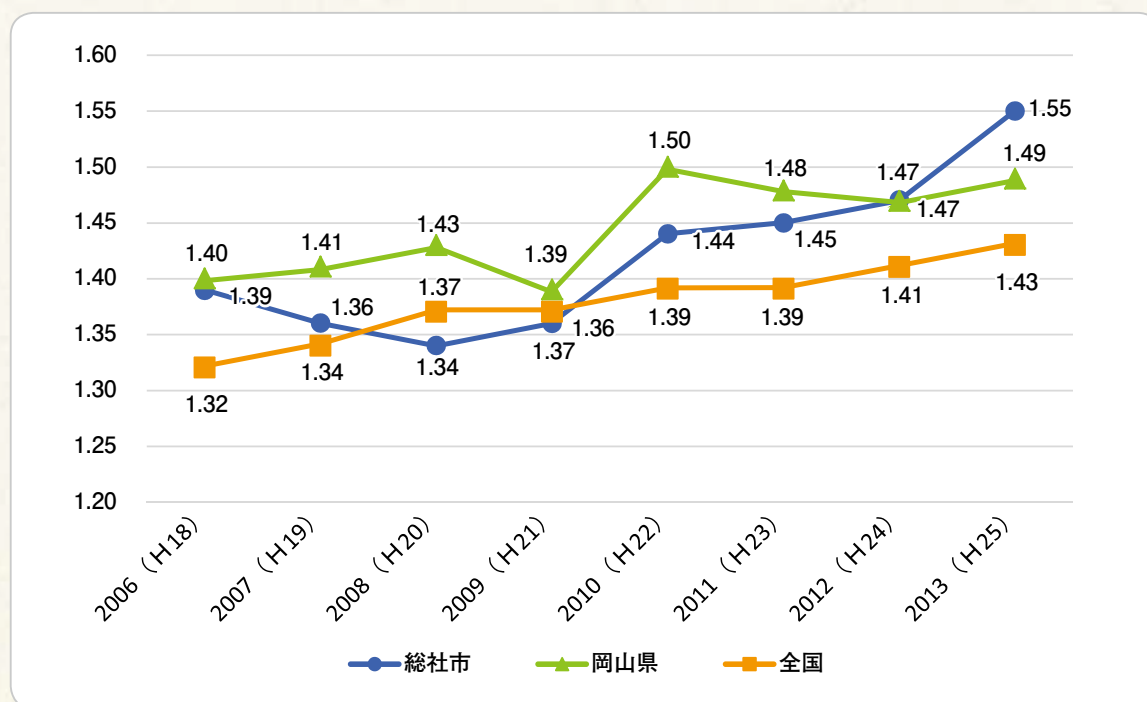


## (2) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、岡山県全体で昭和 46（1971）年～昭和 49（1974）年の第 2 次ベビーブーム期には 2.0 台で推移していましたが、平成 17（2005）年には過去最低の 1.37 まで落ち込みました。近年は微増傾向にはありますが、平成 25（2013）年は 1.49 であり依然として低い水準にあります。総社市は、平成 20（2008）年を境に増加傾向にありますが、国が示す人口を維持するために必要な 2.07 にはまだ及んでいません。

その理由としては、非婚化や晩産化の影響が大きいと考えられますが、子どもを持つことのコストの上昇、女性にとって出産・育児と就業継続が困難なことなども要因と考えられます。

### 合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省 人口動態調査

※合計特殊出生率：その年次の 15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に子どもを生むと仮定したときの子ども数に相当する。人口を維持するのに必要な合計特殊出生率は 2.07。

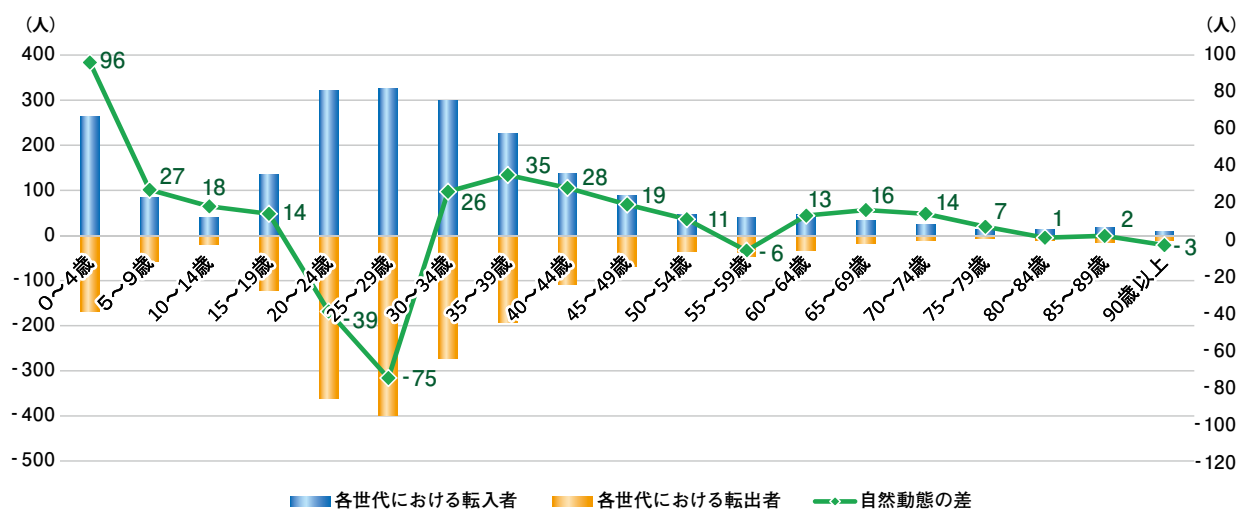
### 3. 社会増（転入超過）の要因

#### (1) 人口移動の状況

総社市における年齢別人口移動では、10代後半から40代前半にかけて、多くの転入・転出が見られ、昭和55（1980）年から平成12（2000）年までは特に進学期である10代後半から20代前半にかけて、平成12（2000）年以降は、就職期である20代前半から30歳にスライドし、転出超過が著しい状況にあります。この転出先は主に岡山市、倉敷市が半数を占めています。

このような中でも、就職から結婚した子育て世代が総社市に転入してきていることから、0～4歳と30～54歳の年齢層で転入超過となり、全体では社会増の傾向となっています。

#### 平成25年 年齢階層別の転入・転出状況



資料：政策調整課（岡山市住民基本台帳人口移動報告）

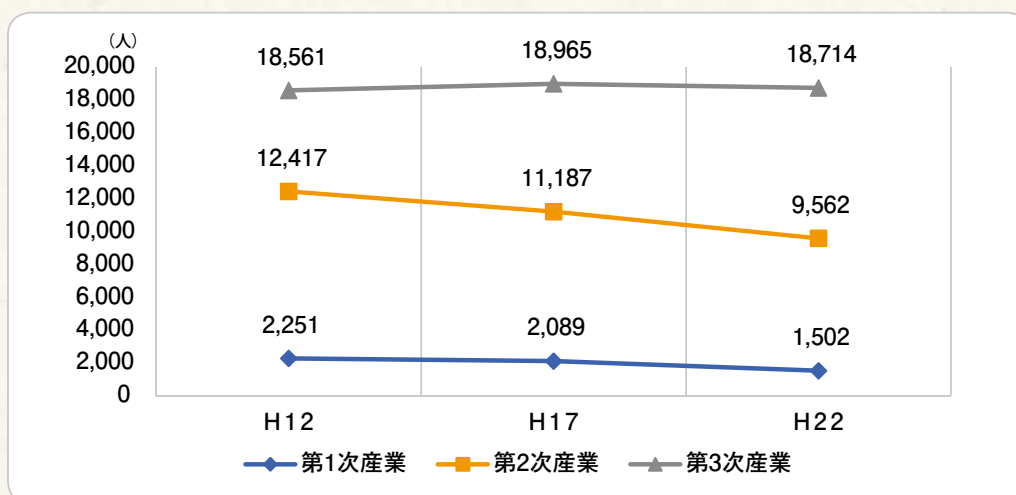


## (2) 産業別人口と個人住民税の推移

総社市における労働力状況は、平成12年から平成22年の間を国勢調査の統計でみると、15歳以上の人口は増えているものの就業者総数は減少し、非労働力人口と完全失業者数が増加しています。また、産業別就業人口では、第1次産業、第2次産業が低下しつつ、第3次産業が横ばい状態であることから、景気の低迷により市内で主軸産業となっている製造業が伸び悩んでいる現状が見られます。

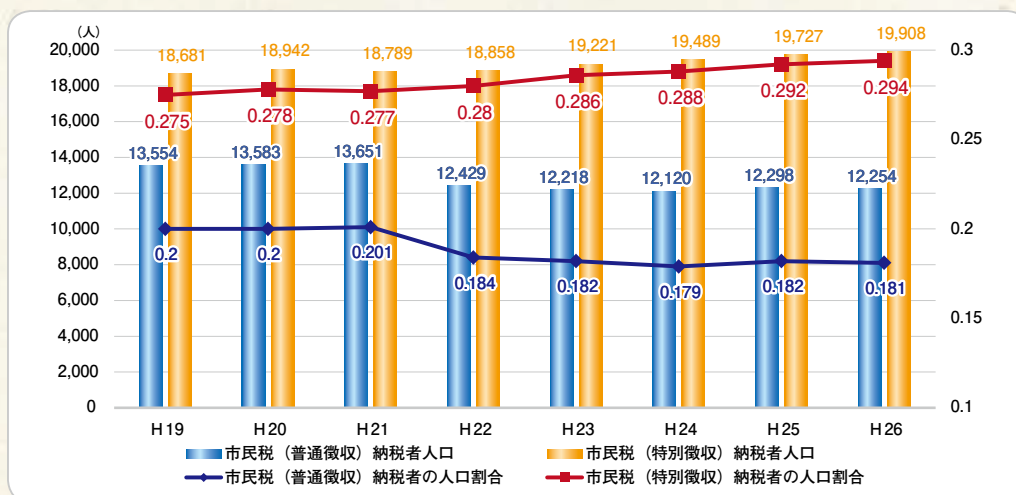
個人市民税の推移では、給与支払者である事業主が従業員から個人住民税を給与から天引きする「特別徴収」は増加していますが、所得区分別の総所得金額等における給与所得は、平成21年から平成22年にかけてリーマン・ショックの影響により大幅に下落しています。平成23年以降は、ゆるやかながら増加しています。

### 産業別労働人口（15歳以上就業者）



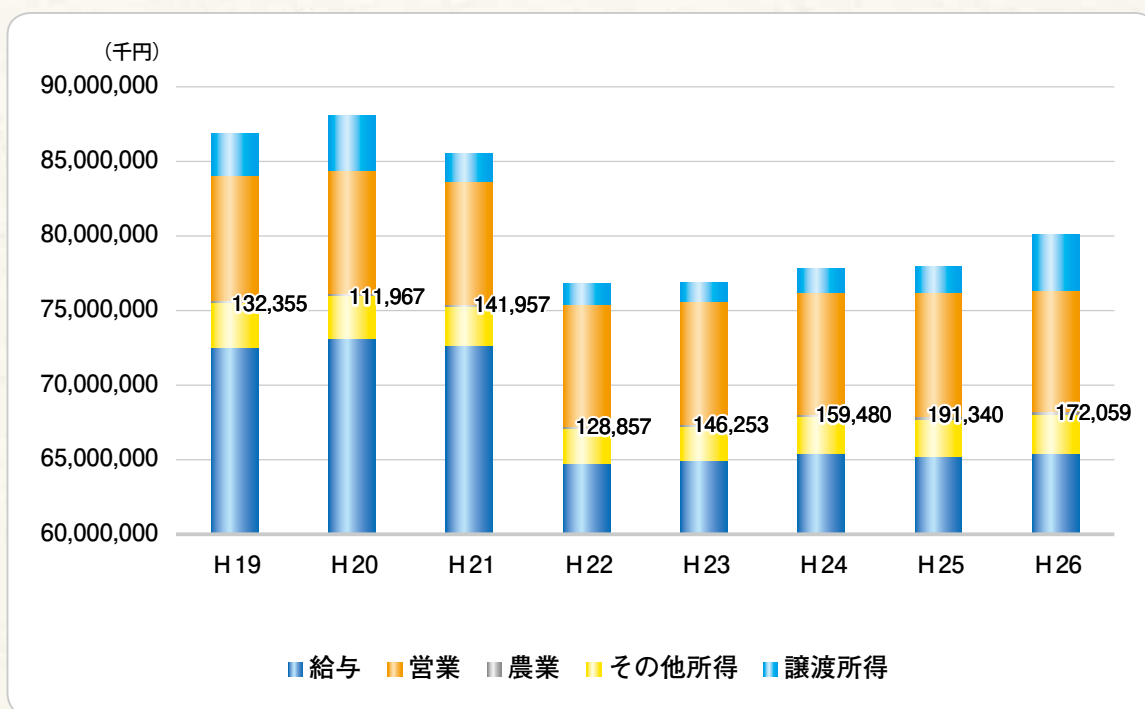
資料：総務省統計局 国勢調査

### 個人市民税納税者の推移



資料：税務課（市税概要）

## 個人市民税所得区分別の推移



## 個人市民税所得区分別の推移

(千円)

|       | H 19       | H 20       | H 21       | H 22       | H 23       | H 24       | H 25       | H 26       |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 給 与   | 72,494,577 | 73,122,946 | 72,631,667 | 64,731,597 | 64,928,658 | 65,429,723 | 65,185,597 | 65,398,439 |
| 営 業   | 3,023,061  | 2,879,184  | 2,633,337  | 2,369,717  | 2,302,197  | 2,460,697  | 2,517,226  | 2,664,275  |
| 農 業   | 132,355    | 111,967    | 141,957    | 128,857    | 146,253    | 159,480    | 191,340    | 172,059    |
| その他所得 | 8,384,216  | 8,283,529  | 8,234,860  | 8,151,323  | 8,237,943  | 8,175,535  | 8,338,331  | 8,115,259  |
| 譲渡所得  | 2,785,851  | 3,701,947  | 1,869,581  | 1,410,814  | 1,235,072  | 1,601,384  | 1,696,982  | 3,751,566  |
| 計     | 86,820,060 | 88,099,573 | 85,511,402 | 76,792,308 | 76,850,123 | 77,826,819 | 77,929,476 | 80,101,598 |

資料：税務課（市税概要）



## 4. 市内外国人の推移

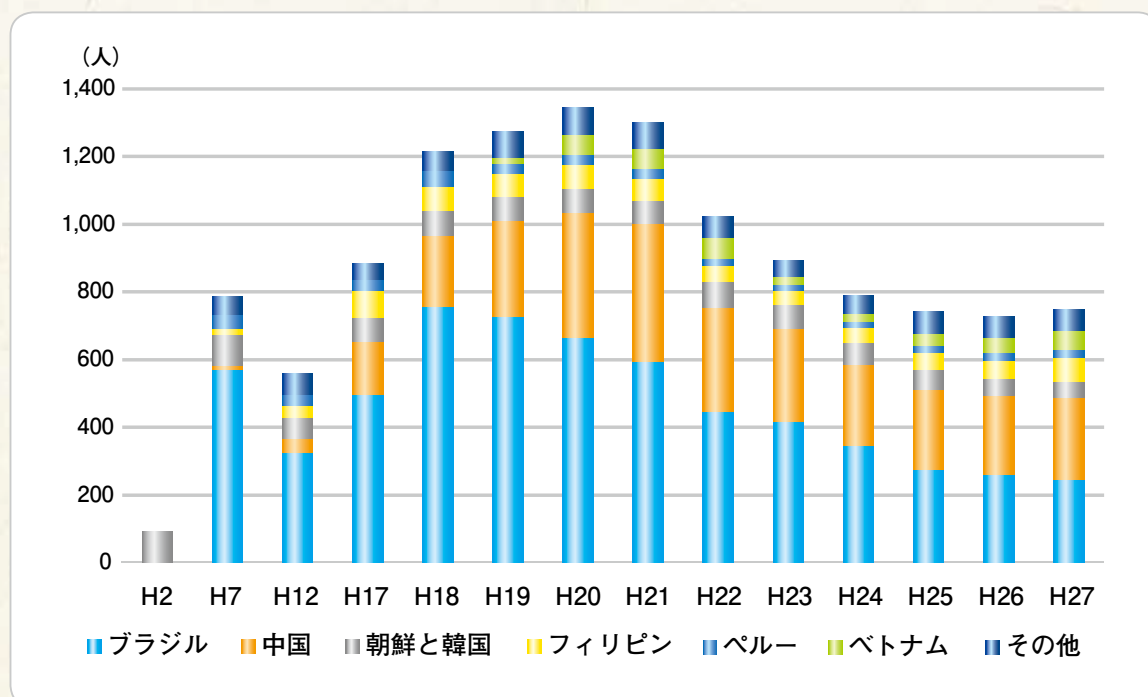
総社市には、三菱自動車を中心とした自動車部品工場が集積した地域があり、平成2年の出入国管理及び難民認定法改正以降、多くの外国人労働者が雇用され、居住してきました。しかしながら、平成20年秋のリーマン・ショックに端を発した経済危機により多大な影響を受け、その多くが解雇され、市外に転出していきました。

総社市の外国人市民は、平成27年4月1日現在、745人であり、総人口67,820人の1.10%を占めています。国籍別では、ブラジル、ペルーなどの南米系（36.9%）と中国（32.5%）が多く、総計26カ国の外国人市民が居住しています。

総社市は外国人総数を占めるブラジル人の割合が岡山県内で最も高い地域ですが、近年ではブラジル人は減少傾向にあり、一方、フィリピン、中国、ベトナム、インドネシアなどアジア諸国出身者の割合は増加傾向にあります。

### 市内在住外国人の推移

| 国名    | H2  | H7  | H12 | H17 | H18   | H19   | H20   | H21   | H22   | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ブラジル  | 3   | 576 | 329 | 494 | 760   | 732   | 669   | 596   | 451   | 416 | 349 | 279 | 261 | 248 |
| 中国    | 3   | 13  | 40  | 162 | 207   | 279   | 369   | 406   | 308   | 276 | 236 | 237 | 236 | 242 |
| 朝鮮と韓国 | 94  | 90  | 65  | 72  | 76    | 75    | 70    | 75    | 77    | 73  | 67  | 58  | 52  | 51  |
| フィリピン | 14  | 15  | 33  | 79  | 74    | 66    | 74    | 60    | 46    | 41  | 44  | 48  | 51  | 66  |
| ペルー   |     | 43  | 27  | 31  | 43    | 33    | 28    | 25    | 21    | 25  | 25  | 24  | 25  | 26  |
| ベトナム  |     |     |     | 2   |       | 12    | 59    | 66    | 61    | 20  | 20  | 36  | 44  | 56  |
| その他   | 6   | 47  | 62  | 40  | 52    | 71    | 73    | 71    | 58    | 39  | 46  | 56  | 54  | 56  |
| 計     | 120 | 784 | 556 | 880 | 1,212 | 1,268 | 1,342 | 1,299 | 1,022 | 890 | 787 | 738 | 723 | 745 |



資料：人権・まちづくり課（総社市における多文化共生施策）

## Ⅱ 人口の将来展望

### 1. やがて来る人口減少問題

#### (1) 人口増加から減少へ移行

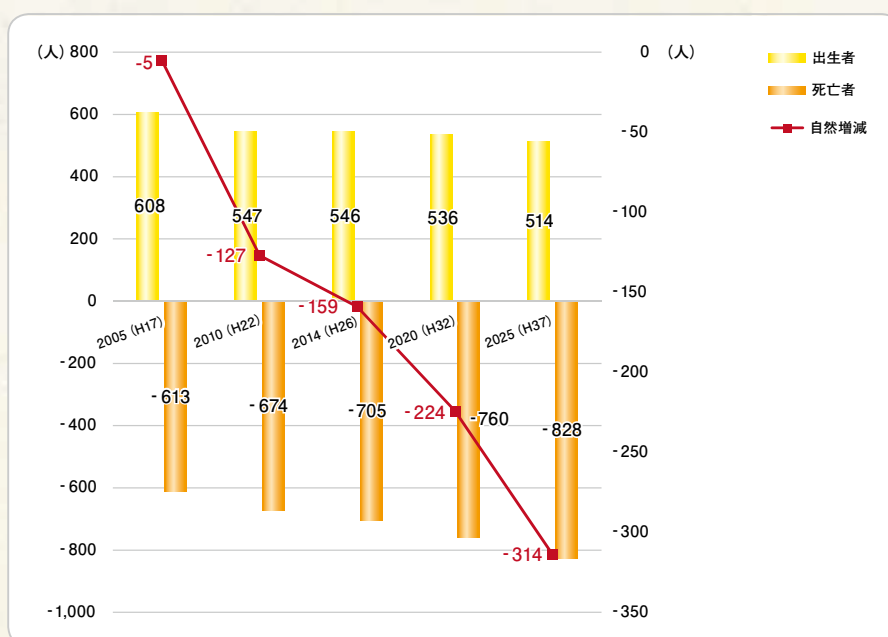
ここまで総社市の現状を見てきましたが、全国的に人口減少抑制が喫緊の課題となっている市町村と同様に、平成20年から人口減少が進みつつも、平成23年から平成27年まで微増してきている要因は、総社市の地理的環境と市が実施してきた独自施策の効果とも考えられます。

しかしながら、これからは総社市でも人口減少問題に目を向け、新たに効果的な施策を打ち出し、実行していかなければいけません。

#### (2) さらなる自然動態の減少

ここ5年における人口動態の傾向を踏まえた10年後の人口推移を予測した場合、平成26年の年間出生数546人、年間死亡者705人でマイナス159人という現状から合計特殊出生率1.48と社人研仮定値の生存率から算出した5年後は、年間出生者数が10人減少の536人、年間死者数が55人増加の760人でマイナス224人となり、10年後は年間出生者数が32人減少の514人、年間死亡者数が123人増加の828人でマイナス314人となることが推測されます。

### 自然動態の予測推移



資料：政策調整課（社人研提供の仮定値により作成）



### (3) 社会動態の減少

また、自然動態で減少した人口を補完していた社会動態は、全国的な人口減少の影響により、社人研の純移動率からは減少で推移予測する必要があります。平成26年では転入者数2,325人、転出者2,058人の267人増ですが、10年前から現在までの転出者数から、今後10年の転出者を2,000人／年と仮定すると、転入者は5年後1,818人となり、トータルでマイナス182人、10年後は1,839人となり、トータルでマイナス161人となることが予測されています。

#### 社会動態の予測推移



資料：政策調整課（社人研提供の仮定値により作成）

## 2. 総社市総合計画（総合戦略）策定による 目指すべき将来像

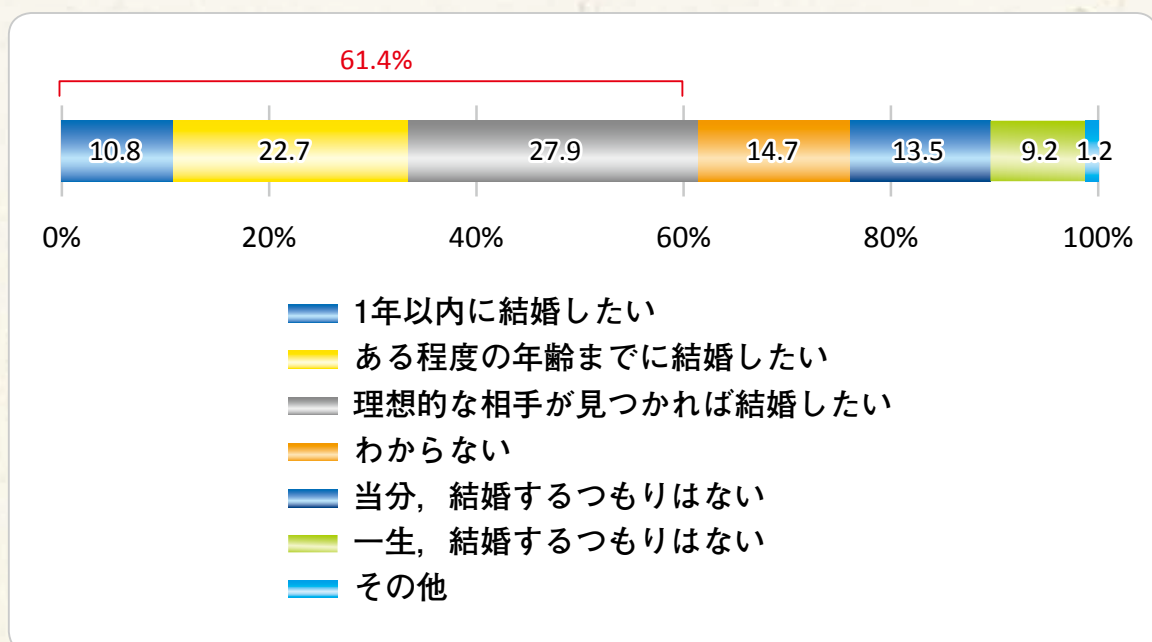
こうした人口が大幅に減少するという厳しい予測を踏まえ、総社市では第2次総合計画を策定していく中で、人口ビジョンについて総合戦略とともに重要な視点としてとらえ「目指す都市像」、「基本目標」、「基本計画」をもとに取り組むべき施策を次のとおり検討し、必要なものから実施していきます。

### （1）自然動態による人口減少の緩和…

#### 住みたくなる総社，集いitくなる総社

現在、総社市で実施している健康寿命に関する事業やいきいき百歳体操の普及啓発など高齢者が元気に過ごせる取組を進めるとともに、自らの将来を展望し、結婚したいという若年層に向けた婚活イベント、セミナーやライフプランを設計する機会の提供など、結婚・出産・子育てができる環境整備に努め、出生率の向上を図っていきます。また、若い世代の女性が総社市で働き、結婚し、子育てができるよう、雇用機会の確保や安心して子育てができる環境を整備していきます。

### 独身者（20～34歳）の自分の結婚について

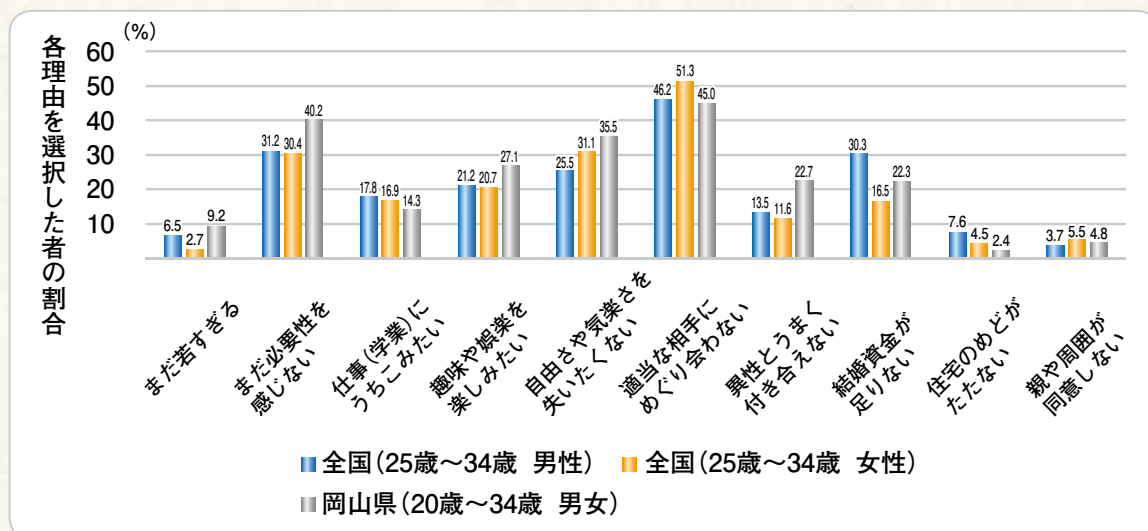


資料：岡山県「次期岡山いきいき子どもプラン策定に関する県民意識調査」（平成26年3月）



少子化の原因のひとつである晩婚化・未婚化について、独身者の61.4%が結婚をしたいという希望をもっていることがわかります。独身にとどまっている理由としては、全国、岡山県の独身男女とも「適当な相手にめぐり合わない」という者の割合が高くなっています。

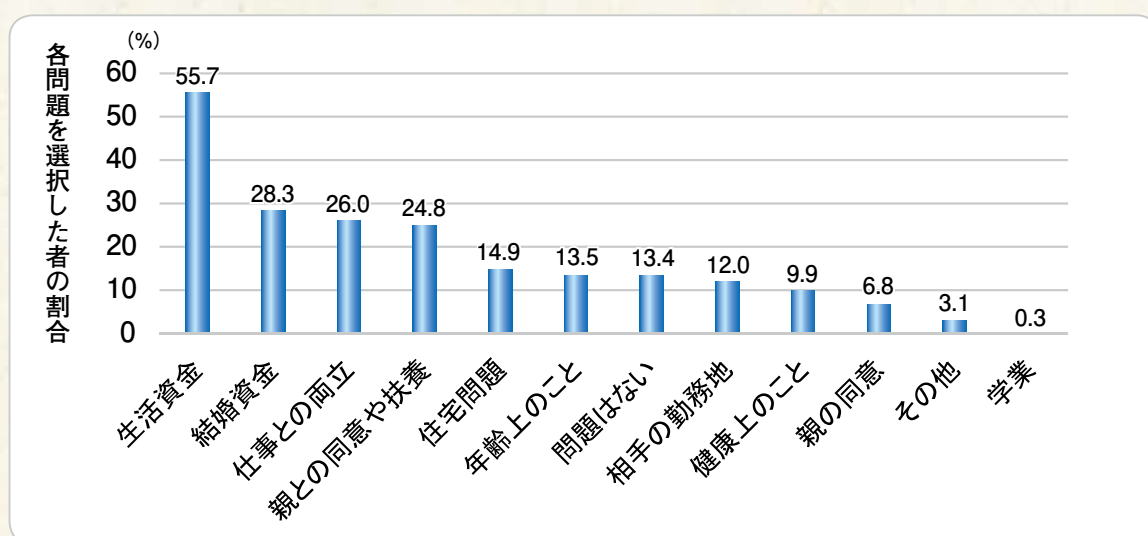
## 独身にとどまっている理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（2010年）」及び  
岡山県「次期岡山いきいき子どもプラン策定に関する県民意識調査（平成26年3月）」より作成  
※複数回答のため合計値は100%を超えています

県内独身男女の、「結婚に際してどんな問題があるか」との問いに対する回答は、生活資金（55.7%）、結婚資金（28.3%）など経済的理由が上位となっています。

## 結婚に際しての問題



資料：岡山県「次期岡山いきいき子どもプラン策定に関する県民意識調査」  
※複数回答のため合計値は100%を超えています（平成26年3月）

## (2) 社会動態の情勢を左右する若者世代の確保…

### 働きたくなる総社，学びたくなる総社

社会動態における人口増減を左右するキーワードは「若者」です。総社市で生まれ育った若者が学べる環境が整っていること，そして学んで身につけた能力を発揮できる働く場が市内にあるということが，人口流出を防ぐ重要なポイントになります。

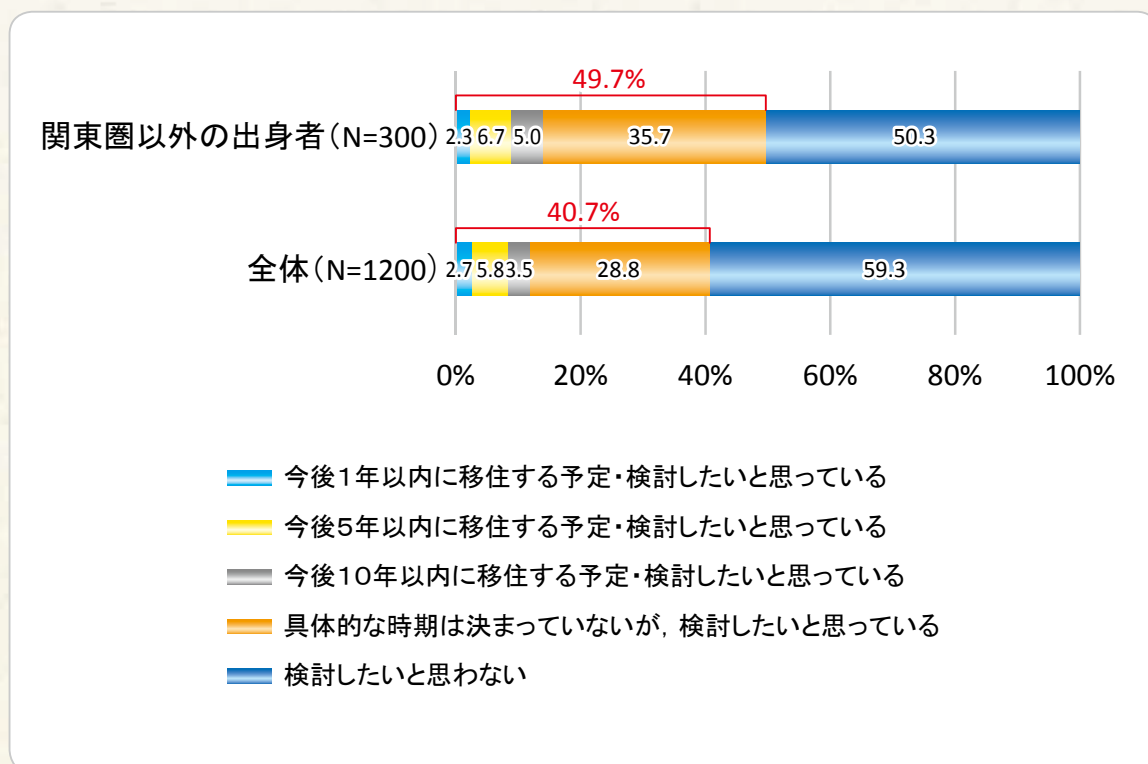
また，総社市に設置されている岡山県立大学の学生が，学生としての期間だけでなく，大学卒業後も引き続き総社市に住み続けてくれるように環境整備を行う必要があります。

## (3) 住みたくなるまちづくりの実践…

### 住みたくなる総社，訪れたくなる総社

定住・移住に関する意識調査等では，国の「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」によると，回答者全体 1,200 人のうち 40.7%が「移住する予定又は検討したい」と回答し，関東圏以外の出身者では 49.7%と高い割合となっています。年齢層別に見ると，男女とも 10 代，20 代で「移住する予定又は検討したい」と回答した人は 46.7%となり，特に女性では，若い年代で割合が高くなっています。

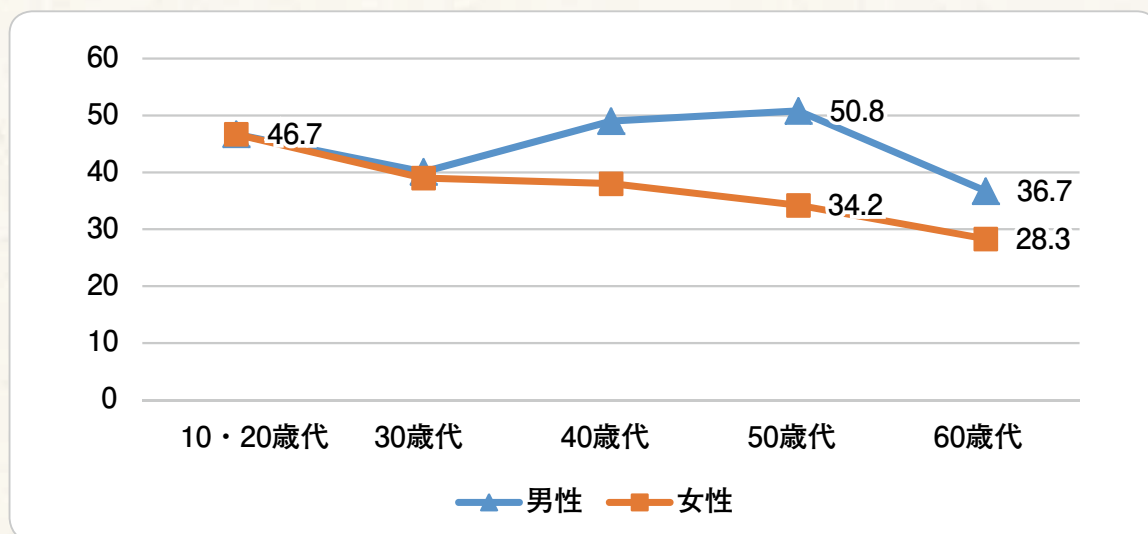
### 東京在住者の移住希望調査 (2014 年 8 月)



資料：岡山県「次期岡山いきいき子どもプラン策定に関する県民意識調査」(平成 26 年 3 月)



## 年代別の移住希望者の割合



※岡山県「次期岡山いきいき子どもプラン策定に関する県民意識調査」(平成 26 年 3 月)

ふるさと回帰支援センターの「ふるさと暮らし希望地域ランキング」結果によると、岡山県は 2012 年以降、3 年連続で全国 3 位以内となっており、移住先として大きく注目されていることがわかります。

## ふるさと暮らし希望地域ランキング

| 2012 年<br>県 名 | 2013 年<br>県 名 | 2014 年<br>県 名 | 岡山県の<br>ランキングの推移   |
|---------------|---------------|---------------|--------------------|
| 1 位 長野県       | 1 位 長野県       | 1 位 山梨県       | 2010 年<br>(21 位以下) |
| 2 位 岡山県       | 2 位 山梨県       | 2 位 長野県       | 2011 年<br>15 位     |
| 3 位 福島県       | 3 位 岡山県       | 3 位 岡山県       | 2012 年<br>2 位      |
| 4 位 香川県       | 4 位 福島県       | 4 位 福島県       | 2013 年<br>3 位      |
| 5 位 千葉県       | 5 位 熊本県       | 5 位 新潟県       | 2014 年<br>3 位      |
| 6 位 鳥根県       | 6 位 高知県       | 6 位 熊本県       |                    |
| 7 位 大分県       | 7 位 富山県       | 7 位 静岡県       |                    |
| 8 位 鳥取県       | 8 位 群馬県       | 8 位 鳥根県       |                    |
| 9 位 宮崎県       | 9 位 香川県       | 9 位 富山県       |                    |
| 10 位 和歌山県     | 10 位 鹿児島県     | 10 位 香川県      |                    |
| N=1017        | N=1642        | N=2885        |                    |

資料：NPO 法人ふるさと回帰支援センター

『「最近の移住・交流希望者の動向」～2014 年の相談者の動向について～東京・大阪』

こうしたことから、子育て世帯にスポットをあてて、地域の特徴を生かした教育を行う特区の認定や助成金の整備、また住民とのつながりを持って、安心して移住が行えるよう移住コーディネーター等の配置と空き家の利活用など人口減少が進んでいる地域を活性化させていきます。

### 3. 将来の人口展望

総社市は、今後10年間で「岡山・倉敷と並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」という将来都市像を掲げてまちづくりを進めていきます。この考え方は、岡山市・倉敷市と市の規模やサービス量を比較するのではなく、総社市流施策で、福祉文化を全国トップレベルにするよう“質”の部分伸ばしていこうとするものです。

まちづくりを実施していく中では、基本計画の各分野の数値目標をPDCAサイクルにより見直しを行いながら目標を達成していきます。そして、10年後に推移予測されている65,706人に対して次のとおり総社市流施策を実施する効果により約3,000人増加した人口推移予測69,000人を将来の人口展望として、事業を実施していきます。

#### 総社市流施策の実施による効果

##### 1. 人口動態（社会・自然）150人増／年 **10年間で1,500人増**

###### 【転出抑制】……………100人／年

若い世代の女性への生活・雇用支援による定住の確保と

市内企業雇用による就職期の転出抑制

H25 転出者数 2,014人

➡ H37 1,900人 **10年間で1,000人転出抑制**

###### 【自然動態減少】……………△50人／年

（1）健康寿命の延伸，検診の充実，いきいき百歳体操の普及啓発

年間死亡者数 H26 702人

➡ H37 830人⇒800人 **10年間で300人延命**

（2）合計特殊出生率の上昇

年間出生者数 H25 1,555人

➡ H37 1,555人⇒1,882人 **10年間で327人増**

##### 2. 子育て環境の充実や婚活による未婚者の10%を既婚化

25～29歳男性 6,020人，女性 5,909人の未婚者が10%既婚し，

平均2人を出産600組が結婚 ⇒ **10年間で約1,000人増**

##### 3. 岡山県立大学の学生市内居住者を増やし，卒業後も市内に在住

学生1,500人 H27 45%

➡ H37 55% **5年間で150人増，その後継続**

##### 4. 移住・定住促進地域への移住

昭和地区等への定住に関する助成金制度利用世帯

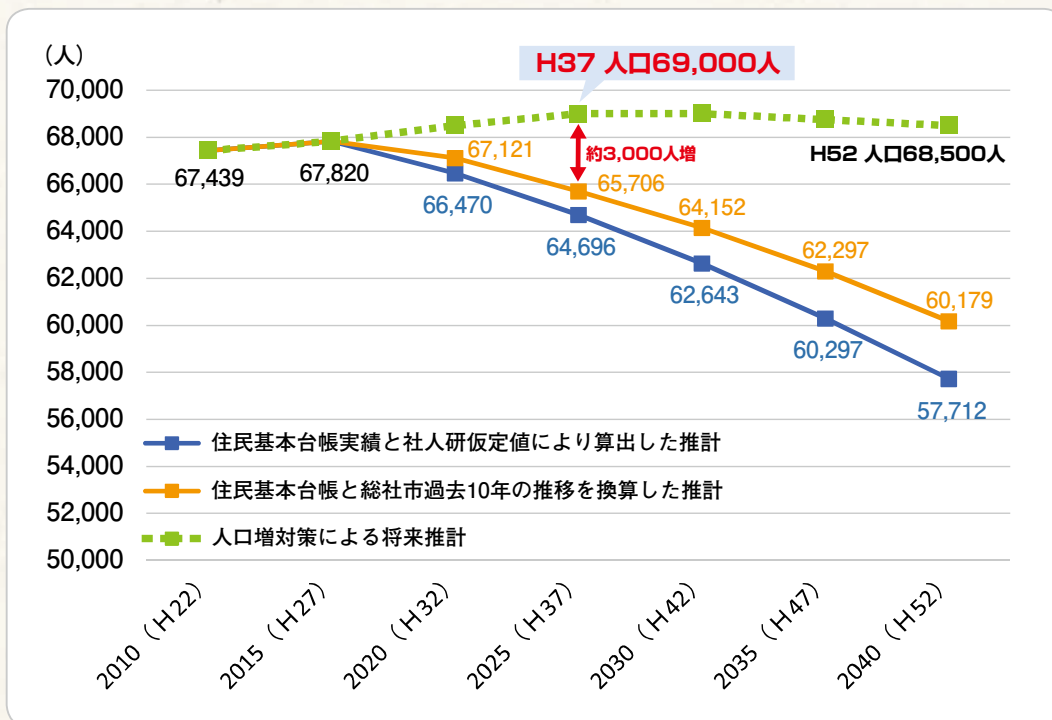
H27 5世帯 10人

➡ H37 15世帯 30人 **10年間で150世帯 300人増**

##### 5. 雇用確保による外国人の定住化

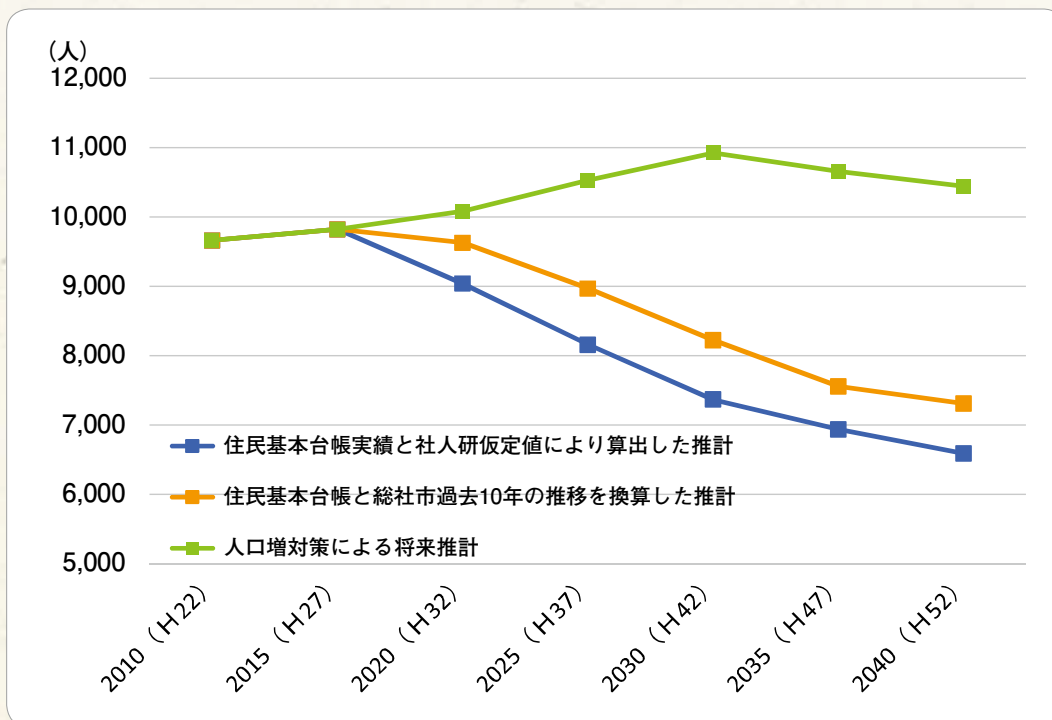


## 総人口の推移予測



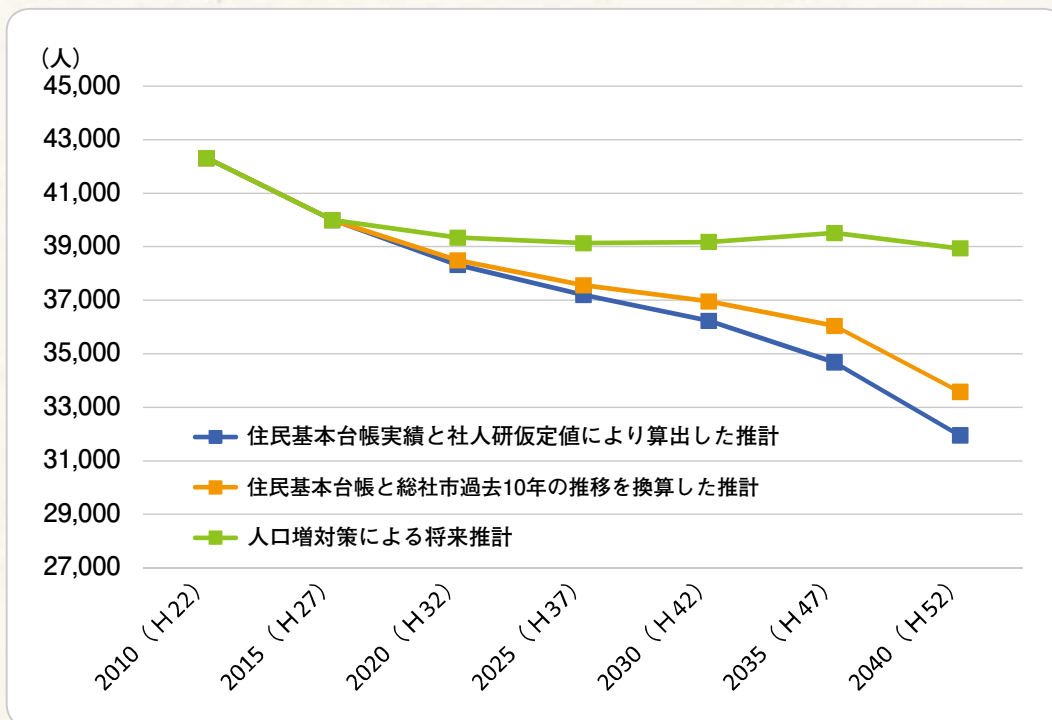
資料：政策調整課

## 0～14歳の年齢推移予測



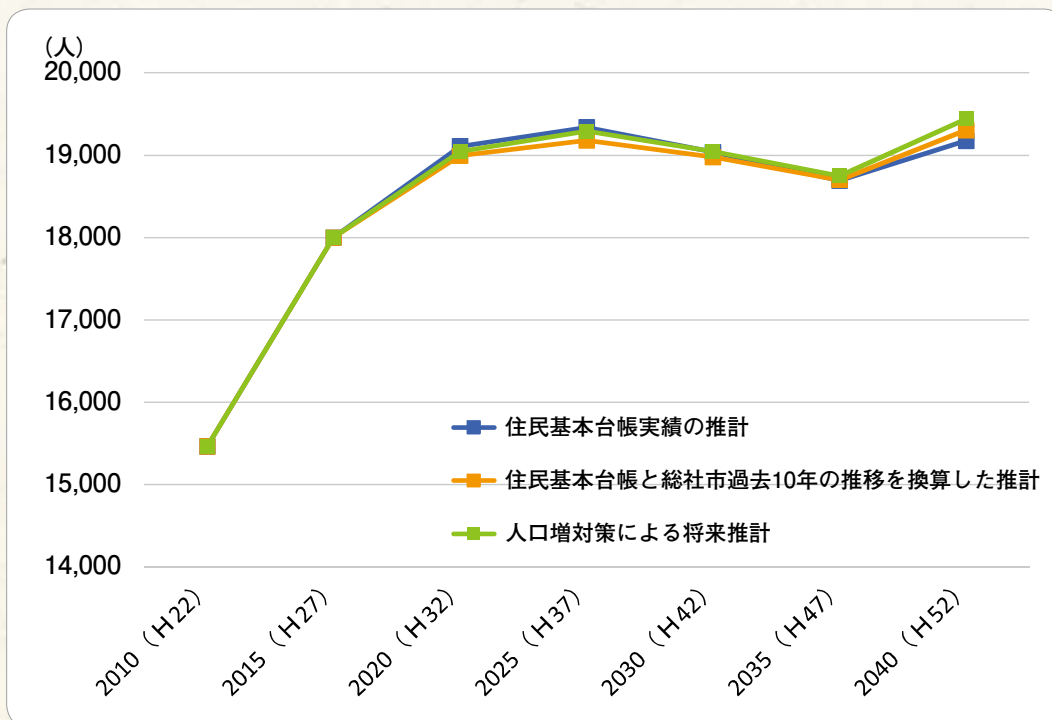
資料：政策調整課

## 15～64歳の年齢推移予測



資料：政策調整課

## 65歳以上の年齢推移予測



資料：政策調整課





## 5 土地利用方針

市民が住みよいまちづくりを進めるためには、福祉の充実を図るとともに、総社市の魅力と強みである文化・歴史的背景や地勢、交通条件、豊かな観光資源、自然環境、災害が少なく温暖な気候などの特徴を最大限に活かし、長期的な視点に立ち、合理的かつ計画的な土地利用を推進していくことが必要です。

この基本的な考えのもと、土地利用の基本方針を定め、本市の実情にあった土地利用を推進していきます。あわせて、自然的条件や歴史的条件、社会・経済的条件などの地域特性やこれまでの発展の経緯などにより、4つの区域に区分し、特色あるまちづくりを行うとともに、均衡の取れた発展を促し、さらに様々な形で相互に連携しあうことにより、目指す都市像である「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現を図っていかねければなりません。

### 1) 土地利用の基本方向

総社市では、近年、工業・流通施設等の積極的な誘致を進め、産業の活性化を図るとともに、国道180号総社バイパスや新総社大橋をはじめとする道路整備、清音駅東口駅前広場、常盤公園等の都市公園、下水道、土地区画整理事業等、都市基盤整備を進めてきました。また、新生活交通「雪舟くん」の導入を推進するなど、市民が便利に、幸せに暮らせる都市づくりを推進してきました。

一方、新たな産業需要に対しては、本市は広域交通ネットワークの利便性の良さから、近年、工業・流通施設等の立地需要が高まりを見せているものの、総社市を含めた6市1町の計7市町で構成し、都市計画区域の範囲や規模を規定する「岡山県南広域都市計画区域」における、本市の市街化区域の割合は、3.5%（938ha／26,386ha）となっており、現在の市街化区域では、企業誘致に適した一定規模かつ整形の土地が確保できないという課題もあります。

また、国において、平成28年度から、地方の実情に応じた主体的な土地利用を行う観点から、農地転用権限移譲を行うこととなりました。これらの制度も活用しながら、さらなる工業・流通施設等の立地需要の高まりに対応しつつ、秩序ある開発を促し、適切な土地利用の誘導や基盤整備、優良農地の確保を進めることで、土地の有効活用や効率的な社会経済活動に貢献するとともに、歴史文化あふれる景観や自然環境を守り、次代に繋げていくまちづくりを進めていかなければなりません。

そして、それぞれの地域が土地利用も含め、特色あるまちづくりを行うとともに、さまざまなかたちで結びつき、均衡ある発展をとげ、目指す都市像である「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現を図りましょう。

### 2) 各地域別の振興の基本方針

土地利用の基本方向を踏まえ、自然・歴史的条件、社会・経済的条件はもとより将来都市構造のエリア・拠点等により、本市を4つの地域に区分し、その振興の基本方針を定めます。

## 土地利用の基本方針について

目指す都市像である「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の  
実現のため、優良農地の確保や企業誘致など社会情勢変化に対応し、地域の実情に応じ主体性  
をもつとともにバランスの取れた土地利用を計画的に行う。

# 4つの基本方針



### 東部地域

吉備の歴史文化（備中国分寺、鬼ノ城）と学術（県立大学）・産業が調和し、新しさが会おう交流のまちとして、歴史的文化的遺産を守り、大学、産業、観光と共存する広域交通の結節点として、市外の来訪者を迎え、新しい吉備文化を発信していく交流地域

### 南部地域

魅力ある交流機能を持つにぎわいと自然が調和するまちとして、都市核となる公的機関、商業施設、商店街、文化施設、井山宝福寺、総社宮や住宅地、工業地が、自然と共存しながら、活力とにぎわいとやすらぎを生み出していく地域

### 西部地域

緑の田園に広がる農業とものづくりに支えられ定住のまちとして、豊かな田園環境を基盤に農業と工業地（ウイングバレイなど）、定住地が連携、調和しながら定住を実現する地域

### 北部地域

豪渓や森林、高梁川、榎谷川が織りなすふれあい環境と共生のまちとして、流域の暮らしを守る防災対策とともに、農林業やレクリエーションを通じ人と自然が共生する豊かなコミュニティが維持される地域



## ○東部地域

| 地 域  | 三須, 服部, 阿曾, 山手地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の東部に位置し, 岡山市, 倉敷市に接しています。</li> <li>・備中国分寺や鬼ノ城などを有する, 2つの県立自然公園をもつ古代吉備の国の文化遺産が豊富に残された貴重な地域であることに加えて, 岡山自動車道岡山総社インターチェンジや国道429号, 国道180号バイパスなど本市の強みである広域的な道路網が形成されています。</li> <li>・岡山県立大学はもとより大型物流拠点も整備され, さらなる拠点として整備が期待されています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 基本方針 | <p><b>大学と産業と観光の共存</b></p> <p>吉備の歴史文化（備中国分寺, 鬼ノ城）と学術（県立大学）・産業が調和し, 新しさが出会う交流のまちとして, 歴史的文化的遺産を守り, 大学, 産業, 観光と共存する広域交通の結節点として, 市外の来訪者を迎え, 新しい吉備文化を発信していく交流地域</p> <p>《観光・文化拠点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●吉備路風土記の丘県立自然公園周辺を中心に, 豊かな自然環境と歴史文化, 人々の営みが育んだ吉備文化の香る特色ある風土を守り育て, 観光と暮らしが両立する, 魅力的な地域づくりを目指しましょう。</li> </ul> <p>《県立大学周辺拠点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●恵まれた広域交通条件や岡山県立大学を中心とした学術・文化施設の立地を活かし, 交流の推進と産業の振興を目指しましょう。</li> <li>●岡山県立大学, 物流施設周辺については, 総社市の東の玄関口とすべく地域拠点として整備し, 公共交通機関との連携を図り, 交流とにぎわいのある地域づくりを目指しましょう。</li> </ul> |

## ○南部地域

| 地 域  | 総社, 常盤, 清音地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の中央部から南部に位置し, 倉敷市に接しています。</li> <li>・地域の西部は高梁川が南北に流れ, 中央部は平野が広がり, 北部と南部は丘陵地が連なる地形となっており, 平野部は, 市街地, 住宅地域, さらに工業地域として整備され, 本市の中心として都市的サービスとまちのにぎわいを提供しています。</li> <li>・井山宝福寺や総社宮など, 総社を代表する寺社があり, 歴史を物語るとともに観光や文化の発信地として市民に親しまれています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                |
| 基本方針 | <p><b>市街地の再生</b></p> <p>魅力ある交流機能を持つにぎわいと自然が調和するまちとして, 都市核となる公的機関, 商業施設, 商店街, 文化施設, 井山宝福寺, 総社宮や住宅地, 工業地が, 自然と共存しながら, 活力とにぎわいとやすらぎを生み出していく地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●J R総社駅から東に向けての市街地中心部においては, 本市の都市核として土地の高度利用や有効活用, 防災拠点, 都市機能の集積を図り, まちなか居住を進め, 本市の顔となる魅力的で活力あるまちづくりを目指しましょう。</li> <li>●落ち着いた居住環境や創業しやすい生産環境, 豊かな自然環境や歴史的景観が共存する地域づくりをめざしましょう。</li> <li>●中心市街地においては, 空洞化を抑制すべく, 空き家・空き店舗を活用する施策等を行うとともに, 土地の高度利用等による市街地の活性化を図りましょう。</li> </ul> |

## ○西部地域

| 地 域  | 秦, 神在, 久代, 山田, 新本地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁川の西側にあつて倉敷市, 矢掛町に接しています。</li> <li>・地域の北部及び南部に丘陵地が広がり, 新本川流域の背景となる自然豊かな里山の景観が形成されています。</li> <li>・農業条件に恵まれ, 古代から赤米の生産が継承されるなど, 穏やかな田園風景が多く残されるとともに, 丘陵地には住宅団地や工業団地(ウイングバレイなど)が形成されています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |
| 基本方針 | <p><b>農業と工業の融和</b></p> <p>緑の田園に広がる農業とものづくりに支えられた定住のまちとして, 豊かな田園環境を基盤に農業と工業地(ウイングバレイ), 住宅地が連携, 調和しながら定住を実現する地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●丘陵部の緑や高梁川, 新本川などの自然資源と農地の広がる田園風景を守り育て, 環境と共生した魅力ある地域づくりを目指しましょう。</li> <li>●新総社大橋の整備に伴い, 地域の雇用・交流の推進を通じ, 農業と工業地, 住宅地が連携, 調和する定住性の高い地域づくりを目指しましょう。</li> <li>●優良農地を確保しつつ, 農地転用制度を活用し, 企業誘致を進め, 市の東西のバランスの取れた発展を目指しましょう。</li> <li>●教育特区の活用等による, 年少人口増加の施策により地域活性化を図っていきましょう。</li> </ul> |

## ○北部地域

| 地 域  | 池田, 昭和地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概 況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の北部に位置し, 東側は岡山市に接しており, 北側から西側にかけて吉備中央町, 高梁市, 井原市, 矢掛町に接しています。</li> <li>・森林が広がり, 高梁川, 槇谷川及びそれらの支流などの清流や国指定名勝である豪溪, 秋葉山など, 自然と景勝に恵まれた地域となっています。</li> <li>・池田地区は市街化調整区域, 昭和地区は都市計画区域外となっています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |
| 基本方針 | <p><b>自然との共生</b></p> <p>豪溪や森林, 高梁川, 槇谷川が織りなすふれあい環境と共生のまちとして, 流域の暮らしを守る防災対策とともに, 農林業やレクリエーションを通じ人と自然が共生する豊かなコミュニティが維持される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●森林や高梁川, 槇谷川などの豊かな自然資源や田園景観を守り育て, これらを活かした特色ある田園居住環境や自然観察・レクリエーションの場の創出を目指しましょう。</li> <li>●農林業の振興や身近な生活環境の向上を図りつつ, 計画的な開発誘導を図り, コミュニティの維持と定住の促進に配慮した地域づくりを目指しましょう。</li> <li>●幼小中一貫の英語教育「英語特区」や定住促進助成金等の施策により, 少子高齢化や過疎化の進展を抑制し, 持続可能な地域づくりを推進しましょう。</li> </ul> |

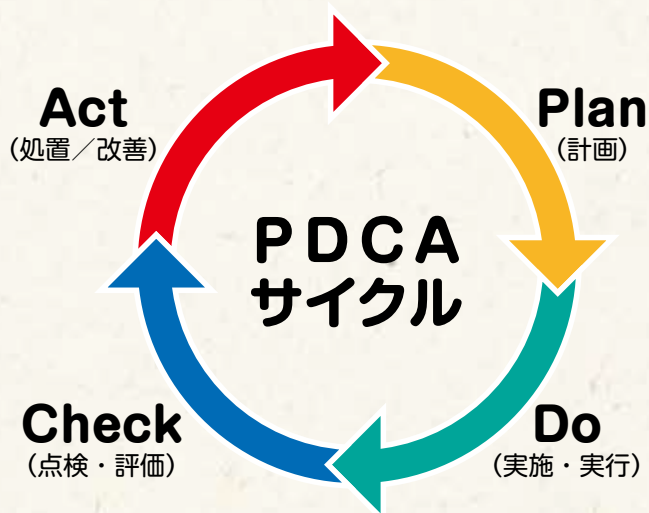


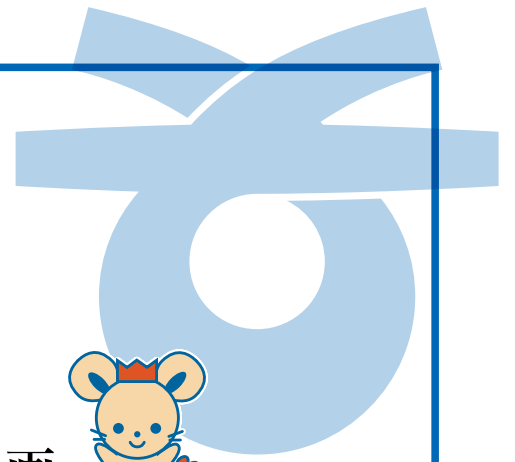


## 6 評価・検証

基本目標と重要業績評価指標（KPI）の達成状況を適切に把握し、政策の効果を検証し、毎年、必要な見直しと改善を図り、翌年度への事業実施に生かしていくPDCAサイクルを確立します。

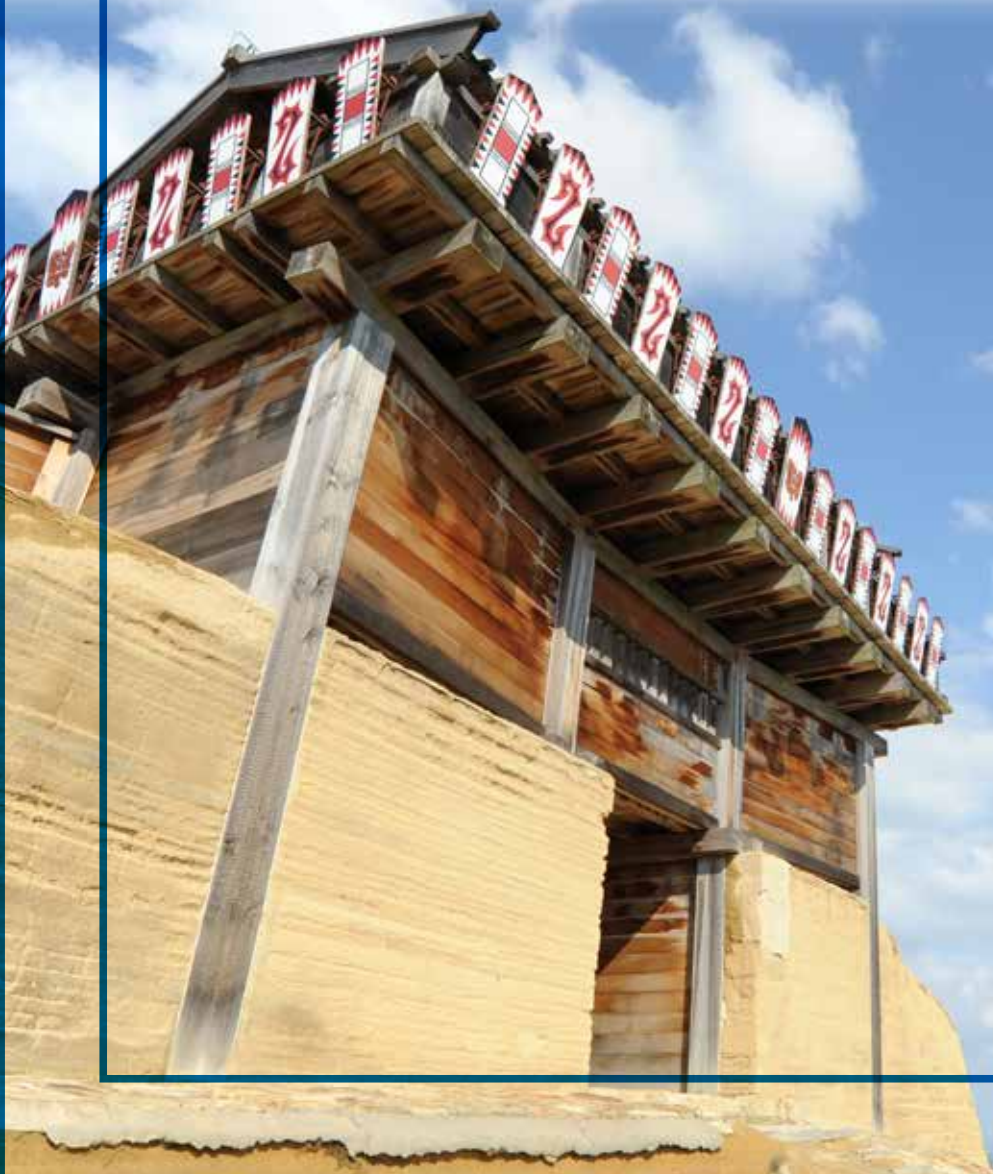
市役所において事業の評価、検証を行い、進捗状況の確認においては、満足度調査など市民アンケート等も活用します。さらに総合計画審議会や市議会において進捗状況等の報告を行い、必要があれば基本計画の見直しを行います。





## 第2次総社市総合計画

# 基 本 計 画



## 基本計画の構成について

平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間を前期基本計画期間とし、基本構想に定めた目指す都市像である「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社 ～全国屈指の福祉文化先駆都市～」を実現するための計画です。

みんなで支えあい、考え、力を合わせて実行し、総社市流の暮らしやすいまちをつくっていきましょう。

## 前期基本計画 [H28～32]

重点推進施策＋関連施策

→ できるものは、H27から実施する

重点推進施策

Ⅱ

総合戦略 (H27～31)

### だれもが 住みたくなる総社

#### 子育て

「子育て王国  
そうじゃ」を  
さらに深化する



#### 社会保障

高齢者  
障がい者 など

いつまでも総社で  
安心して暮らす



#### 住宅・生活 基盤

総社に  
住み続けたい



#### 移住・定住 促進

魅力ある総社に  
住んでもらう



#### 防災・消防

総社を  
大災害時の  
支援拠点にする



### だれもが 働きたくなる総社

#### 雇用

総社で「働きたい」  
「雇用したい」を  
応援する



#### 農林業

総社の農業を  
元気にする



#### 商工業 物流

総社企業・起業  
を応援する



### だれもが 学びたくなる総社

#### 学校 幼児教育

誰もが行きたく  
なる学校をつくる



#### 家庭教育

家庭や地域の  
学びを応援する



#### スポーツ・文化 生涯学習

総社で生涯学び、  
スポーツをする



### だれもが 訪れたくなる総社

#### 観光

総社の魅力を  
発信する



#### 都市・社会 基盤

総社の景色を  
変える



#### 自然・環境

美しい総社を  
未来へ繋げる



### だれもが 集いたくなる総社

#### 市民参加

市民と共に  
総社を創る



#### 広域連携

岡山・倉敷と  
連携する



#### 市役所

市役所を  
改革する



## 基本目標 1

## だれもが住みたくなる総社

結婚・妊娠・出産・子育てを総合的に支援するとともに、切れ目のない介護・医療体制等の確立による市民の安全・安心を確保する取組を進めていきます。総社に住んでいるだれもが安全・安心で快適な生活が送れ、さらに多くの人が移り住んでくる施策を充実・強化していきます。

## 基本目標

転入超過数：155人／年（直近5年間の平均）

➡ 年平均200人以上（今後5年間の累計の平均）

## 重点的な施策

## ① 子育て「子育て王国そうじゃ」をさらに深化する

総社市では、平成20年から「子育て王国そうじゃ」をスローガンに掲げてきました。これからも、様々な子育て支援を深化させ、地域の中で安心して子育てができるように、地域とともに子どもを育て支え合う仕組みを構築するとともに、妊娠期から子育て期までの総合的な相談支援を提供するワンストップ拠点を整備し、育児不安の解消や虐待予防対策、ひとり親家庭等の支援を図ります。

さらに、心身ともに健やかな子どもが育つよう、様々な問題を抱える子育て家庭に寄り添うとともに、子どもが発達していく過程において必要な支援を強化し、子育て家庭に対して早期から一貫したサポートを行います。

また、近年の企業誘致により、雇用の機会が増えています。働く意欲のある人が安心して就業できる環境を整えることは大変重要です。このため、ワーク・ライフ・バランスの推進、保育所や放課後児童クラブにおける待機児童の解消に努めます。

このほかにもファミリーサポートセンターや病児保育、つどいの広場事業など、多様なニーズに応じた事業も充実させていきます。

## 重要業績評価指標（KPI）

現況 ➡ H32

|                                    |        |   |                 |
|------------------------------------|--------|---|-----------------|
| ■ 転入者数                             | 2,173人 | ➡ | 2,400人          |
| ■ 出生数                              | 564人   | ➡ | 646人            |
| ■ 待機児童数                            | 50人    | ➡ | 0人(平成30年度までに達成) |
| ■ 子育てしやすいと感じている人の割合<br>(市民アンケート数値) | —      | ➡ | 80%             |
| ■ 子宮頸がん検診（HPV検査）の受診者数              | —      | ➡ | 350人            |



### 待機児童を3年以内に“ゼロ”に

- 幼稚園の預かり保育の拡充
- 放課後児童クラブの充実
- 事業所内保育事業，小規模保育事業の実施
- 更なる保育定員の確保
- 認定こども園の整備（井尻野幼稚園・総社保育所など）
- 地域と一体となった子育て



### 妊娠期から子育て期をワンストップで支援

- 妊娠期から子育て期までの切れ目のない  
総合的な相談支援を提供するワンストップ拠点の設置  
・市役所の子育て関連部署・窓口の一元化
- 女性の健康づくり支援（子宮頸がん検診等の推進）
- 中学校3年生までの医療費無料化の検討



### 支援が必要な子どもを応援

- ひとり親家庭への支援（自立支援推進員による生活・就業支援と母子・父子自立支援員，家庭児童相談員による相談支援の充実）
- 子どもの貧困対策（経済・食料・学習支援）
- そうじゃ式早期一貫サポートシステム等による，集団生活で困難さをもつ子どもへの支援を強化

## ② 社会保障（高齢者・障がい者など） いつまでも総社で安心して暮らす

日本の人口は，2050年には約30%は減少し，高齢化率も20%から40%へ上昇すると言われています。また，市内には約3,000名の障がい者手帳所持者がいます。このような中，高齢者や障がい者が安心して生きがいを持って暮らすことのできるシステムづくりや地域みんなで見守るネットワークづくりなどの構築が必要です。

高齢者が社会的に孤立することがないように，人との交流の場へといざなう「雪舟くん」等の地域公共交通手段の確保や，要介護状態に陥ることなくいつまでも元気に暮らせるよう，若い働く世代からの健康管理や高齢者の介護予防への取組も行います。

また，地域と医療が連携し，切れ目のない介護と医療の連携をめざします。

低所得者の生活改善や生活保護の適正な運用，高齢者・障がい者虐待・権利擁護などに対する相談・支援機能をさらに充実させ，自立し，いつまでも安心して暮らせるまちづくりを行います。

重要業績評価指標（KPI）

現況 → H 32

|                  |             |   |         |
|------------------|-------------|---|---------|
| ■ 雪舟くん 1 日平均乗車数  | 229 人（H 26） | → | 250 人   |
| ■ 認知症サポーターの数     | 2,538 人     | → | 6,000 人 |
| ■ いきいき百歳体操の実参加者数 | 1,925 人     | → | 2,800 人 |

## 独居高齢者の孤立を防ぐ

- 高齢者単身世帯及び高齢者世帯の閉じこもり防止や見守りの強化
- 社会的孤立の防止や孤立死の未然防止対策の推進

## 高齢者のケア・見守りの強化

- 認知症の早期発見・早期治療，介護者の支援，認知症サポーターの養成など，認知症対策の拡充
- 地域包括支援センターを中心とした高齢者・要介護者が地域で安心して過ごせる体制と地域が連携した見守り体制の整備
  - ・ 生活支援サービスを行うボランティア等担い手の養成
  - ・ 住宅改造助成や福祉施設の整備，グループホームの活用

## 雪舟くんの利便性強化

- 予約受付システムの更新や運行台数・エリアの検討等により利用者や運行事業者の利便性を向上。他の公共交通にあわせた運行

## 切れ目のない介護と医療体制をつくる

- 吉備医師会・川崎学園・倉敷中央病院・倉敷平成病院や圏域内の医療機関との医療連携の強化
- 回復期の対応，民間の第 2 次救急病院の整備と救急搬送体制の充実強化
- 地域包括支援センターの機能強化

## 障がい者の支援の充実

- 障がい者が安心して暮らせるための相談や福祉サービスの充実
- 道路や施設等，住宅等におけるバリアフリー化の推進
- 障害者差別解消法に基づく合理的な配慮の推進

## 元気でいきいき！健康寿命を延ばす

- 健康診査やがん検診の受診率のアップと市民の健康管理意識の向上を図る
- 「いきいき百歳体操」や口腔ケアの推進など介護予防の普及・啓発



### ③ 住宅・生活基盤 総社に住み続けたいくなる

「ずっと総社に住み続けたい」と望んでもらえる総社にするためには、まず市民の生活体系や地域交通体系の変化を的確にとらえることが必要です。

道路・交通網の広域的な整備により、市民生活の利便性をさらに向上させ、安全で快適な居住環境を確保することに努めます。また、美袋駅、日羽駅、豪溪駅、総社駅、清音駅、東総社駅、服部駅といった7つの駅の地理的特色と地域性を生かした活用を促進していきます。

特に、岡山市と総社市を結ぶＪＲ吉備線のさらなる利便性向上に加え、服部駅を中心とした地域拠点の整備を行います。また、市街地への都市機能の集約と再活性化に合わせて、地域拠点間のネットワークづくりにより、車がなくても生活が可能な、高齢者等にも優しく住みよいまちづくりを図ります。

夜間ピカピカ大作戦では、夜間の防犯対策に加え、新たなデザインの街路照明等を整備し、情報発信ツールとして活用するとともに、より安全安心な快適な空間をつくっていきます。

#### 重要業績評価指標（ＫＰＩ）

現況 → H 32

|                      |   |         |
|----------------------|---|---------|
| ■ 宅地面積 1,475ha       | → | 1,505ha |
| ■ 統一されたデザインによる街路灯の設置 | — | 80基     |

#### 吉備線をもっと便利に

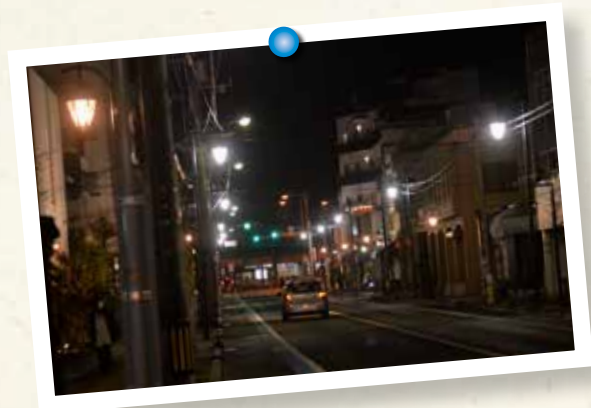
- 吉備線のＬＲＴ化の検討
- 吉備線に連結する２次交通の整備
- 沿線・周辺土地の整備及び用途変更

#### 市街化区域の再活性化

- 住宅の高層化など市街地中心部の土地の高度利用を促進
- 市街化区域内での用地確保と産業施設の計画的な立地誘導の実施
- 市街地への都市機能の集約と、雪舟くんなど地域拠点間を結ぶ移動手段の確立
- 空き店舗等の活用

#### 夜間ピカピカ大作戦

- 総社市流デザインに統一した街路照明の整備
- 都市アメニティ照明の整備
- 地区防犯灯の増設



#### ④ 移住・定住促進 魅力ある総社に住んでもらう

自分が住んでいるまちが魅力的であることは、市民全員の願いです。また総社市以外の人に、総社市の魅力をひとつでも多く挙げられることは、多くの人が総社市へ行こう、住んでみようという定住意識にもつながります。

急速な人口の減少と少子高齢化に直面している今、総社市の魅力をより向上させ、情報発信を積極的に進めることで、多くの人が総社市に集まるまちづくりを推進します。住んでよかったと思える総社をつくるため、市街化区域の活性化など文化的で快適な生活空間をつくりあげます。

##### 重要業績評価指標（KPI） 現況 → H 32

|                              |        |
|------------------------------|--------|
| ■ カップリングパーティー参加者のうち          |        |
| カップル成立数（累計） 11 組 .....       | ➡ 70 組 |
| ■ 結婚活動事業による成婚数（累計） 0 件 ..... | ➡ 10 件 |
| ■ 移住相談等の施策により移住した件数          |        |
| （定住祝い金対象）（累計） 2 件 .....      | ➡ 75 件 |

### 結婚を応援

- カップリングパーティーやセミナーなど婚活事業の充実
  - ・総社市の地域性や独自イベントを生かしたカップリングパーティーの実施
- 若い年齢での結婚の希望の実現のため、岡山市・倉敷市の結婚サポートセンターの活用促進

### 移住・定住を促進

- 移住相談会や移住助成金の活用，移住コーディネーターによるサポートと成功事例の提示などによる I J U ターンの促進
  - ・地域と密着した移住促進を支援
- 空き家の実態調査に基づく利活用や適正管理，住宅や住宅用地の整備



## 5 防災・消防 総社を大震災時の支援拠点にする

総社市は、様々な危機に備えた安心・安全なまちづくりを推進します。

甚大な被害をもたらすと言われている南海トラフ巨大地震や頻発するゲリラ豪雨などによる被害を想定して、被害を最小限に抑え、市民の生命・財産を守るため、危機管理体制を強固なものにします。

災害時に、自らの命を守るためには互いに助け合うことが重要です。市民の防災、危機管理意識の高揚や災害時用援護者対策、地域による自主防災組織の育成を推進し、災害に強いコミュニティの形成を図ります。

また、あらゆる災害・危機・有事等に備えて、消防体制の整備や救急、救命体制の充実と救急搬送体制の整備を進めます。さらに、道路や橋りょう、上下水道などの耐震化や長寿命化の対策により、ライフラインの強化に努めます。

総社市は災害時の支援の拠点として、AMD Aと丸亀市と3者協定を締結しました。市民の安全を確保した後は、被害があった場所へ早急に必要な支援ができる体制を整えることも重要です。

### 重要業績評価指標（KPI）

現況 → H 32

- 自主防災組織率の向上 50.1% ..... → 70%
- 防災訓練の実施 年2回 ..... → 年10回

## 東日本大震災から学び、災害に強いまちにする

- 自主防災組織率の向上
- 障がい者、高齢者などの避難行動要支援者や外国人等に配慮した防災訓練や防災教育の実施
- 若者の加入促進を含めた消防団員の確保の推進
- 学校や公共施設、ライフラインの耐震化や強化
- 災害に備えた支援協定の新たな締結や締結自治体との連携のさらなる強化
- 食料・飲料水・生活必需品等の備蓄強化

## 大震災時の支援拠点となる

- AMD Aと丸亀市との連携による、南海トラフ地震対応プラットフォームの整備
- 総社市大規模災害被災地支援に関する条例による迅速な被災地支援活動等の実施



## 関連する施策

### 防犯，交通安全

市民の生命や身体の安全を守るため，防犯・交通安全対策の充実・強化  
地域防犯体制の充実，交通安全施設の整備・拡充，交通安全意識の高揚

### 治山，治水，砂防

自然災害の未然防止のため，治山・治水事業をより一層推進  
治山事業の推進，河川改修・治水事業の推進

### 上水道，水資源

安全・安心でおいしい水の安定的な供給  
水環境の保全や計画的な水道事業の推進，新規の企業誘致における上水道の整備の検討

### 下水道

衛生的で快適な生活環境の実現  
地域の実状に即した計画的かつ効果的な下水道整備の推進，未整備地区への整備  
新規の企業誘致における下水道整備の検討

### 道路，交通網

一般国道 180 号等の主要幹線道の整備や水内橋の整備促進  
井原線と J R 各線との利便性の向上  
安全で機能的な交通体系の形成，利便性の高い交通システムが整ったまちづくり

### 消費者対策

市民ひとりひとりが正しい消費知識を身につけ，環境と調和した消費行動を実践



## 基本目標 2

## だれもが働きたくなる総社

相次ぐ企業の進出により、総社市では雇用の確保が大きな課題です。企業誘致や新規分野での雇用の場の確保により、雇用の創出を図ります。また、若者や女性、高齢者、障がい者、外国人など働くことを希望するすべての人が様々な職業で、夢をもって働くことができるよう雇用環境の整備や働きやすい職場づくりの推進に取り組みます。

基本  
目標

総所得金額 805 億円／年

➡ 840 億円／年（H 32 年度）

## 重点的な施策

## ① 雇用 総社で「働きたい」「雇用したい」を応援する

総社市は、今まで、総社商工会議所、総社吉備路商工会、ハローワーク総社と連携し、就職面接会の開催や「就労支援ルーム」の設置といった多様な就業機会の確保を進めてきました。また、「障がい者千人雇用センター」を設置し、障がい者の自立を目指し、就労希望の障がい者と事業所のマッチング、新規就労先の開拓、職場定着に向けた支援を行ってきました。こうした取組を充実させるとともに、今後は、発達障がいのある人を中心に、働くことが「生きがい」であり「楽しみ」となるように、一人ひとりの就労・生活支援をきめ細かに行っていきます。

さらに、厚生労働省岡山労働局との連携により、産業振興を推進しながら、女性や高齢者、外国人などの働きたい人、雇用したい企業を全力でサポートする体制を構築していきます。

## 重要業績評価指標（KPI） 現況 ➡ H 32

|                             |          |         |          |
|-----------------------------|----------|---------|----------|
| ■ 市内事業所の従業者数                | 23,392 人 | ..... ➡ | 25,000 人 |
| ■ 総社市・高梁市連携事業<br>合同就職面接会参加者 | —        | ..... ➡ | 250 人    |

## 労働者を増やす

○国、県及び関係機関と連携した雇用対策の強化

○新卒者、パートなどターゲットを絞った就職面接会の実施等による、求職と求人がマッチングできる機会の拡充

## 基本計画

- ・障がい者や、女性、高齢者、外国人などの働きたい希望をかなえる
  - ・企業の理解や事業所内での雇用継続に向けたサポート体制の構築に向けた普及啓発
- 近隣自治体からの労働力の広域確保
- ハローワーク総社内に設置した「就労支援ルーム」による多様な就業機会の確保

### 様々な働き方を応援する

- 総社商工会議所や市内金融機関等と連携した「総社中小企業サポートセンター」により、女性や若者などの創業支援
- 社会変化に対応した雇用環境の整備や男女ともに働きやすい職場づくりの推進
- ・特に男性のワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発

### 障がい者の自立を応援

- 障がい者千人雇用の深化
- ・障がい者千人雇用センターによる就労希望の障がい者と事業所のマッチング、新規就労先の開拓、職場定着のさらなる推進
  - ・就労相談や就労前後のサポート体制の拡充
  - ・企業において障がいについての理解を深め、自立に向けた支援体制作り

### 発達障がい者の自立を支援

- 障がい者千人雇用センターによる就労及び生活の支援
- 発達障がいの特性についての市民や企業の知識と理解の向上

### 「ひきこもり」の状況にある人の就労支援

- 「ひきこもり」の実態把握、相談支援の実施
- 交流や居場所作りの場となる支援拠点の整備

### 若者の地元就職を推進

- インターンシップ制度による市内就職の喚起
- 市内企業と連携した地元就職の機会創出



## ② 農林業 総社の農業を元気にする

農林業は、生産物価の低迷による所得の減少や従事者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加など多くの課題に直面しています。このような状況のもと、農業生産基盤、農村環境及び生産・流通体制の整備と米消費拡大の促進、食の安全・安心の確保、食育の推進などに力を注ぎ、次代を担う後継者の確保や育成を推進していきます。



## 基本計画

また、新しい商品開発を手がけるなど、異業種への参入を進め、総社市の第6次産業を活性化させるとともに地域資源を活用し、地域力の向上をめざします。

林業は、森林保全と振興のため、森林の整備と総合的利用促進に努めていきます。

### 重要業績評価指標（KPI）

現況 → H 32

|                    |             |            |
|--------------------|-------------|------------|
| 市地食事業による市内産米の消費量拡大 | — … →       | 累計 5,000 俵 |
| 営農組合の新たな組織化・法人化    | — …… →      | 3 組織       |
| 学校給食における総社産野菜の利用率  | 36.9% …… →  | 40%        |
| 荒廃農地の面積            | 63.8ha …… → | 維持         |

## 地食事業を核とした儲かる農業の推進

- 地食事業を核とした地産地消の推進による地元産農産物の生産、販路及び利用の拡大
  - ・学校給食利用やスーパーをはじめとした多様な販路の確保・充実
  - ・6次産業化と農産物の付加価値化の推進
  - ・食の安心・安全の確保と食育の推進
- 総社産農産物を使用した加工品（特産品）の開発及び販売促進
- 米、桃、ぶどう、セロリなどの特産品のブランド化と産地の振興
- 総社米食べ条例に基づく米の消費拡大
- ふるさと納税制度を活用した農業者支援
- 収益性の高い作物への転換や裏作の導入

## 優良農地の確保

- 農業基盤整備や耕作放棄地対策による優良農地の確保
  - ・農業団地の形成や荒廃農地の再生による新たな農用地区域への編入
- 担い手の確保と農地の集約化
  - ・認定農業者や新規就農者など農業の担い手確保
  - ・営農組合の組織化・法人化の推進
  - ・規模拡大による効率化のための農地流動化の促進や農地中間管理機構の活用
- 有害鳥獣の駆除や被害防止
- 森林の整備、林道・遊歩道の整備・保全



### ③ 商工業・物流 総社の企業・起業を応援する

総社市はこれまで、多くの企業を誘致し、企業立地を積極的に推進してきました。総社市の地域資源や交通の利便性を十分生かし、今後も優良企業の誘致活動に努めます。

また、総社商工会議所と連携し、市内の中小企業が安定した経営基盤を築き、市民のニーズを的確に把握し、優れた商品開発やサービスを提供できるように支援を続けていきます。

#### 重要業績評価指標（KPI） 現況 ➡ H 32

- 従業員数 50 名以上の企業を 5 年以内に 3 社誘致する
- 市内事業所数 2,052 事業所 …………… ➡ 5 年後 2,100 事業所以上

#### 市内企業・事業所との連携

- 市の基幹産業である自動車関連企業等との連携・支援の実施
- 中小企業のサポートや経営診断等、産学金官による相談窓口の充実
- ビッグデータの活用などによる生産性の向上の支援

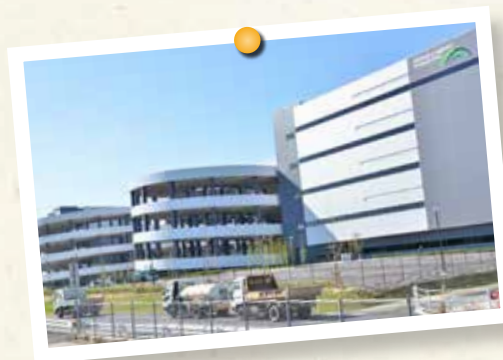
#### 拠点整備を支援する

- 本社機能移転の促進
- 企業誘致のさらなる推進と立地企業に対する雇用確保の協力
  - ・より効果的な企業誘致の仕組みづくり
- 流通センター、大型ショッピングモールなどの進出計画を支援
- 商店街の活性化

### 関連する施策

#### 勤労者福祉

勤労者福祉の向上、労働環境改善の支援、積極的な育児・介護休暇の取得等について事業主への意識啓発。「くるみん」認定取得の啓発



## 基本目標 3

## だれもが学びたくなる総社

子どもから大人まで生涯学び、人生をより豊かに過ごせる環境づくりを目指します。幼少期から心の教育を重視した、魅力ある学校づくりを進めていきます。また、困難を抱える子どもたちを支援し、だれもが行きたくなる学校教育環境を整備するとともに、教育特区など特色のある教育に取り組みます。また、家庭のなかで学び成長していく過程を支援し、地域からの見守りなど家庭と地域で子どもの学びを支えます。

自然や歴史遺産にふれあい、郷土愛を育むとともに、市民が多彩な文化・芸術、スポーツに親しめる環境づくりを行います。

基本  
目標

年少人口（0～14歳）数：9,823人（H27）

➡ **10,000人超**（H32年度）

## 重点的な施策

## ① 学校・幼児教育 だれもが行きたくなる学校をつくる

就学前教育から義務教育課程において、子どもが自ら行きたくなるような魅力ある学校づくりに努めます。そのために誰もが学習できる環境整備を進めていくとともに、心の教育を重視し、総社市を愛する子どもの成長を地域で見守っていきます。

また学力向上の推進とともに、国際社会に適応する子どもたちを育成するために、幼稚園・小学校・中学校で一貫した英語教育を実施し、豊かなコミュニケーション能力と国際的視野を養っています。こうした各学校の特色ある教育の充実と魅力ある学校づくりのため、学校力向上きらめき交付金の有効活用と地域や大学と連携した新特区の新設を目指します。

## 重要業績評価指標（KPI）

現況 ➡ H32

■ 地域の特色やニーズにあった特区の新設 1区 …… ➡ 3区

■ 不登校出現率（不登校の子どもの割合）

小学校 0.43%，中学校 1.97% ➡ 小学校 0.3%以下，中学校 1.7%以下

■ 昭和地区等英語教育特区への地区外から

通園通学する児童生徒数（幼小中）47人 …… ➡ 70人

## 「心」を重視した教育

- 「そうじゃ教育大綱」に基づく心の教育を重視（「総社を愛す子供」「心優しい子供」「礼儀正しい子供」）
- 子どもの読書活動の推進

## だれもが行きたくなる学校づくり

- 「ピア・サポート」「SEL（社会性と情動の学習）」「協同学習」「品格教育」を推進
- 実践的な教員研修による教員の指導力向上
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー，関係機関との連携による支援
- 保育所・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校の連携強化
- 総合的ないじめ防止対策の強化

## 特別な支援が必要な子どもたちを支援

- 身体障がい，知的障がい，精神障がいなど，障がいのある子どもたちを支援
- 発達障がいへの理解と支援

## 特色ある学校づくり

- 各学校の実情に応じた取り組みができる「学校力向上きらめき交付金制度」を実施
- 魅力ある学校づくりのため，地域や大学と連携した新特区を視野に入れた検討
- 市独自の学力テストの実施と学習支援ボランティアや放課後学習サポート事業の活用

## 世界へはばたく特区教育を

- 幼稚園・小学校・中学校で一貫した英語教育を実施
- 豊かなコミュニケーション能力と国際的視野をもった人材の育成
- 特区新設による地域教育の実践
  - ・1学年が10人未満の小学校区への対策



## ② 家庭教育 家庭や地域の学びを応援する

子どもにとって一番の理解者であり，成長を支える親に向けて学びの機会を提供していきます。また，ひとり親家庭の増加や地域の子育て力の低下などによって，学習などの支援が必要な家庭や，子育て家庭の中にもさまざまな問題を抱えているケースが増えています。家庭とともに，地域で見守り，地域で育てる社会をつくることが望まれています。そして，安心した暮らしと子どもの健やかな成長を支援していく必要があります。

総社市では，生活困窮者の世帯に対し，包括的な支援を継続していきます。また，経済的に様々な困難を抱える子どもを対象に大学と連携して学力向上のために支援をしていきます。



## 基本計画

### 重要業績評価指標（KPI） 現況 → H 32

- 高校進学を希望する  
ワンステップ受講者の進学率 — …………… → 100%
- 学校運営協議会の設置数 — …………… → 7 校以上

## 家庭教育

- 親として人間としての学びや、教育への理解を深める「親学」を実施
- 小・中学校の連携による子どもの家庭学習時間や内容の充実、基本的生活習慣の確立を図る

## 学習を応援

- 総社市学習等支援教室「ワンステップ」の拡充
- 地域住民が参画した学校運営協議会の設置

## ③ スポーツ・文化・生涯学習 総社で生涯学び、スポーツをする

総社市は、美しい自然環境と豊かな歴史的遺産に恵まれています。貴重な地域資源である自然や歴史的遺産を今後も大切に保存し、後世に伝えていくことは私たちの任務ともいえます。これらの資源を生かし、地域の歴史や文化を学習する機会の拡充を図ります。

また、私たちは、いつでも、どこでも、いつまでも学ぶことができ、スポーツを楽しむことができます。市民のニーズに対応した芸術や文化活動に親しむ環境づくりに努め、より多くの人が参加できる生涯スポーツの推進を図ります。

### 重要業績評価指標（KPI） 現況 → H 32

- 体育施設の利用者数（延べ） 520,000 人 …………… → 600,000 人
- 吉備路文化館の来場者数（延べ） 8,800 人 …………… → 10,000 人

## スポーツを楽しむ

- きびじアリーナ、総社北公園など各種体育施設の活用・整備
- より多くの人が参加できる生涯スポーツの推進
- スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブの育成・支援

## 貴重な文化財を守り、文化芸術を身近に

- 総社芸術祭の開催及び芸術文化活動の普及促進と活性化
- 岡山県立大学、くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学、青山学院大学等との連携事業の推進



## 基本計画

- 文化勲章受章者・高木聖鶴氏の寄贈作品をはじめ，優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充など，吉備路文化館の利用促進
- 画聖雪舟の顕彰
- 県立博物館の誘致
- 美術博物館の設置時期の検討

## 生涯学ぶ

- 図書館の利用推進と公民館活動，そうじゃわくわくフェスティバル等を通じた生涯学習の推進
- 地域の歴史文化講座など，地域を知るための学習機会の拡充と人材育成

## 関連する施策

### 人権教育

人権問題に対する正しい理解と人権意識の高揚を図り，人権が尊重されたまちをつくる  
企業，団体，学校・園，PTA，行政等を対象とした，講演やワークショップ等，人権に関する学習機会の充実を図り，人権意識を高める

### 青少年の健全育成

心身がともにバランスのとれた人格を形成し，地域や社会に貢献する人材の育成  
地域ぐるみの育成活動の推進，意識の高揚と地域教育力の向上，青少年の主体的な社会参加活動の推進，青少年の安全・安心な居場所づくり



## 基本目標 4

## だれもが訪れたくなる総社

自然環境資源や歴史文化遺産を活用し、総社ならではの観光振興に取り組みます。そのため、観光用の2次交通の整備や、伝統文化を継承しながらも新たな文化を創造し、多くの人々が訪れたくなるまちの実現を図っていきます。

また、岡山県立大学周辺を総社市の東の玄関口と位置づけ、大学を中心とした学園都市として整備します。さらに、吉備線のLRT化の検討や新規の企業誘致を実現するなど、新たな地域拠点の形成に向け取り組んでいきます。

基本  
目標

滞在人口：平日117,000人、休日112,600人（H27）

➡ 平日120,000人、休日116,000人（H32年度）

## 重点的な施策

## ① 観光 総社の魅力を発信する

総社市は、鬼ノ城や名勝豪溪、井山宝福寺などの名所旧跡のほか、多くの歴史的文化遺産を有するとともに、吉備路自転車道（日本の道百選）や三須作山（日本の農村景観百選）など、日本の原風景を残す場所もあり、これらの資源を生かしたまつりやイベントを実施することで、中四国、近畿圏からの来訪者が増えています。さらに魅力ある観光の創造に努めていきます。

しかし現状としては、全国的にはまだまだ知名度は低く、これからも地域資源を活用し、総社の魅力を全国発信していきます。

## 重要業績評価指標（KPI）

現況 ➡ H32

■ 観光客数 80万人 ..... ➡ 100万人

■ そうじゃ吉備路マラソン参加者の

大会運営評価満足度 70.5点 ..... ➡ 80点

## 全国屈指のマラソン大会

○そうじゃ吉備路マラソンの公認コースの取得と

公認大会開催による質の向上

・市民一丸となったおもてなしによる

総社市の全国発信とリピーターの創出



## 基本計画

### 観光用の2次交通整備

- 「観光雪舟くん（仮称）」の創設
- 周遊バスやレンタサイクル等の継続した2次交通整備
- 総社へのアクセスの利便性の向上
  - ・岡山空港からの連絡バスや特急列車の停車数増の検討



### さらなる観光客・訪問客の増加

- 備中国分寺や鬼ノ城、井山宝福寺、名勝豪溪などの観光既存資源の保全・整備と活用・PR（マップや観光ホームページ、パンフレット、案内表示の作成）
  - ・「観光大学」など歴史文化を活用した体験や学習機会の提供
- 総社観光プロジェクト提案事業の実施
- 岡山、倉敷、高梁市との連携協定等による広域観光事業の実施
- 外国人観光客の集客
- きびじつるの里のあり方の検討とタンチョウの愛護
- 鉄道など広域交通網の利用促進と美袋駅舎など関連施設の活用等の検討
- インターハイや各種大会の誘致、開催



## ② 都市・社会基盤 総社の景色を変える

総社市のイメージは、自然豊かな田園地帯が広がるのどかな風景ではないでしょうか。今後、総社市は、のどかなイメージを残しながらも、コンパクトシティの実現に向け、グランドデザインを計画的に見直します。

まず、岡山県立大学周辺を総社市の東の玄関口と位置づけ、吉備線のLRT化の検討を行い、服部駅周辺とともに地域拠点として都市機能の集積・増進を図り、にぎわいのあるまちづくりに努めます。そのためには、優良農地を確保しながら、地域の実情に応じた土地活用を推進していく必要があります。

### 重要業績評価指標（KPI） 現況 → H32

|                |         |   |         |
|----------------|---------|---|---------|
| ■ 宅地面積         | 1,475ha | → | 1,505ha |
| ■ 県立大学生の総社市居住率 | 45%     | → | 55%     |

### 岡山県立大学周辺を東の玄関口に

- 県立大学周辺を地域拠点として計画的に整備し、県立大学を中心とした学園都市を形成



### 主体的な土地利用の促進

- 農地転用許可権限移譲に伴う指定市への登録
- 優良農地の確保とバランスの取れた市街化
- 地域の実情に応じ、主体的に土地の利用を行える仕組みづくり
- 「地区計画制度」の活用など、きめ細やかなまちづくりの推進
- 国道 180 号バイパスや新総社大橋の活用による東西の均衡ある発展
- 西部・北部地区の居住・産業区域の対策
- 「集落地生活拠点（小さな拠点）」の形成とネットワーク化

### ③ 自然・環境 美しい総社を未来へ繋げる

総社市の豊かな自然と大地の恵みは、後世に伝えていかなければならない大切な資源です。これらの資源を守っていくためには、「自然観察会」や「自然保護講演会」などの学習機会を設けて市民に啓発していく必要があります。また、県立自然公園と古代吉備文化が融合する総社らしい景観づくりを推進します。

美しい郷土は自分たちで守るという意識をもち、地球温暖化対策に目を向け、良好な生活環境を維持・充実するためには何をすべきかをみんなで考え、実践していく支援を行います。

#### 重要業績評価指標（KPI） 現況 → H 32

- |                   |       |   |       |
|-------------------|-------|---|-------|
| ■ 日本遺産登録件数        | 0 件   | → | 1 件以上 |
| ■ 環境教育・学習参加者数（延べ） | 214 人 | → | 320 人 |

### 「赤米」を日本遺産登録へ

- 3市町（南種子町、対馬市、総社市）との連携
- 無形民俗文化財「赤米の神事」の日本遺産認定
- さらなる日本遺産登録も検討

### 豊かな自然を大切にする

- 「北の吉備路」や「ヒイゴ池湿地」などにおける自然保護活動の推進
  - ・県立自然公園の景観整備・保全
- 「環境学校」や「水辺の教室」など環境教育の推進
- 環境保全に向けた総社市環境基本計画の策定
- 地球温暖化対策と再生可能エネルギーの普及促進



## 関連する施策

### 公園、緑地

緑と花に囲まれた暮らしを享受する

身近な公園・広場の整備や緑化の推進，雪舟生誕地公園の整備検討

災害の緩和，避難・救援活動の場としての整備

### 情報通信

I C Tの利用により，利便性の高い日常生活や活発な企業活動が展開される

高度情報通信の充実，広報活動や広聴活動の充実，I C T教育の充実



## 基本目標 5

## だれもが集いたくなる総社

人口減少や少子高齢社会の中で、これからは周辺都市や関係機関等とも連携を深め、地域の総合力を高め、様々なパートナーと協働でまちづくりを行う必要があります。

そして、地域住民自らが考え、みんなで支えあい、地域課題を解決できるように、市民みんなが受身ではなく、自発的に集い、何かを行動に移していけるまちづくりを目指して行きましょう。さらには、市民みんなの協力や努力に応じた料金引き下げなど、柔軟でやりがいのある仕組みづくりを考え、より郷土に愛着をもって暮らせるよう取組みを進めていきます。

基本  
目標

総社市に愛着を感じている人の割合(アンケート):75.2%(H27)  
➡ 85%(H32年度)

## 重点的な施策

## ① 市民参加 市民と共に総社を創る

地域課題が山積する今、行政がこの問題を解決しようとしても、行政の力のみでは解決できません。なぜなら、女性や外国人も含めたすべての市民と行政が協働して取り組むことが解決の糸口だからです。

総社市では、「まちづくりの主体は市民」という考えから、市政への参画機会を増やすため、市民提案型事業を採択し、市民活動団体への財政支援をしています。また、地域住民が、自ら考え自ら使用できる「地域づくり自由枠交付金」を交付しています。市民と情報を共有し、市民の声を生かした、市民が自発的に行動できる市政を推進していきます。

## 重要業績評価指標 (KPI)

現況 ➡ H 32

|                   |              |   |                |
|-------------------|--------------|---|----------------|
| ■ 市民提案型事業への応募件数   | 9 件          | ➡ | 15 件           |
| ■ 多文化共生イベントへの来場者数 | 1,300 人      | ➡ | 2,000 人        |
| ■ 小児医療費決算額        | 2 億 5,232 万円 | ➡ | 2 億 5,000 万円未満 |
| ■ ごみ減量化推進団体資源回収量  | 1,509 t      | ➡ | 1,800 t        |

## 地域課題を解決し、独自性ある地域を創る

- 「総社市自由枠交付金制度」による  
地域と行政が支え合う地域づくり
- 市民提案型事業による主体的な市民活動等への支援
- 市民活動団体や各種団体の活性化のための  
相談支援・情報共有、連携促進



## 女性が活躍する

- 男女共同参画社会づくりに向けた意識改革やワーク・ライフ・バランスの実現等、女性が活躍できる体制整備
- 女性の人材育成や参画、チャレンジ支援
- 女性の人権保護と、相談・支援・救済体制の充実



## 外国人と共生する

- 外国人との共生の推進
  - ・多文化共生推進員の配置及び外国人市民の生活相談
  - ・病院の受診など生活で役立つ日本語教育事業の実施
  - ・外国人と地域住民等による交流イベントの開催



## みんなで考え取り組む

- ごみの減量化
- ごみ袋変動相場制の実施
- 小児医療費の適正化の推進
- 地域による高齢者のケア体制強化

## ② 広域連携 岡山・倉敷等と連動する

近年、急速な人口減少と少子・高齢化に歯止めがかからない状況となっています。しかし、このような社会情勢の中、総社市は少しずつではありますが、人口が増え、子どもの出生数が増加している県内唯一の市です。

この状況をいつまでも続けるためには、総社市の独自施策のみで市民のニーズに応えるのではなく、近隣の市と連携し、地域の総合力をもって取り組んでいくことが重要となります。総社市では、岡山市、倉敷市、高梁市をはじめとする周辺都市の仲間と連携を深め、それぞれの特色を活かした魅力あるまちづくりをめざしていきます。

また、包括協定を締結している県立大学をまちづくりのパートナーとして捉え、さらに協働してまちづくりを推進していきます。



## 基本計画

### 重要業績評価指標（KPI） 現況 ➡ H 32

#### ■ 市役所での大学生インターンシップ

受け入れ人数 31 人 …………… ➡ 60 人

#### ■ 総社市・高梁市連携事業

バスツアー参加者 40 人／年 …………… ➡ 60 人／年

## 広域で連携する

- 高梁川流域中枢都市圏連携
- 岡山連携中枢都市圏連携
- 高梁市との連携協力

## 大学との連携

- 岡山県立大学やくらしき作陽大学・作陽音楽短期大学、青山学院大学、順正学園、川崎学園等との連携推進と拡充
- 地（知）の拠点大学による地方創生への支援



## 地元金融機関との連携

- 地元金融機関と岡山県立大学等と連携した共同商品の開発
- 産学金官が連携した健康増進事業の推進

## ③ 市役所 市役所を改革する

総社市役所を市民が集いたくなる場所となるよう大きく変えていきます。

健全な財政への計画を立て、バランスのとれた財政構造の構築をめざします。また、本庁舎を含め、すべての施設の使用法や維持管理方法を見直していきます。

市民の幸せを1番に考えることができるよう、職員の資質・能力を向上させ、職員全体のレベルアップを図ります。コンプライアンスを重視し、初心に立ち返り、職務に専念します。

### 重要業績評価指標（KPI） 現況 ➡ H 32

■ 個人番号カードの普及（累計） — …………… ➡ 70%（5年累計）

■ 市債の借入額 5年間平均（当初予算）で元金償還額の95%以下に抑制

### 行財政改革

- 市債借入額の抑制等による財政健全化
  - ・中長期的な財政計画（実施計画を活用）を踏まえた将来を見越した財政運営の実施
  - ・普通交付税の合併算定替えによる加算額8億円の減額に対応した事業の見直し
- 職員の定数管理や事務事業の再編・整理・統廃合
- 公会計制度の導入

### ファシリティマネジメントの実施

- 10年以内の庁舎建替えを含めた公共施設等総合管理計画の策定  
市庁舎，学校施設，給食調理場，公民館，美術博物館等
- 空き公共施設の利用促進
- 公共施設の耐震化や維持管理・長寿命化の実施

### 職員の意識改革

- コンプライアンスの徹底
- 職階ごとの育成プログラムの実施など職員の質の向上
- 情報発信の強化（ホームページやSNS，広報紙の活用）



## 関連する施策

### 資源循環型社会

- 4Rの推進や廃棄物の適正処理を推進
- 市民の環境美化に対する意識の高揚と環境美化活動の推進

### ボランティア

- 市民のボランティア意識の高揚と活動の活性化を推進するとともに，ボランティアの発掘と育成
- 社会福祉協議会・自治会・NPO等との連携強化や，全市的なボランティアネットワークの形成と調整機能の強化と活動支援





# 資料編

## 基本目標の数値目標及び重要業績評価指標（KPI）一覧

（基本目標：5，KPI：44項目）

### ○だれもが住みたくなる総社（KPI：15項目）

転入超過数：155人／年（直近5年間の平均）→ 年平均200人以上（今後5年間の累計の平均）

| 分野                     | 項目                               | 現況値     | 時点 →                 | 目標値（H32）           | 目標値（H31）<br>（総合戦略用） |
|------------------------|----------------------------------|---------|----------------------|--------------------|---------------------|
| 1）子育て                  | 転入者数                             | 2,173人  | 平成25年<br>(1/1～12/31) | 2,400人             | 2,300人              |
|                        | 出生数                              | 564人    | 平成26年度<br>(H27.3.31) | 646人               | 638人                |
|                        | 待機児童数                            | 50人     | H27.10.1現在           | 0人<br>(平成30年までに達成) | 0人<br>(平成30年までに達成)  |
|                        | 子宮頸がん検診（HPV検査）<br>の受診者数          | —       | 平成27年度から<br>実施       | 350人               | 300人                |
|                        | 子育てしやすいと感じている人<br>の割合（市民アンケート数値） | —       |                      | 80%                | 70%                 |
| 2）社会保障<br>（高齢者・障がい者など） | 雪舟くん1日平均乗車数                      | 229人    | 平成26年度平均             | 250人               | 250人                |
|                        | 認知症サポーターの数                       | 2,538人  | H27.3.31             | 6,000人             | 5,500人              |
|                        | いきいき百歳体操実参加者数                    | 1,925人  | H27.3.31             | 2,800人             | 2,600人              |
| 3）住宅・生活基盤              | 宅地面積                             | 1,475ha | H27.4.1              | 1,505ha            | 1,500ha             |
|                        | 統一されたデザインによる街路<br>灯の設置           | —       | —                    | 80基                | 80基                 |
| 4）移住・定住促進              | カップリングパーティー参加者<br>のうちカップル成立数（累計） | 11組     | 平成26年度               | 70組                | 60組                 |
|                        | 結婚活動事業による成婚数                     | 0件      | 平成26年度               | 10件                | 8件                  |
|                        | 移住相談等の施策により移住し<br>た件数（定住祝い金対象）   | 2件      | 平成26年度               | 75件                | 60件                 |
| 5）防災・消防                | 自主防災組織率の向上                       | 50.1%   | H27.4.1              | 70%                | 68%                 |
|                        | 防災訓練の実施                          | 年2回     | 平成26年度               | 年10回               | 年8回                 |

### ○だれもが働きたくなる総社（KPI：8項目）

総所得金額 805億円／年 → 840億円／年（H32年度）

| 分野       | 項目                        | 現況値      | 時点 →   | 目標値（H32）   | 目標値（H31）<br>（総合戦略用） |
|----------|---------------------------|----------|--------|------------|---------------------|
| 1）雇用     | 市内事業所の従業者数                | 23,392人  | 平成24年  | 25,000人    | 24,500人             |
|          | 総社市・高梁市連携事業<br>合同就職面接会参加者 | —        | —      | 250人       | 250人                |
| 2）農林業    | 地食べ事業による市内産米の消<br>費量拡大    | —        | —      | 累計5,000俵   | 累計4,000俵            |
|          | 営農組合の新たな組織化・法人化           | —        | —      | 3組織        | 1組織                 |
|          | 学校給食における総社産野菜の<br>利用率     | 36.9%    | 平成26年度 | 40%        | 39%                 |
|          | 荒廃農地の面積                   | 63.8ha   | 平成26年度 | 維持         | 維持                  |
| 3）商工業・物流 | 従業員数50名以上の企業誘致数           | —        | —      | 5年以内に3社誘致  | 2社誘致                |
|          | 市内事業所数                    | 2,052事業所 | 平成24年  | 2,100事業所以上 | 2,094事業所以上          |



## ○だれもが学びたくなる総社（K P I：7項目）

年少人口（0～14歳）数： 約9,823人（H27）→ 10,000人超（H32）

| 分野              | 項目                                 | 現況値                    | 時点 →   | 目標値（H32）                 | 目標値（H31）<br>（総合戦略用）      |
|-----------------|------------------------------------|------------------------|--------|--------------------------|--------------------------|
| 1) 学校・幼児教育      | 地域の特色やニーズにあった特区の新設                 | 1区                     | 平成27年度 | 3区                       | 3区                       |
|                 | 不登校出現率（不登校の子どもの割合）                 | 小学校 0.43%<br>中学校 1.97% | 平成26年度 | 小学校 0.3%以下<br>中学校 1.7%以下 | 小学校 0.3%以下<br>中学校 1.7%以下 |
|                 | 昭和地区等英語教育特区への地区外から通園通学する児童生徒数（幼小中） | 47人                    |        | 70人                      | 65人                      |
| 2) 家庭教育         | 高校進学を希望するワンステップ受講者の進学率             | —                      |        | 100%                     | 100%                     |
|                 | 学校運営協議会の設置数                        | —                      |        | 7校以上                     | 7校以上                     |
| 3) スポーツ・文化・生涯学習 | 体育施設の利用者数（延べ）                      | 520,000人               | 平成26年度 | 600,000人                 | 587,000人                 |
|                 | 吉備路文化館の来場者数（延べ）                    | 8,800人                 | 平成26年度 | 10,000人                  | 9,700人                   |

## ○だれもが訪れたくなる総社（K P I：6項目）

滞在人口：平日 117,000人、休日 112,600人（H27）→ 平日 120,000人、休日 116,000人（H32）

| 分野         | 項目                       | 現況値     | 時点 →     | 目標値（H32） | 目標値（H31）<br>（総合戦略用） |
|------------|--------------------------|---------|----------|----------|---------------------|
| 1) 観光      | 観光客数                     | 80万人    | 平成26年度   | 100万人    | 96万人                |
|            | そうじゃ吉備路マラソン参加者の大会運営評価満足度 | 70.5点   | 2015大会実績 | 80点      | 80点                 |
| 2) 都市・社会基盤 | 宅地面積                     | 1,475ha | H27.4.1  | 1,505ha  | 1,500ha             |
|            | 県立大学生の総社市居住率             | 45%     | H27.5現在  | 55%      | 52%                 |
| 3) 自然・環境   | 日本遺産登録件数                 | 0件      |          | 1件以上     | 1件                  |
|            | 環境教育・学習参加者数              | 214人    | 平成26年度実績 | 320人     | 310人                |

## ○だれもが集いたくなる総社（K P I：8項目）

総社市に愛着を感じている人の割合（アンケート）：75.2% → 85%（H32）

| 分野      | 項目                     | 現況値       | 時点 →       | 目標値（H32）                   | 目標値（H31）<br>（総合戦略用） |
|---------|------------------------|-----------|------------|----------------------------|---------------------|
| 1) 市民参加 | 市民提案型事業への応募件数          | 9件        | H26, 27実績  | 15件                        | 15件                 |
|         | 多文化共生イベントへの来場者数        | 1,300人    | 平成26年度実績   | 2,000人                     | 2,000人              |
|         | 小児医療費決算額               | 2億5,232万円 | 平成26年度決算   | 2億5,000万円未満                | 2億5,000万円未満         |
|         | ごみ減量化推進団体資源回収量         | 1,509t    | 平成26年度     | 1,800t                     | 1,800t              |
| 2) 広域連携 | 市役所での大学生インターンシップ受け入れ人数 | 31人       | 平成27年度申込者数 | 60人                        | 60人                 |
|         | 総社市・高梁市連携事業バスツアー参加者    | 40人／年     | 平成27年度申込者数 | 60人／年                      | 60人／年               |
| 3) 市役所  | 個人番号カードの普及率            | —         | —          | 70%以上                      | 70%以上               |
|         | 市債の借入額                 |           |            | 5年間平均（当初予算）で元金償還額の95%以下に抑制 | —                   |



## 第2次総社市総合計画策定の経過

| 年月日                 | 項 目                  | 内 容                                                                                                                                             |
|---------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H26.7.31            | 総社市総合計画審議会委員の委嘱      | 第2次総社市総合計画についての調査及び審議を行っていただくために委嘱                                                                                                              |
| H26.7.31            | 第1回総社市総合計画審議会の開催     | ・会長、副会長の選任<br>会長 総社商工会議所 会頭 清水男<br>副会長 子ども・子育て会議 近藤理恵（岡山県立大学教授）<br>・審議会の目的と今後の進め方<br>・第2次総社市総合計画について<br>・総合計画策定要領とスケジュールについて<br>・市民アンケートの実施について |
| H26.8～9月            | 市民アンケート              | 20～75歳までの市民2,000人を対象にアンケートを実施                                                                                                                   |
| H26.9月              | 中学生アンケート<br>高校生アンケート | 市内中学2年生全員（608人）及び、総社高校・総社南高校2年生全員（521人）を対象にアンケートを実施                                                                                             |
| H27.1.30            | 第2回総社市総合計画審議会の開催     | ・市民アンケート調査結果報告<br>・市企画担当員及び若手職員対象ワールドカフェの結果について<br>・第1次総社市総合計画後期基本計画達成状況について                                                                    |
| H27.5.29            | 第3回総社市総合計画審議会の開催     | ・総合戦略策定に伴い金・労・言から3名の審議会委員を新たに委嘱<br>・新・そうじゃ総合計画・総合戦略の構成（案）について協議<br>・策定スケジュールについて                                                                |
| H27.6.9             | 市議会総務文教委員会           | 新・そうじゃ総合計画・総合戦略の構成（案）について協議                                                                                                                     |
| H27.7.8             | ガラス張り公開市長室（東公民館）     | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.12            | 外国人住民との懇談会           | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.16            | 岡山県立大学生との懇談会         | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.21            | 女性（子育て世代）との懇談会       | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.23            | ガラス張り公開市長室（昭和公民館）    | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.29            | ガラス張り公開市長室（西公民館）     | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.30            | 障がい者（親の会）との懇談会       | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.7.30            | ガラス張り公開市長室（山手公民館）    | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.4             | 障がい者（当事者）との懇談会       | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.5             | 障がい者（就労）との懇談会        | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.5             | ガラス張り公開市長室（清音公民館）    | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.9             | 市民団体、企業との懇談会         | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.9             | ガラス張り公開市長室（総合福祉センター） | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.10            | ガラス張り公開市長室（池田分館）     | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.20            | 労働団体との懇談会            | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.8.10            | 市議会総務文教委員会           | 新・そうじゃ総合計画・総合戦略の構成（案）について協議                                                                                                                     |
| H27.8.11            | 第4回総社市総合計画審議会の開催     | ・市長から第2次総社市総合計画（案）の諮問<br>・新たな総社市総合計画（第2次総合計画）（案）について協議                                                                                          |
| H27.10.21           | 第5回総社市総合計画審議会の開催     | ・第2次総社市総合計画（案）について協議<br>・答申（案）の協議                                                                                                               |
| H27.10.22           | 市議会総務生活委員会           | 第2次総社市総合計画（案）について協議                                                                                                                             |
| H27.10.27           | 市議会総務生活委員会           | 第2次総社市総合計画（案）について協議                                                                                                                             |
| H27.10.29           | 市議会全員協議会             | 第2次総社市総合計画（案）について協議                                                                                                                             |
| H27.10.29           | 自由枠地域づくり協議会との懇談会     | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.10.29<br>～11.17 | パブリックコメント実施          | 市役所、山手出張所、清音出張所、北出張所、西出張所、昭和出張所、ホームページ                                                                                                          |
| H27.11.4            | 校・園長会との懇談会           | 総合計画等についての意見聴取                                                                                                                                  |
| H27.11.12           | 答申                   | 総合計画審議会 清水会長から市長へ答申                                                                                                                             |
| H27.11.30           | 11月定例市議会             | 第2次総社市総合計画基本構想を議案提出                                                                                                                             |
| H27.12.21           | 11月定例市議会             | 第2次総社市総合計画基本構想についての議案を議決。議決をもって策定                                                                                                               |



## 総社市総合計画審議会委員名簿

| 区 分 | 氏 名     | 役 職 名                          |
|-----|---------|--------------------------------|
| 会 長 | 清 水 男   | 総社商工会議所会頭                      |
| 副会長 | 近 藤 理 恵 | 子ども・子育て会議会長                    |
| 委 員 | 風 早 昱 源 | 総社市社会福祉協議会会長                   |
| 委 員 | 坪 井 祥 隆 | 総社市観光協会会長                      |
| 委 員 | 高 見 正 子 | 総社市婦人協議会会長                     |
| 委 員 | 大 月 亮   | 総社市消防団団長                       |
| 委 員 | 平 松 秀 昭 | 総社市自由枠交付金地域づくり協議会連合会会長         |
| 委 員 | 藤 井 和 郎 | 前総社市校長会会長                      |
| 委 員 | 内 田 義 宏 | 総社市校長会会長                       |
| 委 員 | 吉 澤 威 人 | 総社吉備路商工会会長                     |
| 委 員 | 黒 田 政 広 | 前総社市PTA連合協議会会長                 |
| 委 員 | 森 本 好 昭 | 総社市PTA連合協議会会長                  |
| 委 員 | 村 木 克 爾 | 岡山県立大学教授                       |
| 委 員 | 吉 田 一 成 | くらしき作陽大学副学長                    |
| 委 員 | 佐々木 祐 佳 | 前総社市地域自立支援協議会会長                |
| 委 員 | 延 原 良 純 | 総社市地域自立支援協議会会長                 |
| 委 員 | 山 本 清 志 | 岡山西農業協同組合代表理事組合長               |
| 委 員 | 譚 俊 偉   | 総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズ会長 |
| 委 員 | 友 野 憲   | 総社市シルバー人材センター理事長               |
| 委 員 | 小鍛冶 元 慎 | 総社市文化協会会長                      |
| 委 員 | 荒 木 千代信 | 総社市体育協会会長                      |
| 委 員 | 晝 田 眞 三 | 協同組合ウイングバレイ理事長                 |
| 委 員 | 川 上 智 嗣 | 前総社青年会議所理事長                    |
| 委 員 | 高 杉 隆 之 | 総社青年会議所理事長                     |
| 委 員 | 平 田 周 志 | 吉備信用金庫理事長                      |
| 委 員 | 宮 田 勝 美 | 日本労働組合総連合会 岡山県連合会 総社地区協議会議長    |
| 委 員 | 土 佐 直 樹 | 山陽新聞社倉敷本社 専務取締役 倉敷本社代表         |



政 第 89 号  
平成27年8月11日

総社市総合計画審議会  
会長 清水 男 様

総社市長 片 岡 聡 一

新たな総社市総合計画（第2次総合計画）について（諮問）

新たな総社市総合計画（第2次総合計画）について、貴審議会の意見を求めます。



平成27年11月12日

総社市長 片岡 聡 一 様

総社市総合計画審議会  
会長 清水 男

### 第2次総社市総合計画について（答申）

平成27年8月11日付け、政第89号で諮問のあった新たな総社市総合計画（第2次総社市総合計画）について、当審議会において素案をもとに慎重に審議を重ねた結果、次の意見を付記し、答申します。

#### 記

- 1 福祉と文化を全国トップレベルにするという基本的方向性は評価できるところであり、本審議会での審議過程における各委員の意見、要望を十分に尊重しながら、本計画の実施に努められたい。
- 2 活力あるまちづくりのためには、人口の維持または増加を目標にしていくことが最重要であり、総社市にしかない特色ある施策及び地理的優位性などの「強み」を生かし、発展させることにより、希望あふれる人口ビジョンを実現するべく各種施策を進められたい。
- 3 対話を重視し、市民と行政がともに課題や目標を共有できるよう、子どもからお年寄りまで誰が見ても親しみやすく、ワクワクする計画になるよう努められたい。
- 4 今後の市政運営においては、これまで以上に都市間連携が重要になることから、岡山県はもとより、岡山市、倉敷市との連携を意識したまちづくりを進められたい。  
また、規模や特性の異なる両市を真似るのではなく、今後より一層、総社流の施策を進め、県内随一の「質」の向上に努められたい。



## 第 2 次総社市総合計画策定に伴う意見交換会等の概要

| 名 称              |                 | 会 場                                              | 月 日         | 参加者数等 |
|------------------|-----------------|--------------------------------------------------|-------------|-------|
| ガラス張り公開市長室       |                 | 総合福祉センター                                         | 平成27年8月9日   | 280   |
|                  |                 | 東公民館                                             | 平成27年7月8日   | 110   |
|                  |                 | 西公民館                                             | 平成27年7月29日  | 110   |
|                  |                 | 昭和公民館                                            | 平成27年7月23日  | 120   |
|                  |                 | 山手公民館                                            | 平成27年7月30日  | 105   |
|                  |                 | 清音公民館                                            | 平成27年8月5日   | 120   |
|                  |                 | 池田分館                                             | 平成27年8月10日  | 120   |
|                  |                 | ガラス張り 合計                                         |             |       |
| 岡山県立大学学生との意見交換   |                 | 総合福祉センター                                         | 平成27年7月16日  | 24    |
| 女性（子育て世代）との懇談会   |                 | なかよし広場こっこ<br>（きよね夢てらす）<br>なかよし広場びよこっこ<br>（リブ総社店） | 平成27年7月21日  | 22    |
| 障がい者との<br>懇談会    | インクルージョン推進事業協議会 | 保健指導室                                            | 平成27年7月30日  | 6     |
|                  | 身体障がい者福祉協会（当事者） | 技能習得室                                            | 平成27年8月4日   | 9     |
|                  | 日中活動事業所連絡会（就労）  | 教養研修室                                            | 平成27年8月5日   | 14    |
| 外国人住民との懇談会       |                 | 保健指導室                                            | 平成27年7月12日  | 22    |
| 市民団体・企業との懇談会     |                 | 総合福祉センター                                         | 平成27年8月9日   | 29    |
| 労働団体との意見交換会      |                 | サンワーク総社                                          | 平成27年8月20日  | 21    |
| 自由枠地域づくり協議会との懇談会 |                 | 技能習得室                                            | 平成27年10月29日 | 16    |
| 校・園長会との懇談会       |                 |                                                  | 平成27年11月4日  | 31    |
| 各種団体懇談会 合計       |                 |                                                  |             | 194   |
| 在京「総社の会」への意見募集   |                 | 総社市出身等の会員に依頼し、<br>電子メールやファクシミリにて回答               |             | 206   |
| 意見聴取者総数          |                 |                                                  |             | 1,365 |

### ○市民アンケート

| 対 象                              | 実施時期     | 回収数 | 回収率    |
|----------------------------------|----------|-----|--------|
| 市民アンケート（20～75歳の市民 2,000人）        | H 26.8 月 | 830 | 41.50% |
| 中学生アンケート（中学2年生全員 648人）           | H 26.9 月 | 608 | 93.80% |
| 高校生アンケート<br>（総社、総社南高校2年生全員 557人） | H 26.9 月 | 521 | 93.50% |



## 第2次総社市総合計画の意見聴取内容

### ○外国人との意見交換会

【平成 27 年 7 月 12 日開催 参加者数：22 人（8 カ国）】

#### ○総社のいいところは？

- ・自然や農業があり、総社は住みやすく幸せ。（パナマ）
- ・差別がなく、総社はいいところ。（ブラジル）
- ・総社は、宝福寺や鬼ノ城、国分寺など見るところがいっぱいある。  
倉敷より知られてないので、外国人に観光の PR、宣伝をするべき。（ネパール）

#### ○総社の悪いところは？

- ・電車の本数がなく不便。街灯が少なく、暗くて危ない。（中国）
- ・市内にイベントができる場所がない。（会場で飲食可能な場所）（ブラジル）
- ・山崎パン・紀文・カルピスは外国人を雇用しない。（中国・ブラジル）
- ・60 歳以上の方が働ける企業がない。（ブラジル）

#### ○どんな総社に住みたいですか？

- ・高齢者に仕事があるまち。（ブラジル）
- ・みんなが集えて、運動やパーティーができる場所のあるまち（ブラジル）
- ・夜間に学べる場があるといい。（日本語教室はよい）（パナマ）
- ・ショッピングができたり、遊べたりする商業施設があるまち。（ブラジル・中国）
- ・ハローワークの職業訓練のカリキュラムがある。（ブラジル）



### ○岡山県立大学生との意見交換会

【平成 27 年 7 月 16 日開催 参加者数：24 人】

#### ○総社市の印象は？

- ・自然が多く、住みやすい。
- ・県大周りが田んぼばかりでさみしい。街灯がなく夜は危険。
- ・交通の便が悪い。吉備線の本数が少ない。
- ・大学周辺にお店（専門店や大型店舗など）や遊ぶところなど何もない。
- ・駅周辺の整備が必要。（駐輪場やレンタサイクルの PR も含める）

#### ○総社市をどのようなまちにしていきたいですか？

- ・就職支援の充実。県大を卒業して、総社市で働くことができる環境をつくる。
- ・移動支援の強化。車椅子の人でも、雪舟くんなどの交通機関を利用しやすくする。
- ・吉備線など交通の整備が観光等集客数の増につながる。
- ・岡山市・倉敷市を真似るのではなく、総社らしさをもっとアピールする。



## ○子育て世代の女性との意見交換会

【平成 27 年 7 月 21 日開催 参加者数：22 人】

### ○現在の総社市で、安心して 2 人目・3 人目のお子さんが産めますか？

- ・総合病院がない。緊急のとき、倉敷まで行くのは大変である。
- ・児童館のような施設がないため、3 人目を産む時期を考えた。
- ・総社市は自動車産業が多く、男性職場。妊娠中・子育て中の女性に対して、理解が乏しく、非協力的である。会社全体が妊娠中・子育て中の女性に対して配慮し、協力的でなければ安心して子育てはできない。

### ○子育てをされていて、困っていることや不安なことがありますか？

- ・年齢を問わず、子どもたちが一緒に遊べる場所がない。
- ・学童保育は低学年までしか預けることができないため、安心して子どもを預けられる場が必要。
- ・発達障がいの子どものための支援について、子ども一人ひとり、障がいの状態は異なる。しかし、放課後デイサービスの利用に制限を設けることは、支援が手薄になっていること。支援が必要な子どもの支援になっていない。
- ・2 人目の子どもが産まれた時に、上の子どもが保育園を退園させられた。その後、同じ園に入れる保証もなく仕事をするな（復帰）と言われているようだ。

### ○10 年先の総社市に必要なと思うものはなんですか？

- ・総社市はいろんな企業を誘致しているが、子どもを預ける先がなければ働けない。雇用は増えても働き手がないのは、働く環境が整っていないから。
- ・企業誘致するときには、企業内に保育園があるようなところにしてほしいし、女性が働きやすい環境を整えるよう指導してほしい。
- ・子育て王国にふさわしい環境を整えること。
- ・人口増加、子どもの増加に対応できるような環境整備。
- ・地域の協力、周囲のサポート体制の確立。



## ○障がい者及び障がい関係団体との意見交換会

【平成 27 年 7 月 30 日、8 月 4 日、5 日開催 参加者数：37 人】

### ○障がい者千人雇用についてどのように思いますか？

- ・個人の特性にあった就労ができているか心配。
- ・知的障がいや発達障がいのある人の雇用の好事例が知りたい。
- ・一般企業にもっと理解を深めてもらいたい。どのような職種や業務を任せたいかニーズを知りたい。そのサポートを千人雇用で担ってもらいたい。
- ・ひとりひとりの支援を丁寧に対応し、実績を積み上げてほしい。
- ・障がい者の老後の暮らしが心配。今、現役で働いている方も 10 年後は引退する。

### ○住みやすいまちにするためにはどうすればよいですか？

- ・ガタガタな歩道が多く、整備が必要。車イスでの移動にかなり負担が生じている。
- ・障がい者が活躍できる場がほしい。
- ・障がい者の入所施設整備に対して、市も協力してもらいたい。
- ・親が亡くなったときの障がい者の暮らしを早めに考えておく。
- ・雪舟くんを土日に行行してもらいたい。
- ・今、外に出てこれない、施設に通えていない障がい者が問題。また、どこにいるのかわからないので、生活状況から把握していく。

### ○10 年先の総社市に必要なと思うものはなんですか？

- ・子どもが夢を持てるような理念を持った施策をしてもらいたい。
- ・駅からの公共交通の整備と観光振興の充実。

## ○各種団体、企業との意見交換会

【平成 27 年 8 月 9 日開催 参加者数：29 人】

### ○今後 10 年間の総社市の目指す姿等について

- ・総合型地域スポーツ倶楽部では、お年寄りから子どもまでスポーツに取り組み、健康な生活をし医療費を抑制する方面に向かっている。  
お年寄りに運動をして、健康寿命を延ばしてほしい。総社のスポーツ振興の方もそういう方向に向かってほしい。
- ・総社市は、子どもに手厚く、子どもの教育についても手厚い。  
医療費を抑える、コンビニ医療をやめさせるとかあるが、今の親は子育てがよくわからなくて、すぐ受診するが、子育て支援という面ではよい。  
貧困家庭では、医療費が要らないというのは、非常にありがたいこと。節度をもって維持できたらいいと思う。
- ・地域の田園風景が鳥獣被害でダメージを受けている。農地には環境や治水など多くの機能があるのでこれを守ってほしい。  
農業の人材確保のため人材をスカウトしていけるシステムを目指しているがなかなか難しい。
- ・ふるさと納税を活用した米の買い取り策はありがたい。
- ・これから結婚、出産を考えている女性は、パートではダメ。雇用保険、厚生年金がついている正社員になりたい。  
総社市で正規の社員になれるとなると、働く場所と住まいが近くなる。それだけで子育て支援になる。
- ・待機児童をなくすためには、今、保育施設を増やす必要あり。
- ・障害のあるお子さんを持つ親ほど正規で働きたいと考えている。
- ・女性が働く場所と子どもの居場所作り＝子どもたちに優しいまちになれば、人口増が実現できるのではないかと思う。
- ・人口の割りに総社市はスポーツ施設ができていて、後のメンテナンスが行き届いていない。  
各種団体の意見を聞いて手入れをしてほしい。
- ・本当に子どもを育てる「礼に始まり礼に終わる」という指導をスポ少ではするので、  
総社市を背負って立つ子どもたちを育てることなどを考慮し、育成者が困っていることなどに行政として支援してほしい。
- ・福祉では支援 1、2 をこれからどのようにしていくかが課題であるが、人材確保についても課題である。  
60～65 歳を過ぎた人を活用する方法も検討を。
- ・心を育てる教育に重点を置くところがあるが、心を育てるためには、子どもが互いによさを認め合えるような、  
子供同士の群れ遊びだと思う。
- ・障がいのある子は地域の中でみんなに理解されて育っていかないといけない、  
そういう理解があって仕事についていけるようになるのではないかと思う。  
理解されないことで引きこもったりすることもよくあるので、  
子供同士の、地域の中で一緒に育てながら、千人雇用につなげていくという太いパイプができたと思う。
- ・県大周辺の開発のこともあるし、農地をどうするかということで、ひとつの提案だが、市庁舎を移してはどうか。  
旧庁舎は美術館にも使えるし、市民会館のイベントの際に駐車場にも使える。

## ○労働者団体との意見交換会

【平成 27 年 8 月 20 日開催 参加者数：21 人】

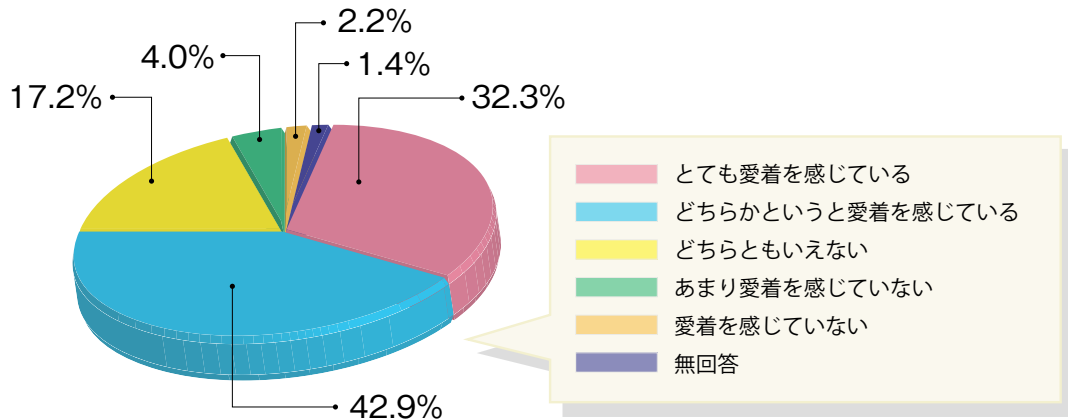
### ○今後 10 年間の総社市の目指す姿等について

- ・企業誘致について、雇用関係がしっかりしていないと安心して住めない。パートや派遣では定住にいたらない。  
付加価値のある企業に来てもらえるような取組みをしてほしい。
- ・備中国分寺などの観光地、景観を守りながら住宅をどう増やしていくか計画をしっかり立ててほしい。
- ・冬のイルミネーション楽しみ。コタツライブも。イベントに補助金などして「食べる」楽しみがあれば人が来やすい。
- ・農業は儲けが少なく機械の維持等にコストがかかる。公社でレンタルできないか？
- ・自閉症や発達障がい、学校内では理解されているが、社会に出たときには上手いかわない。  
総社市の取組みで転入してくる人も多い。  
大人も研修できる機会を作ったほうがよい。
- ・清音では新築が増えている。道路の交差点や歩道など安全対策や整備が必要。
- ・子育て王国そうじゃについて、親育ちも大切である。
- ・市営住宅はあるが古い。住宅など人を受け入れる体制作りが必要。
- ・学童保育の受け入れ時間について、働く人が利用しやすい時間設定を。

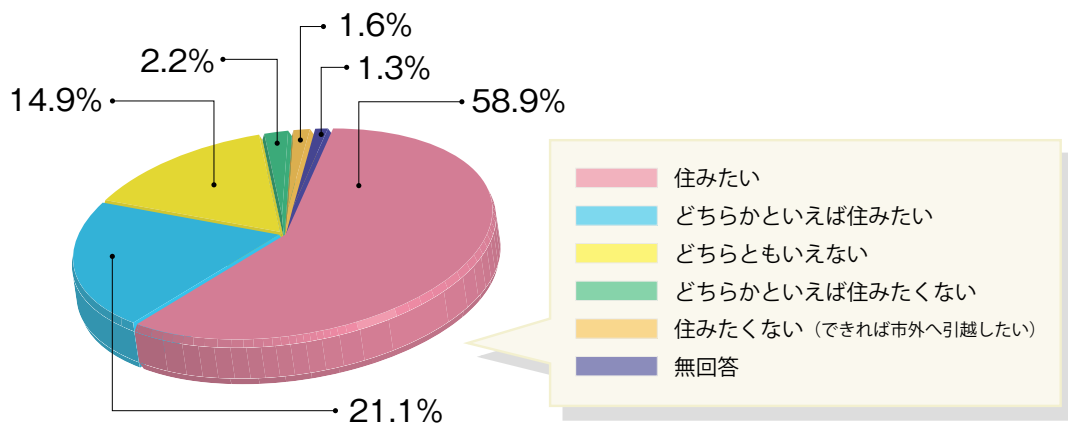


## ○市民アンケート

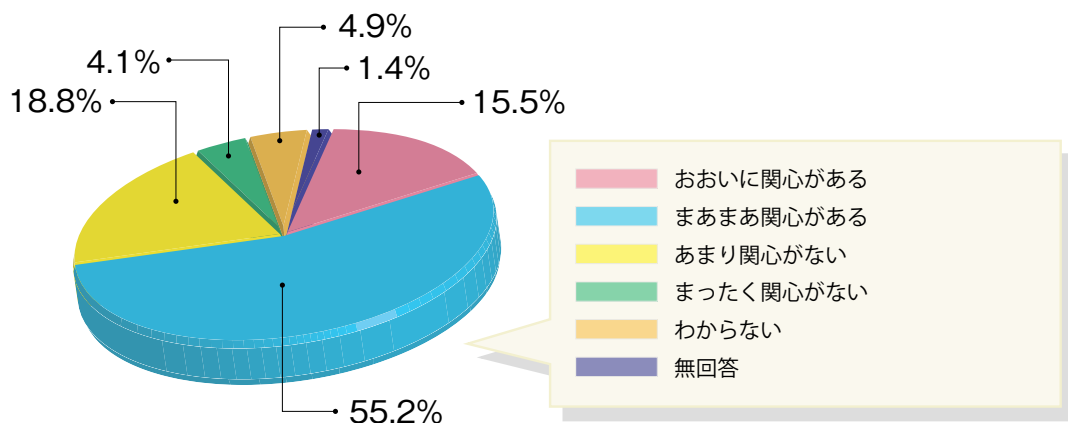
### 総社市に対する「自分のまち」としての愛着度



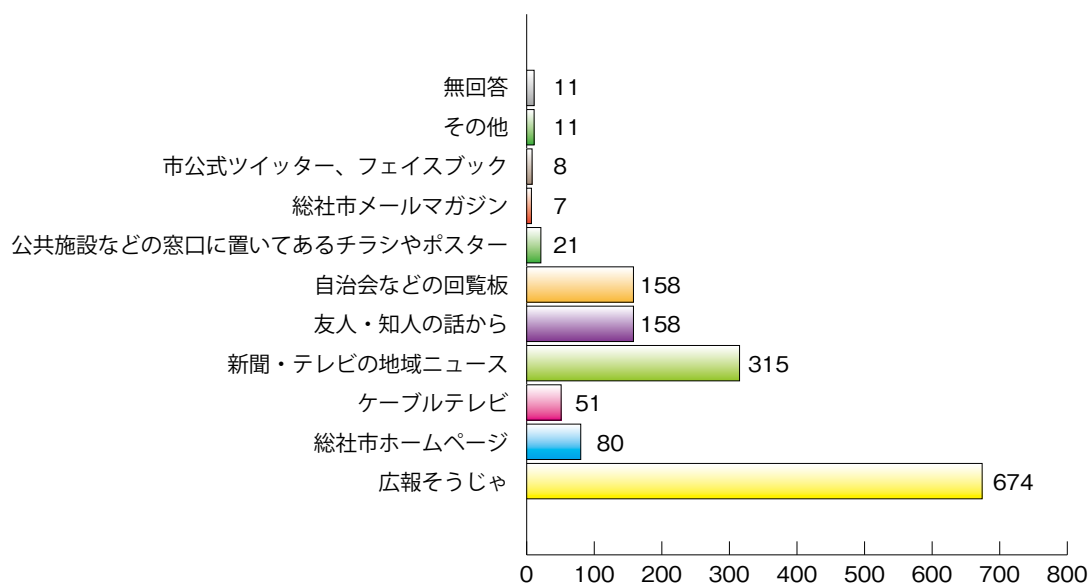
### これからも総社市に住みたいと思うか？



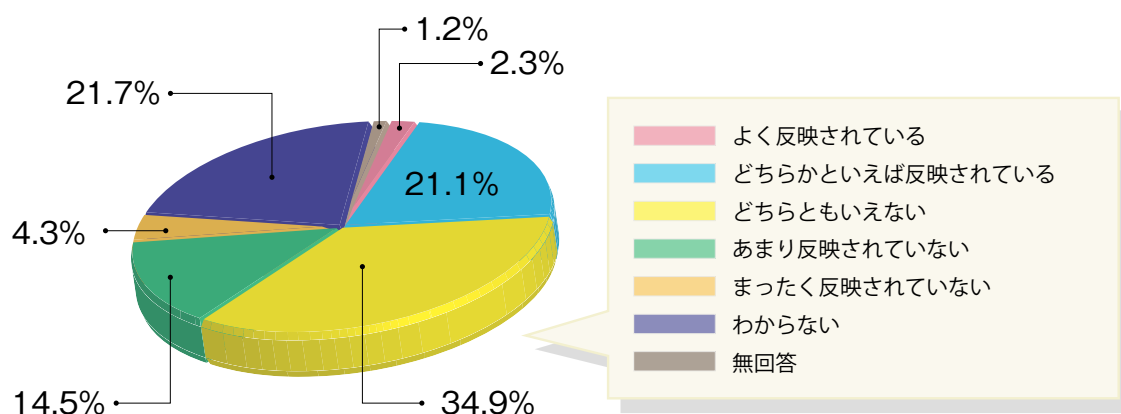
### 市政に関心があるか？



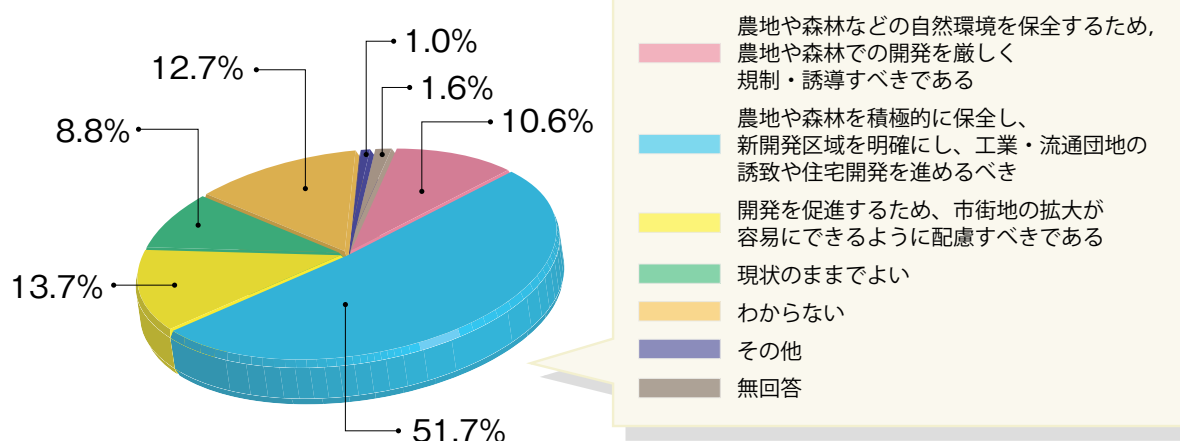
## 生活に必要な地域情報の入手元は？



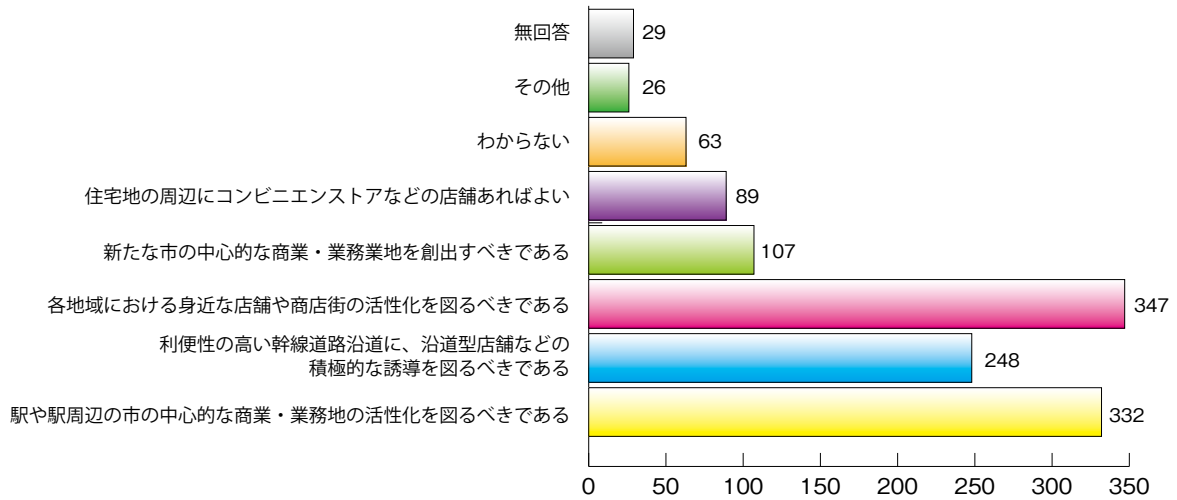
## 市政に市民の意見が反映されているか？



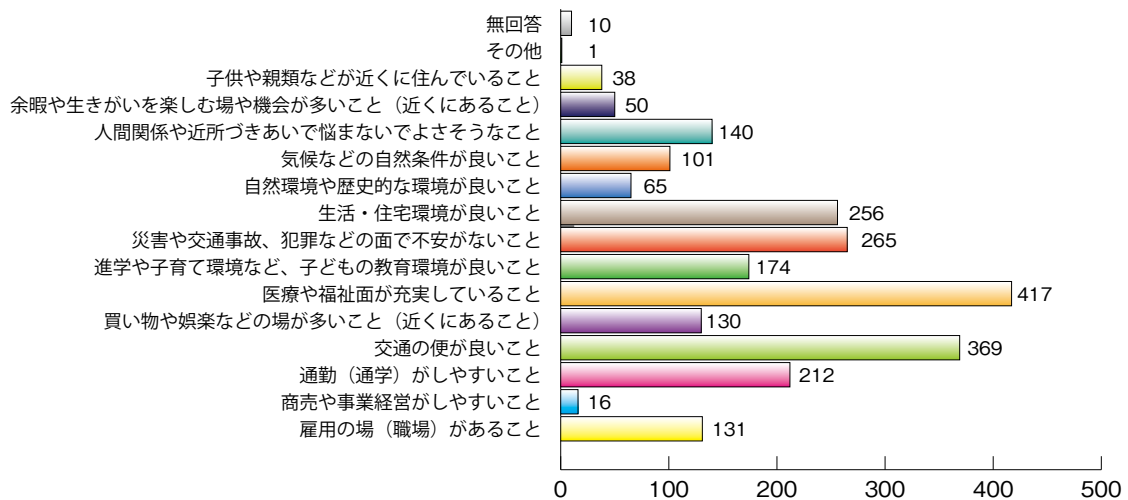
## これからの土地利用のあり方は？



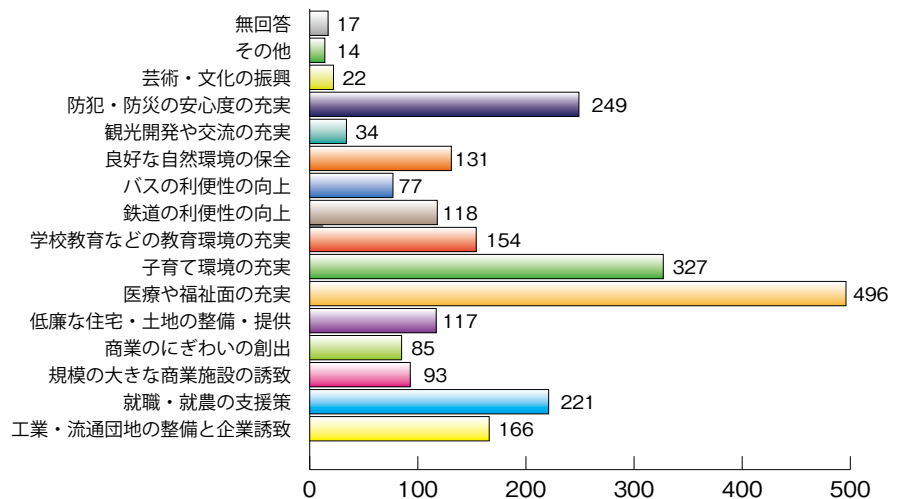
## これからの商業・業務地のあり方は？



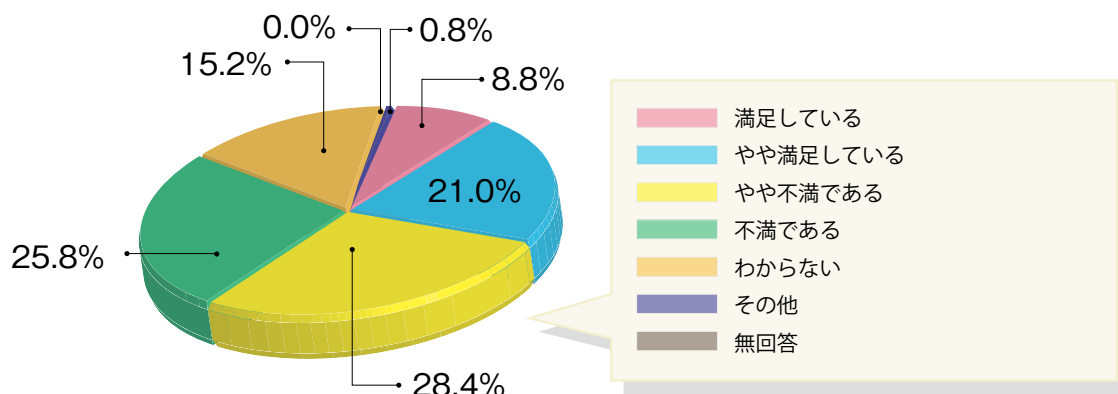
## 住む場所を選ぶ場合、どのようなことを重視するか？



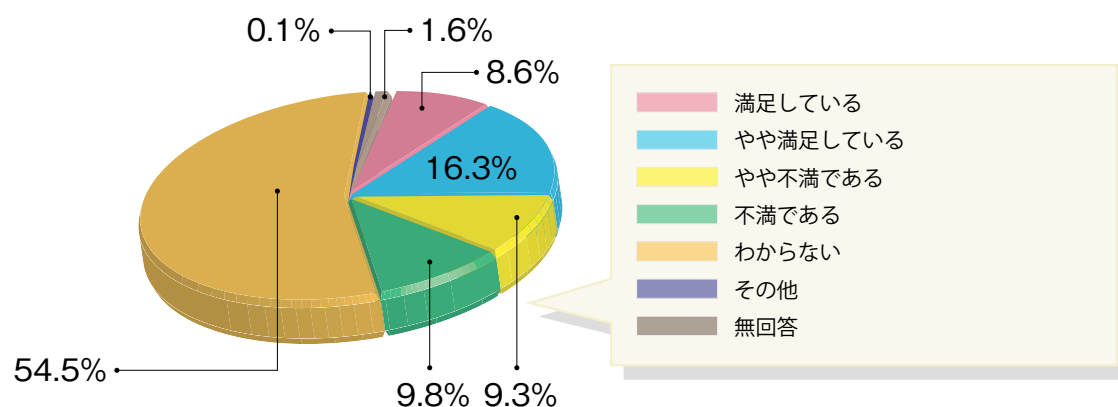
## 定住を促進するため、市役所で何に力を入れるべきか？



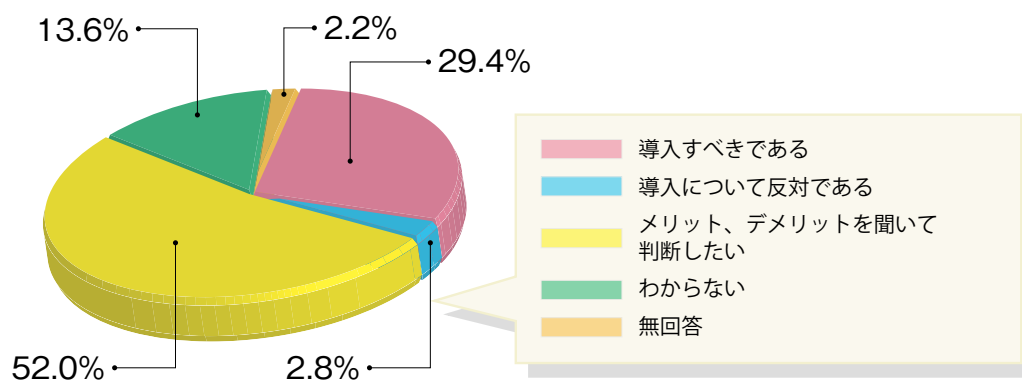
## 現在の公共交通機関（鉄道・バス）について、どう感じているか？



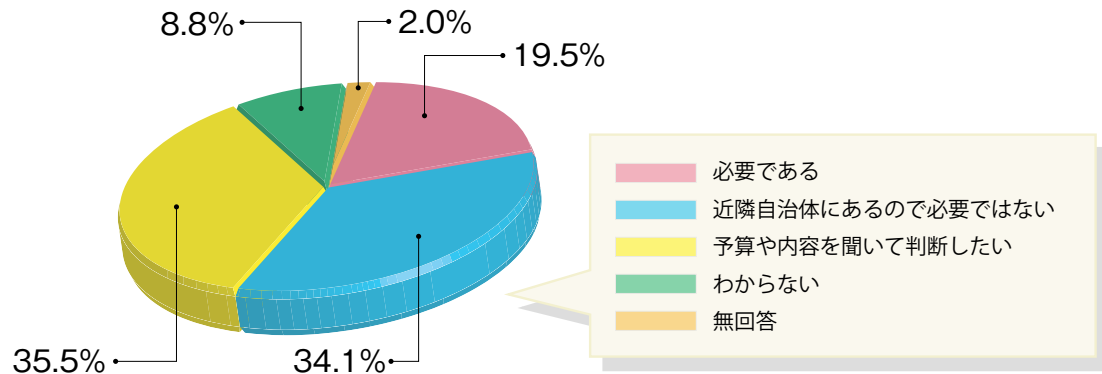
## 公共交通機関を補完している「雪舟くん」について、どう感じているか？



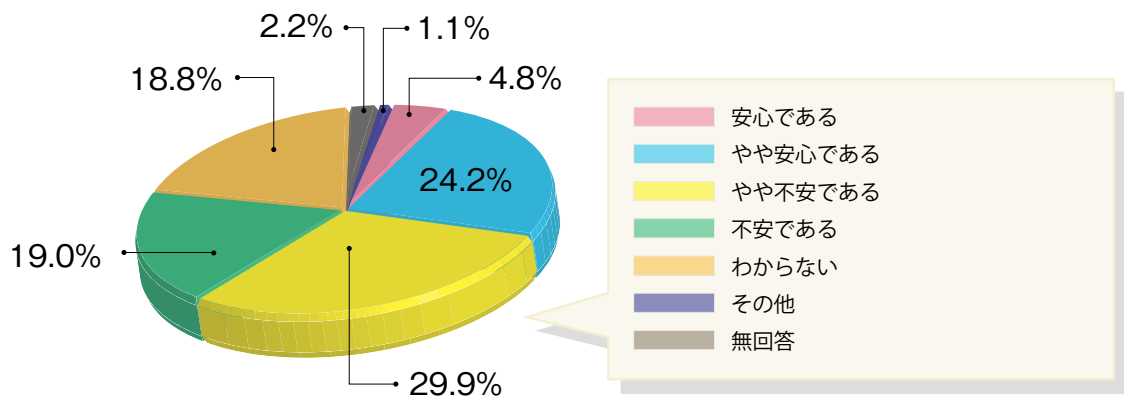
## LRT の導入についての考えは？



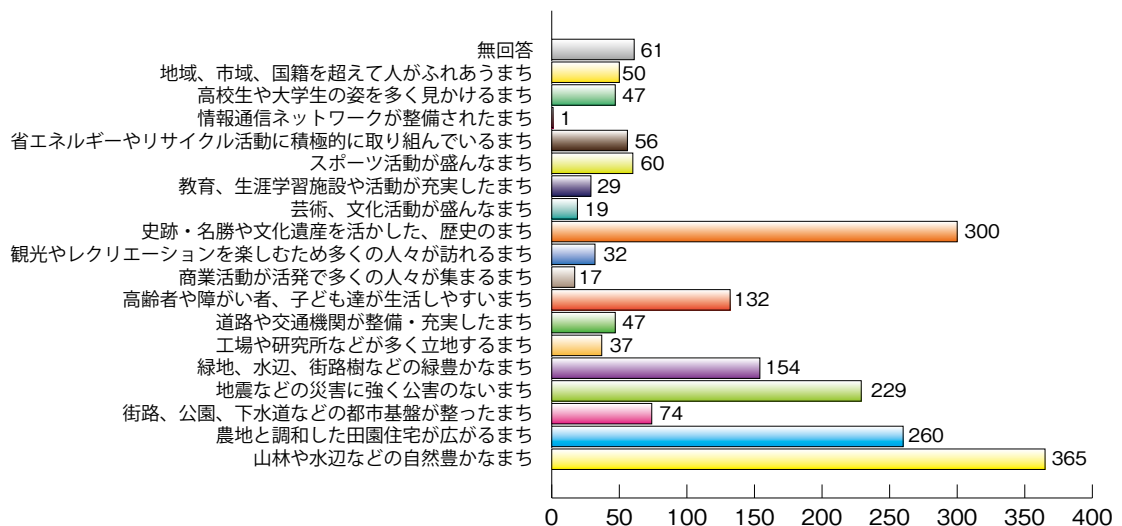
## 市内に美術館や博物館のような文化施設が必要か？



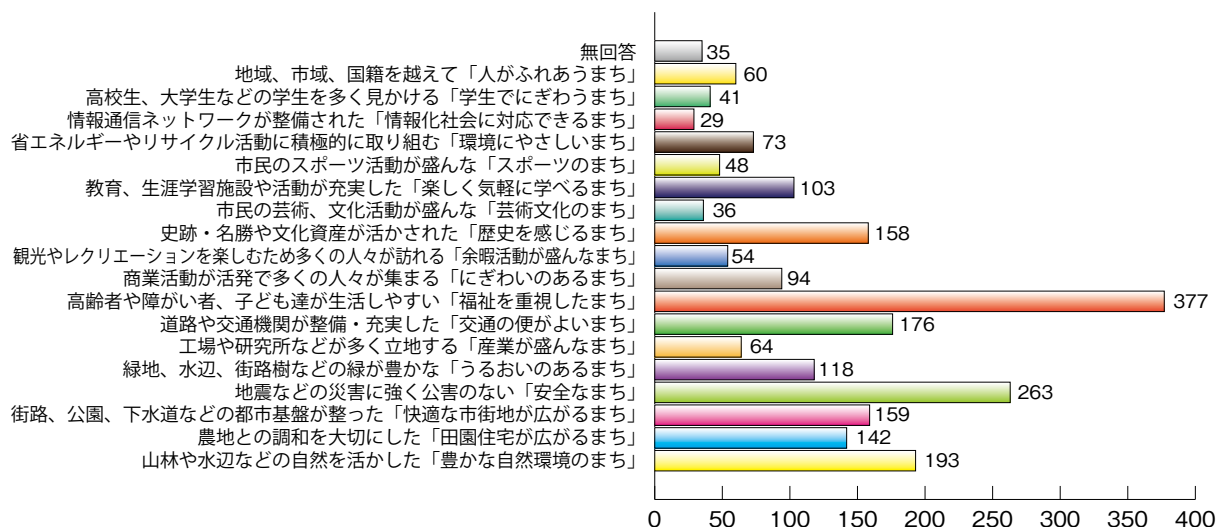
## 市内の防災施設に対する考えは？



## 現在の総社市のイメージを表す言葉は？



## 将来、総社市がどのようなまちになっていくのが望ましいか？



## ○学生アンケート

### ○総社市は好きですか？

高校生： 好き 44.3% 嫌い 3.5%  
中学生： 好き 38.0% 嫌い 4.9%

### ○住みやすいですか？

高校生： 住みよい 70.4% 住みにくい 7.5%  
中学生： 住みよい 80.8% 住みにくい 6.2%

### ○将来、住みたいですか？

高校生： 住みたい 16.5% 住みたくない 27.1%  
中学生： 住みたい 23.5% 住みたくない 16.0%

### ○住みたくない理由

- 交通や買い物など日常生活が不便だから
- 自分のやりたい仕事・職場がないから
- 都会で自立した生活を送りたいから

### ○将来、総社市はどのようにあってほしいですか？

- 1位 高齢者や障がい者、子どもたちが生活しやすい「福祉を重視したまち」…… 45.4%
- 2位 地震などの災害に強く公害のない「安全なまち」…… 31.7%
- 3位 山林や水辺などの自然を活かした「豊かな自然環境のまち」…… 23.3%

## 学生の意見

「商業活動が活発で多くの人々が集まるにぎわいのあるまち」  
「街路、公園、下水道など都市基盤が整った快適な市街地が広がるまち」



## 総社市，岡山市，倉敷市の比較

3市の市民税や固定資産税，都市計画税などの税目別税率は同じだが…総社市では，様々な弱者支援を独自施策として実施

### 3自治体の概要

|                       | 総社市                   | 岡山市                   | 倉敷市                   | 備 考                         |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 面積                    | 211.90km <sup>2</sup> | 789.96km <sup>2</sup> | 355.63km <sup>2</sup> |                             |
| 人口                    | 66,888 人              | 719,584 人             | 477,435 人             | H 27 国勢調査速報値                |
| 人口増加率<br>(H 27/ H 22) | 1.0                   | 1.4                   | 0.4                   | H 27 国勢調査速報値 /<br>H 22 国勢調査 |
| 住民基本台帳人口              | 67,820 人              | 705,310 人             | 483,537 人             | H 27.3.31 現在                |
| 外国人住民の割合              | 1.20                  | 1.48                  | 1.10                  | H 28.1.1 現在。<br>住民基本台帳      |
| 予算規模<br>(H 28 一般会計)   | 272 億 2 千万円           | 2,843 億 2,400 万円      | 1,669 億 1,400 万円      | ※倉敷市は骨格編成                   |
| 財政力指数                 | 0.573                 | 0.780                 | 0.838                 | H 26 年度決算                   |
| 経常収支比率                | 89.5%                 | 87.5%                 | 88.4%                 | H 26 年度決算                   |
| 実質公債比率                | 11.3                  | 10.8                  | 7.2                   | H 26 年度決算                   |

### 5つの基本目標ごとに比較

だれもが住みたくなる総社

|            | 総社市                       | 岡山市               | 倉敷市               | 備 考                                                            |
|------------|---------------------------|-------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------|
| 雪舟くん       | 1 日 229 人が利用<br>(H 26 年度) | —                 | —                 | 予約型の 300 円デマンド交通。<br>登録者数 15,962 人<br>(人口の 23.5%。H 27.3.31 現在) |
| 待機児童数      | 58 人                      | 134 人             | 180 人             | H27.4.1 現在。厚生労働省調べ                                             |
| こにちは赤ちゃん事業 | 100%                      | 91.96%            | 96%               | H26 年度                                                         |
| 小児医療費無料化   | 外来：小 6,<br>入院：中 3         | 外来：未就学,<br>入院：中 3 | 外来：小 6,<br>入院：中 3 | H27 年度                                                         |
| 介護保険料      | 5,200 円                   | 6,160 円           | 5,850 円           | H 27 ～ 29 年度                                                   |

だれもが働きたくなる総社

|          | 総社市                                            | 岡山市 | 倉敷市 | 備 考                                            |
|----------|------------------------------------------------|-----|-----|------------------------------------------------|
| 障がい者千人雇用 | 898 人<br>(H 28.3 現在)                           | —   | —   | 障がい者 1,000 人の雇用を目指すという<br>一大プロジェクト。H 23 年度から実施 |
| 「地食べ」    | 公社による買取とスーパー等<br>での販売。学校給食の総社産<br>野菜の使用率 36.9% | —   | —   | 地食べ登録者 264 人<br>(市内農業者数の約 1 割に該当)              |

だれもが学びたくなる総社

|               | 総社市                                                                     | 岡山市                     | 倉敷市  | 備 考                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------|---------------------------------------------|
| 教育特区<br>(小学校) | 英語教育 (H 26 年度～) をは<br>じめ音楽，体育も組み合わ<br>せて実地 (H 28 年度～)。英語<br>は幼・小・中の一貫教育 | イマージョン<br>教育<br>(外国語活動) | 英語教育 | 英語は教育課程特例校。<br>総社市，岡山市は一部の小学校で実施。           |
| 困窮世帯への学習支援    | 「ワンステップ」を実施                                                             | 実施                      | 実施   | 「ワンステップ」：生活困窮者自立支援法<br>に基づく総社市学習支援事業 (任意事業) |

だれもが訪れたい総社

|                  | 総社市                               | 岡山市 | 倉敷市 | 備 考                                              |
|------------------|-----------------------------------|-----|-----|--------------------------------------------------|
| マラソン大会<br>(出走者数) | そうじゃ吉備路マラソン<br>19,166 人 (2016 大会) | —   | —   | おかやまマラソン 13,952 人 (第 1 回大会)<br>※ 1 万人以上の規模の大会を掲載 |

だれもが働きたくなる総社

|               | 総社市                      | 岡山市                   | 倉敷市                 | 備 考                               |
|---------------|--------------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------------------|
| 地域づくり自由枠交付金制度 | 17 地区で実施                 | —                     | —                   | 地域住民が自ら使途を決定し活用する<br>ことができる交付金を交付 |
| ふるさと納税        | 23,057 件<br>3 億 9,887 万円 | 7,433 件<br>1 億 757 万円 | 1,072 件<br>3,926 万円 | H 27.4 ～ 9 月分。総務省調べ               |

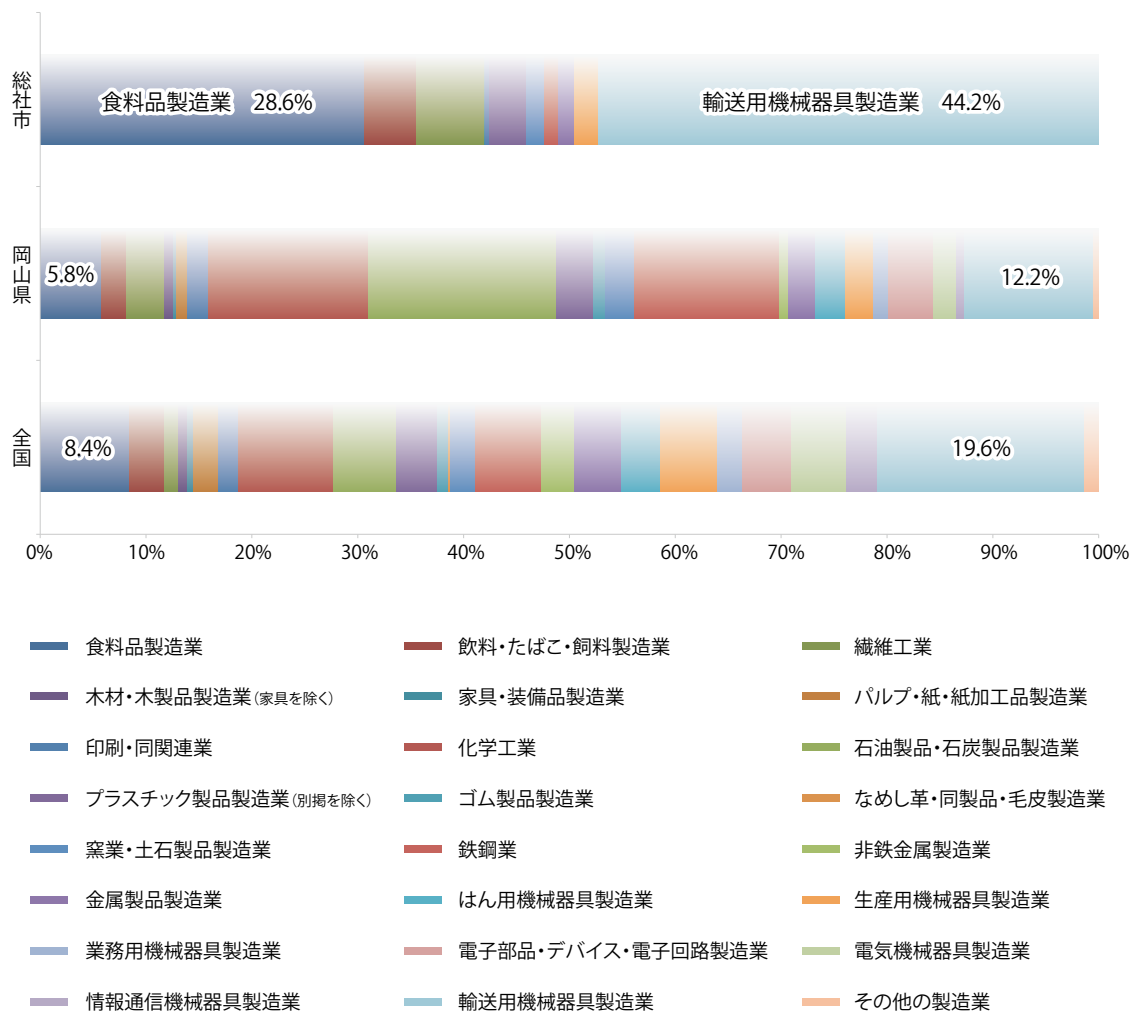


# 地域経済分析システム（RESAS）による産業分析

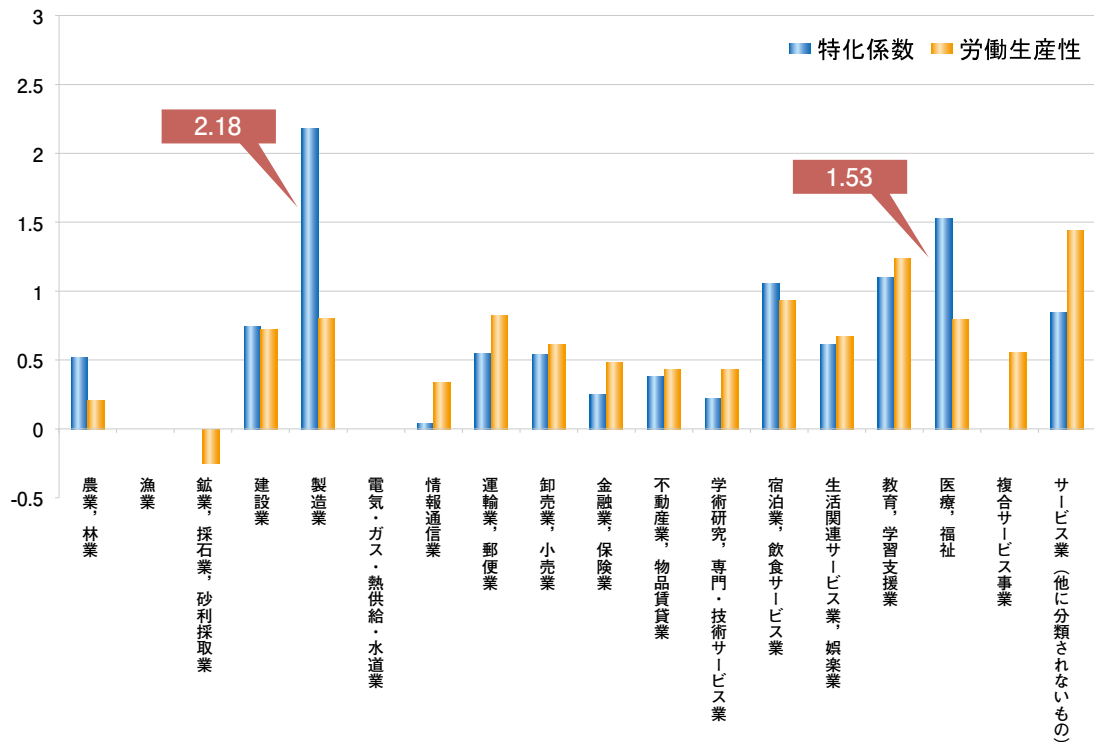
総合計画（総合戦略）の策定にあたり、人口ビジョンをはじめ、重要業績評価指標（KPI）の設定にビッグデータ（地域経済分析システム「RESAS」）を活用しています。

総社市の製造品出荷額は、全国や岡山県と比較して食品製造業と輸送用機械器具製造業の割合が高くなっており、食品製造関連の誘致企業やウイングバレイ等の製造品出荷額が市内の7割強を占めるという特徴を見ることができます。

## 製造品出荷額等（平成24年製造業）



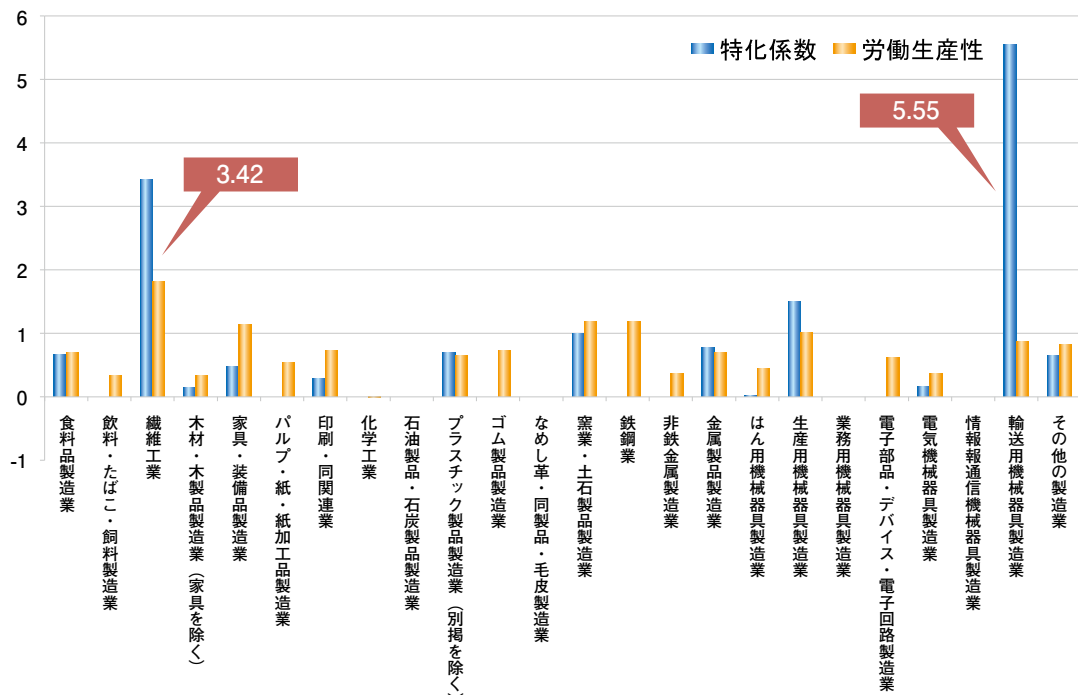
## 特化係数と労働生産性（全産業）



特化係数とは、全国の当該産業の労働生産性の数値を 1 としたときに、地域の当該産業の労働生産性を示す数値となります。

「特化係数（労働生産性）」＝（域内における当該産業の労働生産性）÷（全国の当該産業の労働生産性）

## 特化係数と労働生産性（製造業）



# 国勢調査 市町村別の人口の推移

(単位：人，％)

|         | 平成 7 年    | 平成 12 年   | 平成 17 年   | 平成 22 年   | 平成 27 年<br>(速報値) | 前回対比増減率  |           |           |           |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|----------|-----------|-----------|-----------|
|         |           |           |           |           |                  | H7 → H12 | H12 → H17 | H17 → H22 | H22 → H27 |
| 岡 山 県 計 | 1,950,750 | 1,950,828 | 1,957,264 | 1,945,276 | 1,922,181        | 0        | 0.3       | ▲ 0.6     | ▲ 1.2     |
| 岡 山 市   | 663,346   | 674,375   | 696,172   | 709,584   | 719,584          | 1.7      | 3.2       | 1.9       | 1.4       |
| 倉 敷 市   | 453,618   | 460,869   | 469,377   | 475,513   | 477,435          | 1.6      | 1.8       | 1.3       | 0.4       |
| 津 山 市   | 113,617   | 111,499   | 110,569   | 106,788   | 103,714          | ▲ 1.9    | ▲ 0.8     | ▲ 3.4     | ▲ 2.9     |
| 玉 野 市   | 71,330    | 69,567    | 67,047    | 64,588    | 60,782           | ▲ 2.5    | ▲ 3.6     | ▲ 3.7     | ▲ 5.9     |
| 笠 岡 市   | 60,478    | 59,300    | 57,272    | 54,225    | 50,593           | ▲ 1.9    | ▲ 3.4     | ▲ 5.3     | ▲ 6.7     |
| 井 原 市   | 47,647    | 46,489    | 45,104    | 43,927    | 41,419           | ▲ 2.4    | ▲ 3       | ▲ 2.6     | ▲ 5.7     |
| 総 社 市   | 65,437    | 66,201    | 66,584    | 66,201    | 66,888           | 1.2      | 0.6       | ▲ 0.6     | 1.0       |
| 高 梁 市   | 43,115    | 41,077    | 38,799    | 34,963    | 32,091           | ▲ 4.7    | ▲ 5.5     | ▲ 9.9     | ▲ 8.2     |
| 新 見 市   | 39,891    | 38,492    | 36,073    | 33,870    | 30,677           | ▲ 3.5    | ▲ 6.3     | ▲ 6.1     | ▲ 9.4     |
| 備 前 市   | 44,855    | 42,534    | 40,241    | 37,839    | 35,207           | ▲ 5.2    | ▲ 5.4     | ▲ 6       | ▲ 7       |
| 瀬 戸 内 市 | 39,228    | 39,403    | 39,081    | 37,852    | 36,983           | 0.4      | ▲ 0.8     | ▲ 3.1     | ▲ 2.3     |
| 赤 磐 市   | 43,011    | 43,813    | 43,913    | 43,458    | 43,218           | 1.9      | 0.2       | ▲ 1       | ▲ 0.6     |
| 真 庭 市   | 56,607    | 54,747    | 51,782    | 48,964    | 46,137           | ▲ 3.3    | ▲ 5.4     | ▲ 5.4     | ▲ 5.8     |
| 美 作 市   | 36,140    | 34,577    | 32,479    | 30,498    | 27,956           | ▲ 4.3    | ▲ 6.1     | ▲ 6.1     | ▲ 8.3     |
| 浅 口 市   | 38,595    | 37,724    | 37,327    | 36,114    | 34,256           | ▲ 2.3    | ▲ 1.1     | ▲ 3.2     | ▲ 5.1     |
| 和 気 町   | 17,227    | 16,815    | 16,180    | 15,362    | 14,410           | ▲ 2.4    | ▲ 3.8     | ▲ 5.1     | ▲ 6.2     |
| 早 島 町   | 11,562    | 11,915    | 11,921    | 12,214    | 12,159           | 3.1      | 0.1       | 2.5       | ▲ 0.5     |
| 里 庄 町   | 10,583    | 10,782    | 10,823    | 10,916    | 10,937           | 1.9      | 0.4       | 0.9       | 0.2       |
| 矢 掛 町   | 16,803    | 16,230    | 15,713    | 15,092    | 14,213           | ▲ 3.4    | ▲ 3.2     | ▲ 4       | ▲ 5.8     |
| 新 庄 村   | 1,101     | 1,051     | 1,019     | 957       | 866              | ▲ 4.5    | ▲ 3       | ▲ 6.1     | ▲ 9.5     |
| 鏡 野 町   | 15,731    | 15,091    | 14,059    | 13,580    | 12,853           | ▲ 4.1    | ▲ 6.8     | ▲ 3.4     | ▲ 5.4     |
| 勝 央 町   | 11,669    | 11,428    | 11,263    | 11,195    | 11,117           | ▲ 2.1    | ▲ 1.4     | ▲ 0.6     | ▲ 0.7     |
| 奈 義 町   | 7,230     | 6,690     | 6,475     | 6,085     | 5,899            | ▲ 7.5    | ▲ 3.2     | ▲ 6       | ▲ 3.1     |
| 西 栗 倉 村 | 1,902     | 1,831     | 1,684     | 1,520     | 1,472            | ▲ 3.7    | ▲ 8       | ▲ 9.7     | ▲ 3.2     |
| 久 米 南 町 | 6,266     | 6,115     | 5,690     | 5,296     | 4,909            | ▲ 2.4    | ▲ 7       | ▲ 6.9     | ▲ 7.3     |
| 美 咲 町   | 18,254    | 17,562    | 16,577    | 15,642    | 14,451           | ▲ 3.8    | ▲ 5.6     | ▲ 5.6     | ▲ 7.6     |
| 吉備中央町   | 15,507    | 14,651    | 14,040    | 13,033    | 11,955           | ▲ 5.5    | ▲ 4.2     | ▲ 7.2     | ▲ 8.3     |



# 用語の解説

## アルファベット，数字

### A

#### AMDA

昭和 59 年に設立し、岡山県に本部を置く AMDA は、アジア、アフリカ、中南米において戦争・自然災害・貧困等により社会的・経済的に恵まれず社会から取り残されている人々への医療救援と生活状態改善のための支援を実施している N G O ・国際医療ボランティア組織。平成 7 年に国連経済社会理事会（UNECOSOC）より「特殊協議資格」が与えられ、平成 18 年に「総合協議資格」へ昇格。平成 13 年に、岡山県から「特定非営利活動法人」格を取得。5 団体[AMDA インターナショナル・（特活）アムダ・（特活）AMDA 国際医療情報センター・AMDA 国際福祉事業団・（特活）AMDA 社会開発機構]と 1 機関（AMDA 国連代表）から構成されている。

### I

#### ICT

Information and Communication Technology の略で、情報・通信に関連する技術一般の総称。I T とほぼ同様の意味で用いられる。学校における I C T 機器としては、教職員用・児童生徒用コンピュータ、プロジェクターや実物投影機、校内 L A N 等がある。

### L

#### LRT

Light Rail Transit の略で、軽量軌道交通。軽量な中小規模の鉄道や改良された路面電車システム。専用化された軌道敷を近代化された車両が走るのが特徴。

### N

#### NGO

Non-Governmental Organizations の略。国際協力に携わる「非政府組織」、「民間団体」のことを意味し、開発、人権、環境、平和など地球規模の問題に国境を越えて取り組んでいる非営利の民間組織。

#### NPO

Nonprofit Organization の略で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称。福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力などの様々な分野で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されている。

### P

#### PDCA サイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

### あ行

### あ

#### 赤米の神事

赤米は、総社市新本の本庄地区と新庄地区で代々栽培され、両地区の国司神社で赤米を神前にお供えする「赤米の神撰」という神事が行われている。

### い

#### いきいき百歳体操

負荷を増やすことの出来る重錘バンドを手首や足首につけて行う高齢者のために開発された体操。虚弱な高齢者でも実施できるように椅子を使う運動を中心に、準備体操、筋力運動、整理体操から構成される。

### え

#### 英語特区（教育特区）

山田幼稚園・維新幼稚園・維新小学校・昭和小学校・昭和中学校がそれぞれ連携し、一貫性のある特別な英語教育を提供することにより、豊かなコミュニケーション能力と国際的視野を身につけた人材を育成するため平成 26 年度 4 月からスタートした。

また、平成 28 年 4 月から教育特区として英語教育に加えて池田幼稚園・池田小学校では、健やかな体づくりを目的とした体育教育を、新本幼稚園・新本小学校では、音楽に触れる機会を増やし、専門的な技術と豊かな感性を養う音楽教育を始める。

### お

#### 岡山連携中枢都市圏連携

岡山圏域は岡山市、津山市、玉野市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、和気町、早島町、久米南町、美咲町、吉備中央町の 8 市 5 町で、地域において相当の規模と中核性を備える圏域において、市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする。

### か行

### か

#### 学校力向上きらめき交付金制度

学校長の裁量によって学校独自の事業に充てることができる一括交付金制度。学校力の向上や各小中学校の独自性・特色ある教育活動の推進などを目的に創設された。

#### ガラス張り公開市長室

市が取り組む重要施策や部長マニフェスト、第 2 次総合計画などについて、市民と行政が建設的な意見交換をする場。市側からは、市長、副市長、教育長、部長級職員など幹部職員が出席する。部長マニフェストは、総合政策、総務、市民生活、保健福祉、産業、建設、環境水道の各部と、消防、教育委員会などの組織ごとに、取り組む業務名やその内容、目標数値などをまとめたものである。

### く

#### くるみん

少子化対策や子育て支援に積極的に取り組む企業の認定マークで、赤ちゃんを優しく、温かく、“おくるみ”で包むことを表している。

### け

#### 健康寿命

平均寿命のうち、健康で活動的に暮らせる期間。WHO（世界保健機関）が提唱した新しい指標で、平均寿命から、衰弱・病気・認知症などによる介護期間を差し引いた寿命のこと。

## こ

## 子育て王国そうじゃ

まち全体で子どもを見守り、育てていこうとする気運を醸成し、総社の地域性を生かしながら、市民・企業・市が協働して「子育て王国」づくりを目指す。

## さ行

## さ

## 産学金官

産業界（民間企業）、学校（教育・研究機関）、金融機関、官公庁（国・地方自治体）の四者

## し

## 市街化区域

都市計画法に基づく都市計画区域のうち、市街地として積極的に開発・整備する区域

## 自主防災組織

災害対策基本法第5条第2項において規定された地域住民による任意の防災組織。「自分たちの地域は自分たちで守る。」という連帯感に基づき、地域住民が自発的に初期消火、救出・救護、集団避難、給水・給食等の防災活動を行う団体（組織）

## 重要業績評価指数（KPI）

組織や事業、業務の目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

## 出入国管理及び難民認定法

外国人の入国・上陸・在留・出国・退去強制、日本人の出国・帰国、難民の認定などについて規定する法律。

## 障がい者千人雇用

平成23年度から平成27年度までの5年間で、障がい者の雇用1000人を目指した総社市独自の施策で、継続して実施するもの。

働きたい障がい者と雇用したい企業との間に入り支援を行う障がい者千人雇用センターとハローワーク総社と連携して、きめ細やかな支援を行っている。

## 新市まちづくり計画

3市町村が合併し、新しい市のまちづくりを推進していくための基本方針を示すものです。この基本方針に基づいたまちづくりをすすめていくことによって、合併後の新市の速やかな一体化を促進し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図ろうとするものです。計画の期間は平成17年度から平成31年度までの15か年とする。

## せ

## 雪舟くん

交通空白地の解消と十分でない公共交通網を補う意味から生まれた、予約型で乗合方式のみんなの乗り物、総社市新生活交通の愛称。8人乗りや10人乗りのワンボックスカーを使い、戸口から戸口を結び、1人1乗車300円で目的地まで送ってくれます。運行は、市とバス・タクシー事業者との共存共栄方式で行う。平成23年4月から運行。

## そ

## そうじゃ教育大綱

教育行政の指針となる心の教育を重視する3つの大綱「総社を愛す子供」、「心優しい子供」、「礼儀正しい子供」を示したもの。

## そうじゃ式早期一貫サポートシステム

1人1人の個性に応じた支援・支援の必要性を早期発見・保幼小の連携の推進を目的とした施策

## た行

## た

## 第2次救急病院

入院治療を必要とする救急医療を担う医療機関として都道府県で定められた病院

## 第6次産業

農業者等が生産（1次産業）した農畜水産物を素材として食品加工（2次産業）することによって付加価値を高め、流通・販売（3次産業）するという事業の融合等により地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を行う取組。近年では、6次産業化による農山漁村の活性化が注目を浴びている。

## 高梁川流域中枢都市圏連携

高梁川流域自治体7市3町（新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市）で連携して「地方中枢拠点都市圏」を構成し、地域の総合力をもって人口減少、少子高齢化社会への対応と圏域全体の経済成長を目指そうという取組

## ち

## 地域づくり自由枠交付金制度

全国的な人口減少、少子高齢化の進展により、地域活力の低下が懸念され、社会保障費の増加等により、行政ができることの範囲もせばめられていくと予想される。

こうした状況を打破していくためには、住民同士の話し合い、支えあいによる地域づくり、つまり、地域でできることはできるだけ地域のみんで話し合い、決めていただくことが重要になってくる。そこで、地域主体で地域づくりを行う組織である「地域づくり協議会」を作っていただき、そこに、地域の方々が自ら用途を決定し活用することができる交付金を交付していくもの。平成27年4月から、総社市内全域でスタートした。

## 地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるようにすることをめざした地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関。本市には、6か所の地域包括支援センターがある。

## 地区計画制度

地区単位の総合的なまちづくり計画を、地域住民の参加を得て都市計画として定めるもの。建物用途、建ぺい率、容積率、壁面の位置、敷地面積の最低限度等についての規定を定めることができる。



## 地産地消

「地域生産・地域消費」を略した言葉で、地域で生産されたものをその地域で消費すること。

## 地食べ

地元の産品をみんなで食べようの意味を含めた、総社の地産地消を推進する取組の愛称。市内で生産される農産物等を学校給食やスーパーに安定して供給できる仕組みを構築することで、本市農業の活性化を図るとともに、食育を推進する。

と

## 都市アメニティ

都市計画が目指す居住環境の快適性。数量的に捉えにくい歴史的環境や自然景観などにも配慮した総合的な住み心地の良さ。

な行

に

## 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。

は行

ひ

## ピア・サポート

仲間同士（子どもたち同士）で相互に支え合う活動。得た知識やスキルをもとに、仲間を思いやり支える実践活動を「ピア・サポート活動」と呼ぶ。

## ビッグデータ

市販されているデータベース管理ツールや従来のデータ処理アプリケーションで処理することが困難なほど巨大で複雑なデータ集合の集積物を表す用語

ふ

## ファシリティマネジメント

効率的な活動のために行う、建築物の整備・人員組織などについての総合的な管理

ほ

## 放課後児童クラブ

保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学しているおおむね 10 歳未満の児童に対し、授業の終了後に児童厚生施設等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業（放課後児童健全育成事業）

ま行

ま

## まち・ひと・しごと創生総合戦略

「長期ビジョン」を踏まえ、平成 27 年度を初年度とする 5 か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの。

## まち・ひと・しごと創生長期ビジョン

日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後取り組むべき将来の方向を提示するもの。

## まち・ひと・しごと創生法

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち（国民一人一人が夢を持ち、潤いある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成）・ひと（地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保）・しごと（地域における魅力ある多様な就業の機会の創出）創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的とする。

や行

よ

## 4 R

持続可能な循環型社会の形成に向けた取組の一つである 3 R（Reduce リデュース：ごみの発生抑制、Reuse リユース：再使用、Recycle リサイクル：再生利用）に（Refuse リヒューズ：断る）を加えた 4 つの R のこと。

ら行

り

## リーマンショック

平成 20 年 9 月に米国の投資銀行であるリーマン・ブラザーズが破綻したこと。これが世界的な金融危機の引き金となったことに照らして呼ぶ表現

わ行

わ

## ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和。「国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」ことを指す。

## ワンステップ

子どもたちの居場所づくり・学習の機会を提供・将来へのきっかけづくりを目的とし、生活困窮家庭の中学生を対象に岡山大学生等による学習支援を行う。





## 第2次総社市総合計画

### そうじゃ総合戦略

発行／平成28年3月  
総社市政策調整課